Proj. No. 113
S. A. No. 15022-I
Seek No.
Item No. 24B

極秘

昭和十八年度基礎研究第二課題（其ノ二）作業

独米英蘇・重慶ノ國力判断（三分冊ノ二）

經濟

總力戰研究所調製

文書番號	總研丙第五號
一連番號	第5號
調製年月日	昭和十八年九月一日
調製部數	貳拾部
頁數又ハ総數	四參六頁
廃棄	所内ハ退所ノ際返却 所外ハ指定期間以内ニ返却

国立公文書館
分類 返 赤
配架番号 3A 14 10-4

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

滿邊經濟戰力ノ判定

森本研究生
日向研究生
越村研究生
増田研究生
山本研究生

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

作業分擔目次

三八イ

第一　人的資源……日向研究生
第二　物的資源……森本研究生
第三　生産力……山本研究生
第四　食糧……増田研究生
第五　財政金融……越村研究生
第六　交通運輸……日向研究生
第七　今後ノ經濟戰力ノ見透……山本研究生

軍極秘

外機密

10-3

昭和十八年度基礎研究
第二課題（其ノ二）作業

独・米・英・蘇・重慶ノ國力判断（其ノ一）

政治

戦争

Proj. No. 113
A. No. 130221
Rack No. 二、一
Item No. 24A

文書番號 總研甲彰 第
一連番號 5 號
調製年月日 昭和十八年九月一日
調製部數 貳拾 部
謄寫又ハ印刷部數 貳、五〇 頁
處理 所内ハ退所ノ際返却 所外ハ指定期間及内ニ返却

總力戦研究所調製

国立公文書館
分類 ㊀ ㊁
配架番号 3 A 14 10-3

昭和十八年基礎研究　第二課題（其ノ二）

「獨、伊、米、英、蘇、重慶ノ國力判斷」實施要綱

昭和十八年七月三日　稿

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第一課題

一　軍事

〔昭和十八年夏ニ於ケル軍事上ヨリ見タル一般情勢

二　政治

〔昭和十八年夏ニ於ケル獨、伊、英、米、蘇、重慶ノ情勢

(イ)政情

(ロ)國民生活

(ハ)民心ノ動向

(ニ)英、米、蘇、重慶ノ戰爭遂行ノ爲ニスル協力ノ推移及其ノ限界

三　經濟

〔昭和十八年夏ニ於ケル獨、伊、英、米、蘇、重慶（勢力圏ヲ含ム）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ經濟戰力ノ判定

(イ)人的資源

(ロ)物的資源

(ハ)生產力

(ニ)食糧

(ホ)財政金融

(ヘ)交通運輸

(ト)今後ノ經濟戰力ノ見透

(二)

(イ)樞軸國營ノ經濟戰力强化方策ト聯合陣營ニ對スル經濟戰方略

(ロ)聯合陣營ノ經濟協力ノ狀況

四　特定地域

(一)印度、濠洲、西亞及アフリカノ左記三點ヨリスル實情研究

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(イ) 聯合陣營ノ戰力培養地トシテノ價値（經濟的實情ノ究明）
(ロ) 聯合陣營ノ抗戰據點トシテノ價値（軍事的實情ノ究明）
(ハ) 政情及英米ノ政治的施策（政治的實情ノ究明）

第三　擔當所員

所員ノ擔當ハ左表ニ依ル（總括　西村所員）

獨逸	西村所員	
伊太利	堀所員	
米國	山添所員	
英國	大庭所員	
蘇聯邦シベリア	桑原所員	
蘇聯邦	西村所員	
印度	樹口所員	
蒙洲	樹口所員	

西亞　桑原所員
アフリカ　堀所員

第三　班ノ構成

一、「帝國ノ國力判斷」實施要綱ノ例ニ據ル

二、班ノ構成ハ別表一ノ通トス

三、小班ノ構成ハ別表二ノ通トス

第四　實施日程

一、本研究ハ八月六日發足シ同月二十五日終了ス

二、作業提出及研究會ノ日程ハ別表三ニ據ル

第五　作業

一、昭和十七年度第四回基礎研究ノ作業ハ資料トシテ之ヲ活用ス

二、作業ノ書式ハ「帝國ノ國力判斷」實施要綱ノ例ニ據ル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第六　研究會

一、「帝國ノ國力判斷」實施要綱ノ例ニ據ル

了

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

別表一

作業班ノ編成

公文　縄尾
川淵　金坂
熊野　森本
（兼）古宇田

岩田
掛川　石井　吉澤
（兼）日向　（兼）小島
（兼）久武　（兼）澤邊

別表一

第一軍事班　作業班ノ浮成

中村（雅）　古宇田

第二収治班

宮田　足立　日向

吉武　（兼）中村（雅）　（兼）荒　（兼）山本

佐久武　佐藤（忠）　小島

（兼）増田　（兼）三枝　佐藤（朝）

第三編成班

山本　越村　入江　岩田　掛川　（兼）日向　（兼）久武

三枝　村田（繁）　今井　石井　吉澤　（兼）小島　（兼）澤邊

成田　村田（愛）　公文　川崎　熊野　（兼）荒

藤原　中村（宏）　北澤　（兼）藤原　（兼）古宇田

宮田　今泉　澤邊　（兼）熊野　（兼）越村

稲田　増田　縄尾　令坂　森本　（兼）古宇田

荒

大久保　中寺

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

裏面白紙

別表二

小班ノ專成

第一 軍事班

中村 古宇田 藤原

第二 政治班

イ 獨伊班 ○日向 寺中 佐藤(朝) 中村(雅) 増田

ロ 英國班 小島 足立 ○中村(宏) 藤原 熊野

ハ 米國班 吉武 ○佐藤(忠) 大久保 荒 三枝

ニ 蘇聯班 青木 植田 ○北澤 古宇田 越村

ホ 瓜哇班 宮田 ○今泉 澤邊 山本 古宇田

ヘ 久武 小島 ○吉武 中村(雅) 荒

(○印ヲ附シタルハ幹事)

第三 經濟班

イ 獨伊班 ○山本 藤本 越村 日向

ロ 英國班 村田(蓁) ○今井 岩田 川淵 小島

ハ 米國班 三枝 入江 ○加野 吉澤 荒

ニ 蘇聯班 稻垣 村田(豐) ○練尾 石井 古宇田

ホ 重慶班 ○公文 金坂 掛川 敢田 久武 澤邊

ヘ 山本 今井 ○川淵 熊野 吉澤 藤島

公文

裏面白紙

第四　特定地域

(一)　印度

(イ)（經濟的實情ノ究明）

山本　○三枝　村田（繁）　金坂　村田（豊）

(ロ)（軍事的實情ノ究明）

中村　○古宇田　藤原　荒

(ハ)（政治的實情ノ究明）

日向　大久保　○青木　澤邊

(二)　濠洲

(イ)（經濟的實情ノ究明）

飯田　○増田　川淵　掛川　入江

(ロ)（軍事的實情ノ究明）

中村　古宇田　藤原　○荒

(ハ)（政治的實情ノ究明）

植田　青木　中村（宏）○久武

(三)　西亞

(イ)（經濟的實情ノ究明）

○越村　公文　岩田　桑本　熊垣

(ロ)（軍事的實情ノ究明）

○中村　古宇田　藤原　荒

(ハ)（政治的實情ノ究明）

○小島　足立　佐藤（明）　今泉

(四)　アフリカ

(イ)（經濟的實情ノ究明）

○吉澤　熊野　綿尾　石井　今井

(ロ)（軍事的實情ノ究明）

中村　古宇田　○藤原　荒

(ハ)（政治的實情ノ究明）

佐藤（忠）○寺中　吉武　北澤

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

別表三

第一　作業及研究會日程表

六	金	作業	體育
七	土	作業	
八	日		
九	月	作業	體育
一〇	火	作業	體育
一一	水	作業	體育
一二	木	作業	體育
一三	金	作業提出	體育
一四	土	作業	
一五	日		
一六	月	研究會	體育
一七	火	作業	體育
一八	水	作業提出	體育
一九	木	作業	體育
二〇	金	研究會	體育
二一	土	作業	
二二	日		
二三	月	作業提出	體育
二四	火		體育
二五	水	研究會	體育

第二　作業提出日割表

一、第一次作業提出日時
　十三日正午

二、第一次作業提出課題左ノ通
　軍事班

「昭和十八年度ニ於ケル軍事上ヨリ見タル一般情勢」

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

政治班

イ 獨、伊、英、米ノ情勢

經濟班

イ 獨、伊、英、米ノ經濟戰力ノ判定

三、第二次作業提出日時

十八日正午

四、第二次作業提出課題左ノ通

政治班

イ 蘇、重慶ノ情勢

ロ 英、米、蘇、重慶ノ戰爭遂行ノ爲ニスル協力ノ推移及其ノ限界

經濟班

イ 蘇、重慶ノ經濟戰力ノ判定

ロ 獨、伊、英、米、蘇、重慶ノ今後ノ經濟戰力ノ見透

五、第三次作業提出日時

二十三日正午

六、第三次作業提出課題左ノ通

特定地域ニ關スル作業

七、作業ハ小班幹事ヨリ擔當所員ニ提出スベシ

（終）

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

極秘

昭和十八年兵燹研究　第二課題（其ノ二）

「獨、米、英、蘇、重慶、國力判斷」實施要綱（訂正）

昭和十八年八月五日稿

別表

作業及研究會日程表

六	金	作業	體育
七	土	作業	體育
二八	土	研究會	體育
二九	日		
三〇	月	研究會	體育
三一	火	研究會	體育

別表

作業及研究會日程表

六	金	作業	體育
七	土	作業	體育
八	日		
九	月	作業	體育
一〇	火	作業	體育
一一	水	作業	體育
一二	木	作業	體育
一三	金	作業提出(午正)・作業	體育
一四	土	作業	體育
一五	日		
一六	月	作業	體育
一七	火	研究會	體育
一八	水	作業提出(午正)・研究會	體育
一九	木	作業	體育
二〇	金	作業	體育
二一	土	研究會	體育
二二	日		
二三	月	作業提出(午正)・研究會	體育
二四	火		
二五	水		
二六	木	職場體驗	
二七	金		
二八	土		
二九	日		
三〇	月	研究會	體育
三一	火	研究會	體育

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

軍極秘

昭和十八年夏ニ於ケル軍事上ヨリ見タル一般情勢

一 独ソ戦ノ現況　中村研究生
二 地中海方面ノ戦況　荒研究生
三 航空戦状況一般　藤原研究生
四 独ノ通商破壊戦　荒研究生

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、独ソ戦ノ現況

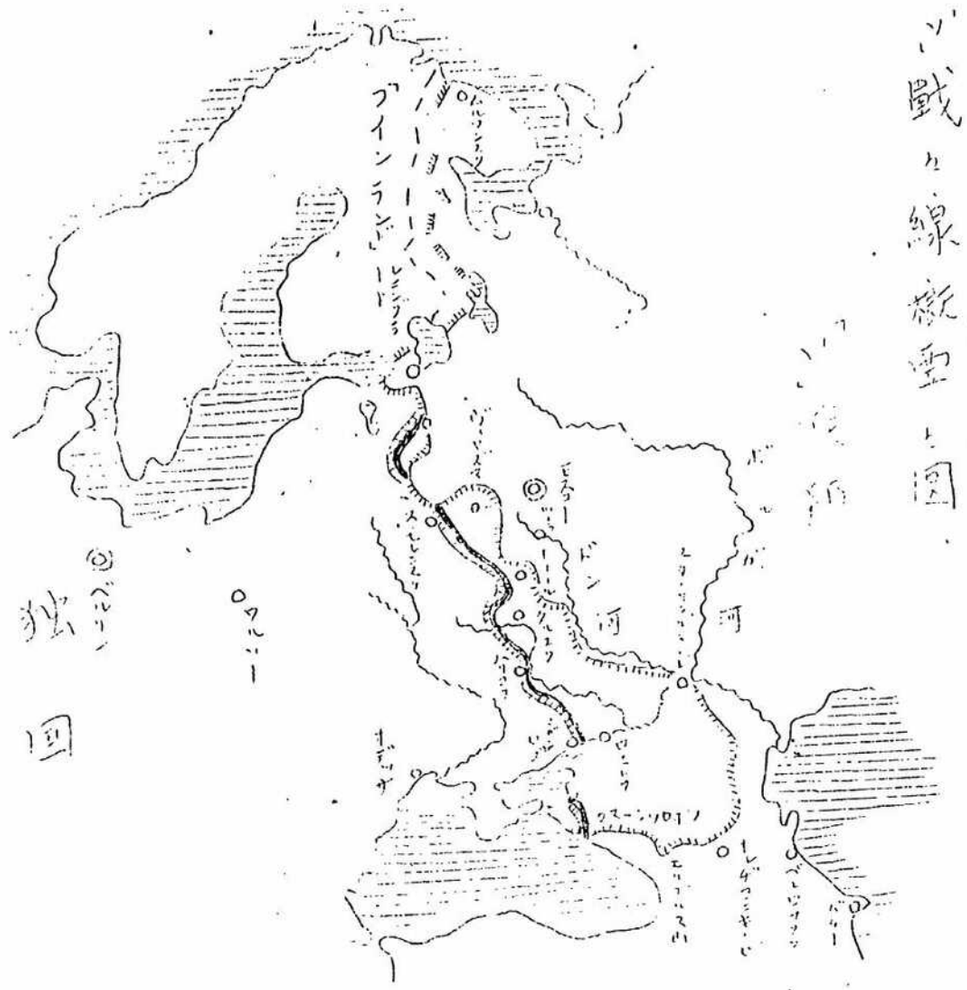
独ソ戦ノ線概要ヲ図ニ

三、ソ蘇戦線ノ変化ナシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、独ソ戦ノ現況

独ソ戦ノ線概要ト図



備考

一、昭和十七年十月末ノ戦線ヲ示ス。

二、昭和十八年八月中旬ノ戦線ヲ示ス。

三、黒線ハ戦線ヲ示ス。

独国

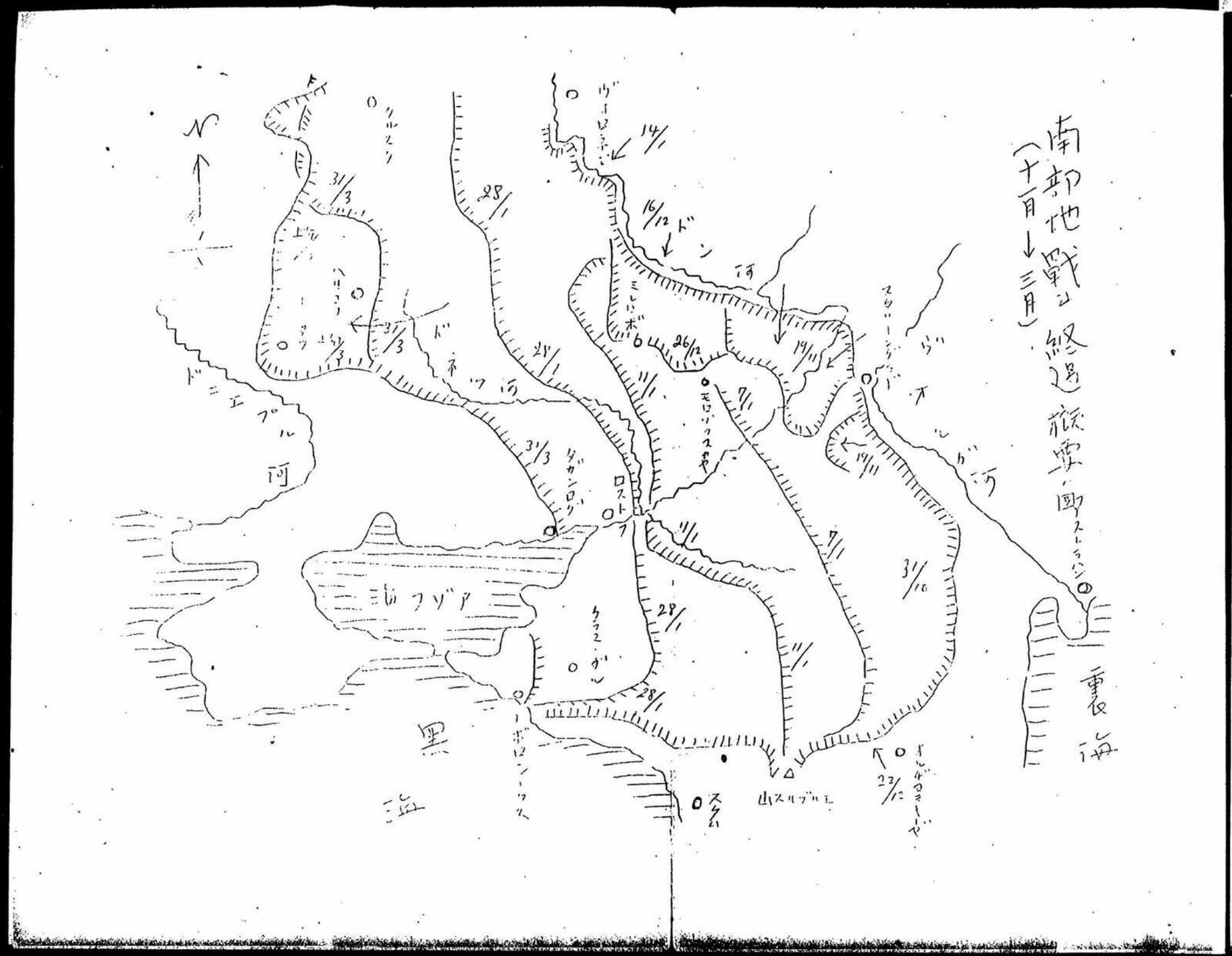
ソ連

一A

二

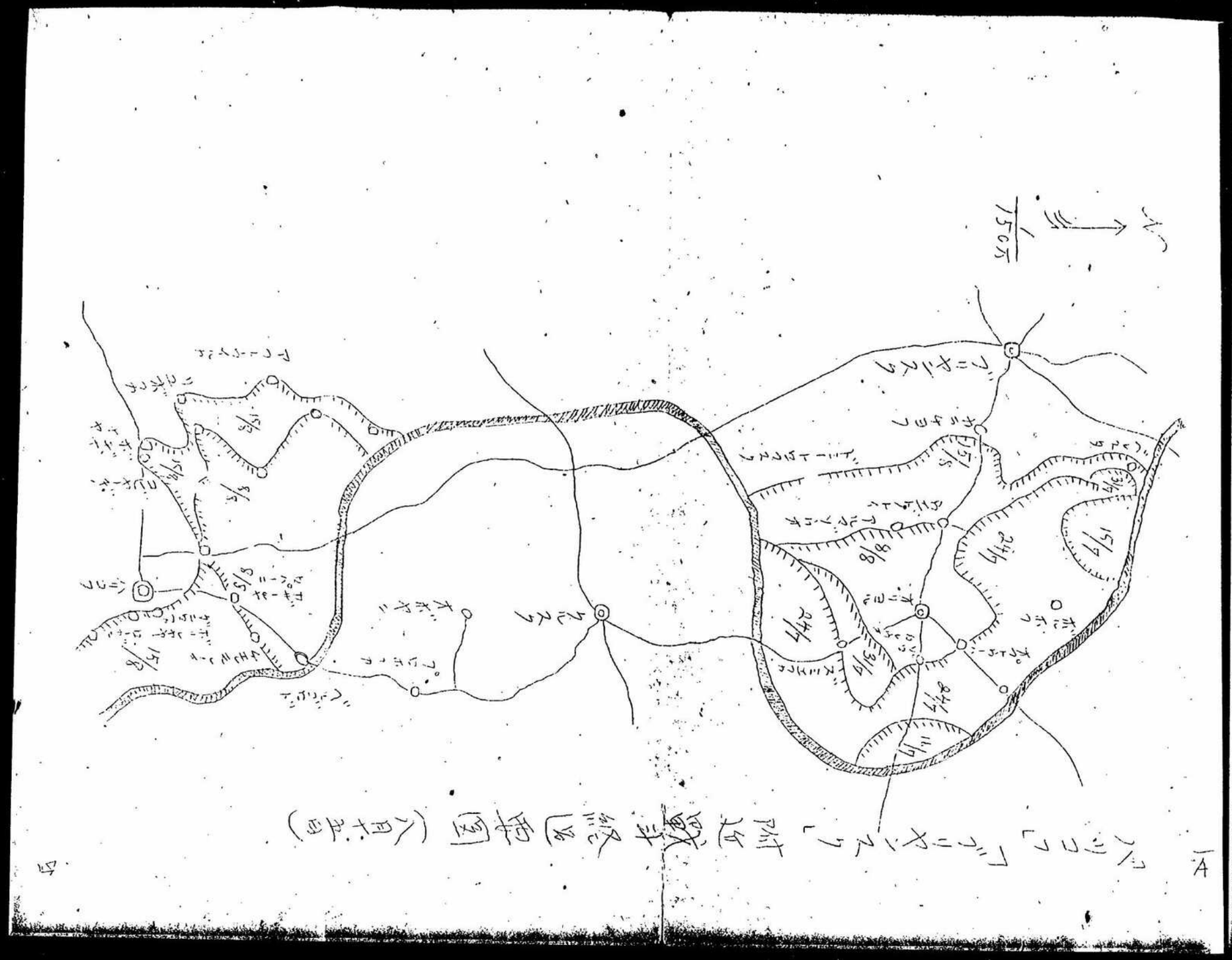
裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



「ベンガル」「ビルマ」及び「マレー」地方概略鉄道略図 (ノモンハン)

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

独ソ戰況ノ説明

一、昨年冬季攻勢ノ概要。

イ、ソ軍ハ十一月十九日ヨリ約四〇師団ヲ以テスターリングラード地区東西正面ニ対シ攻勢ヲ開始シ該方面ニアリシ四維軍ヲ圧迫シ市ヲ完全ニ包囲シテ之ヲ孤立セシム。独軍ノ之ニ対スル反撃モ遂ニ効ヲ奏セズ。

ロ、更ニソ軍ハ十二月十六日ヨリ約三〇師団ヲ以テミレロボ北方地区ニ対シ攻勢ヲ開始シ十二月下旬概ネミレロボ東西ノ線ニ進出セリ。

ハ、ゴ軍ハ右反事ニ基ニ「ゴーカサス」ヘテレリ、何時
等ニ於テモ夫々攻勢ノ実施ニ
ニ、敵軍ハ以上ノ如キ強い軍ノ攻勢ニ対シ大勢ニ洞
察シテ、自主的ニ戰線ノ整理ニ以テ後圍ヲ
策スベシ、ゴーカサス、ドニエル河下流及モスクワ
西方ノ戰線ヲ後退セシメ概ネ「ロストフ」南北
線ニ態勢ヲ敵ヘントセシモ其後ノ軍ノ圧迫
急ニシテ遂ニ「ドニエプル」河近ク迄後退止ム
ナキニ至レルモ 敵軍ノ反事効ヲ奏シ概ネ
「タガンログ」「ハリコフ」東側「クルスク」西方「オリヨル」東方
「ヴィヤズマ」西方「ルジェフ」東側「ベレーキ」西側ノ新戦
線ヲ形成シ三月末冬季作戦ヲ終ル

六、

めくれず

尚此間ニ於テハ独軍ハ二月二日遂ニ降伏ス。

8. 冬季攻勢間ニ於ケル両軍損害左ノ如シ

イ. 独側ノ発表ニ依ル 独軍ニ於ケル損害

十一月一日↓三月三十一日

飛行機 五〇九。 戦車 九一九。

火砲 二〇三六〇。 戦死 八五万

捕虜 三四三五三五。

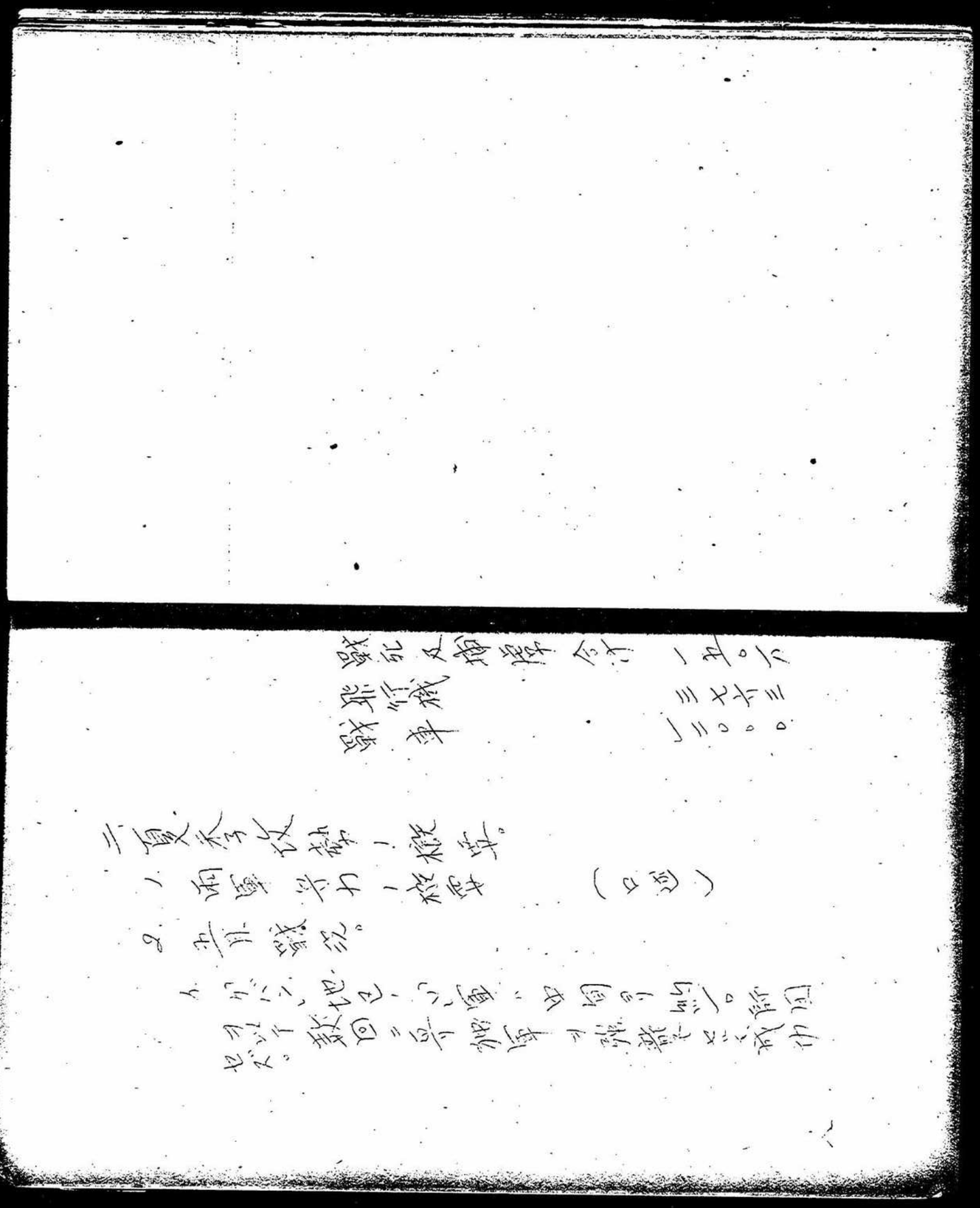
ロ. 独軍側ノ発表ニ依ル軍ニ於ケル損害

十一月一日↓三月末日

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



ハ

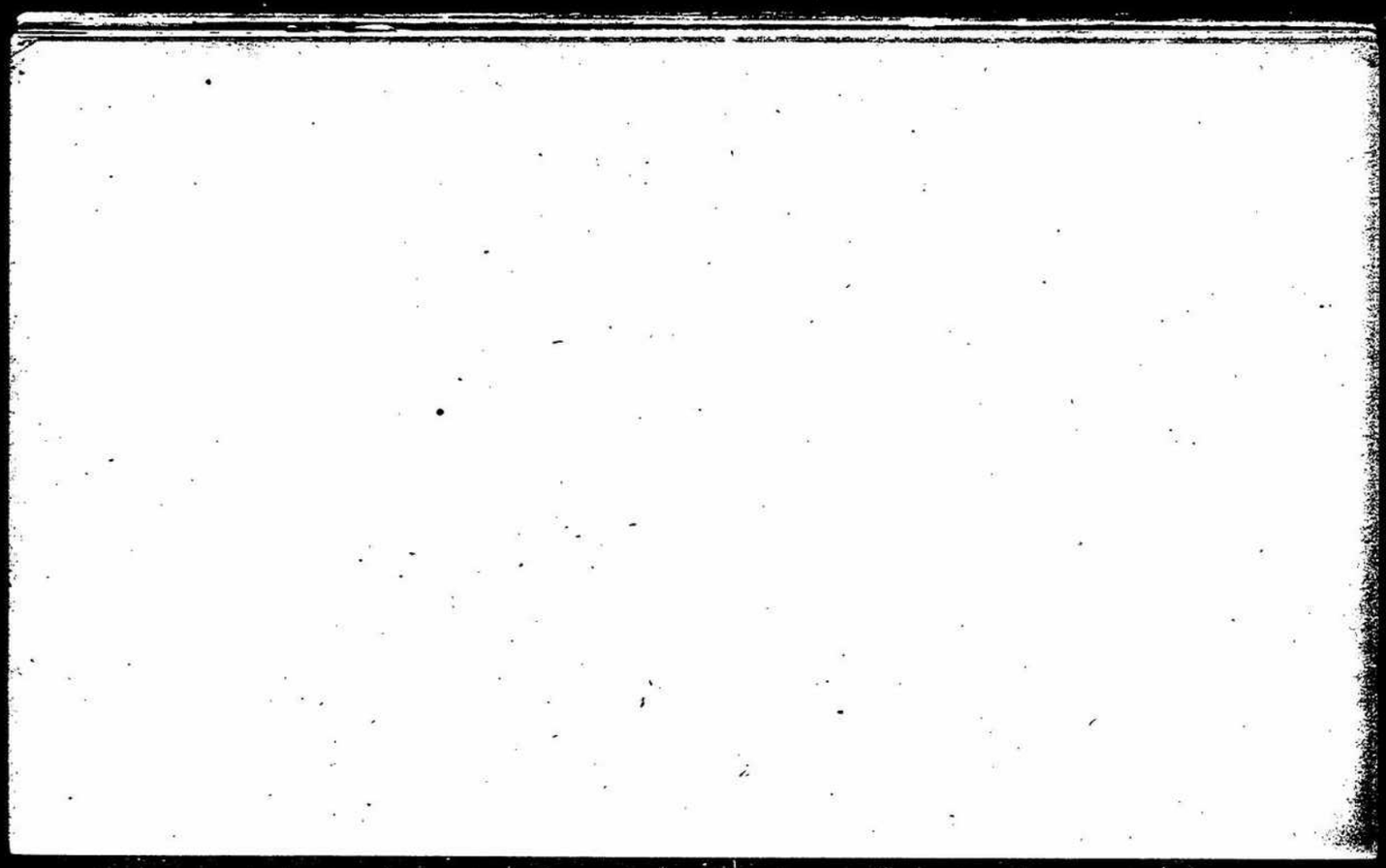
仏蘭西ハ清國ト事件ノ為ニ日露ト同盟シ
タルノミナラス日本国ヲ重ンジ、ヒイキ、シ
タ。

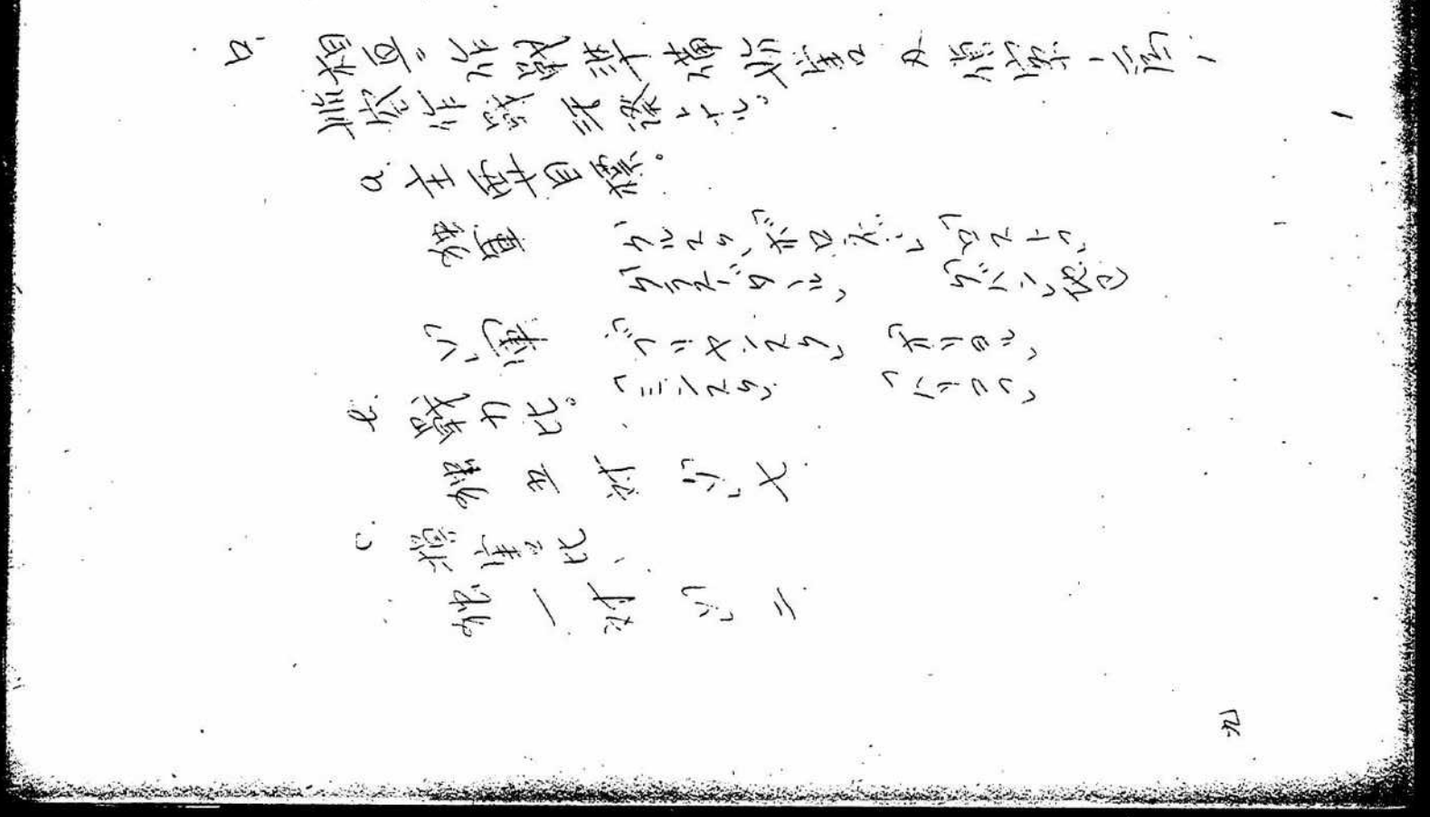
6. 前項ニ於テ

（略ロ）　其後一ヶ月間ハ
平穏ニ経過シ文明国ト
雖モ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

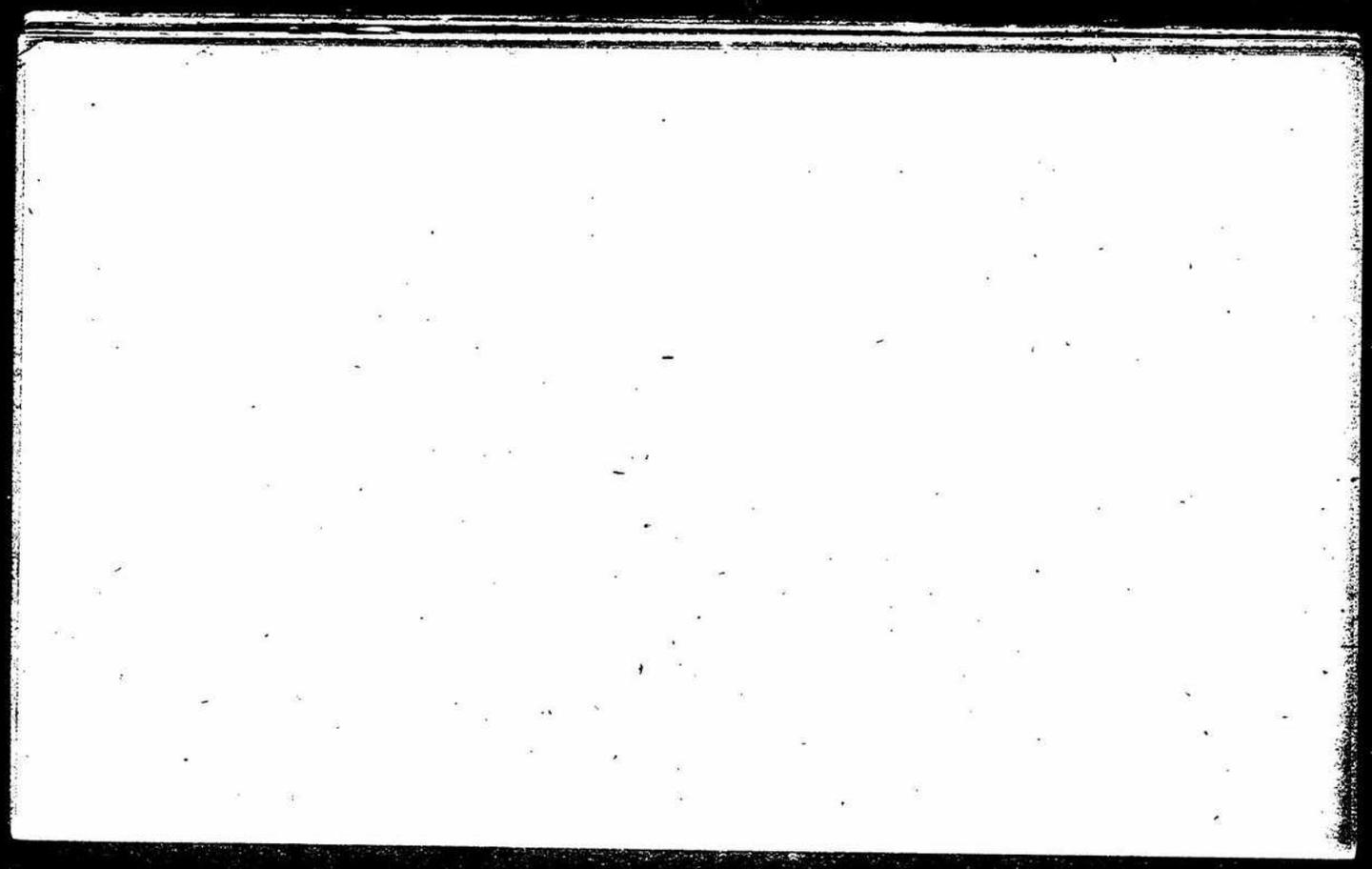
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

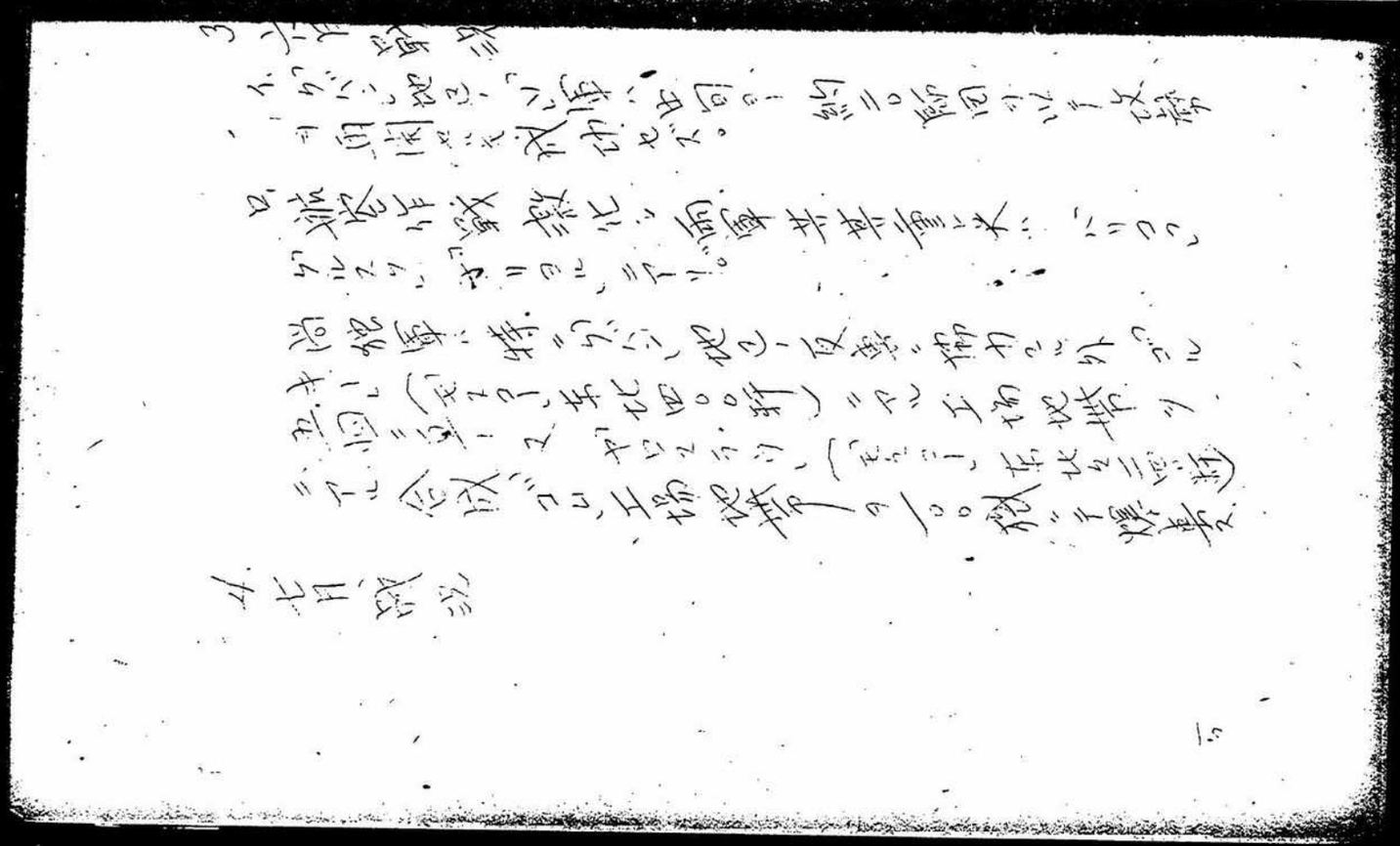




めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/





ぎれんが

イ、独軍ハ五日約十六師団ヲ以テ、ピロゴロバ正面ニ対シ又六日約十四師団ヲ以テ、オリヨール南方正面ニ対シ攻勢ヲ開始シ、ピロゴロバ正面ハ十一日頃迄ニ正面約六〇粁、総延約四〇粁ニ亘ル地区ニ突破ニ成功セルモ、ソ軍ノ反撃ト降雨災ヤラレテ開後、攻勢進展セズ。又オレル正面ハ攻勢成功セズ。

然ルニ、ソ軍ハ十三日頃ヨリ、ツーラ方面ニアリシ約二〇師団ヲオリヨール北方地区ニ注入シテ反撃ヤシ、南方地区ニ攻撃

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ホ、以上ノ如ク月始メニ於テ独軍ハ攻勢ニ対シテ
仏軍ハ分バン ドネツ ピエゴロド オリヨル
ロエルホフ ベレゴロド 等各地ニ於テ反撃ニ出デ
タルモ オリヨル方面以外ハ 著シク 進展セザリシ。

ヘ、ソ側ハ七月六日ノ独逸ノ夏季攻勢開始ヨリ
敵ノ 戦略ヲ 独例ノ 如ク 取扱ヘリ。

5、八月戦況（十五日迄）

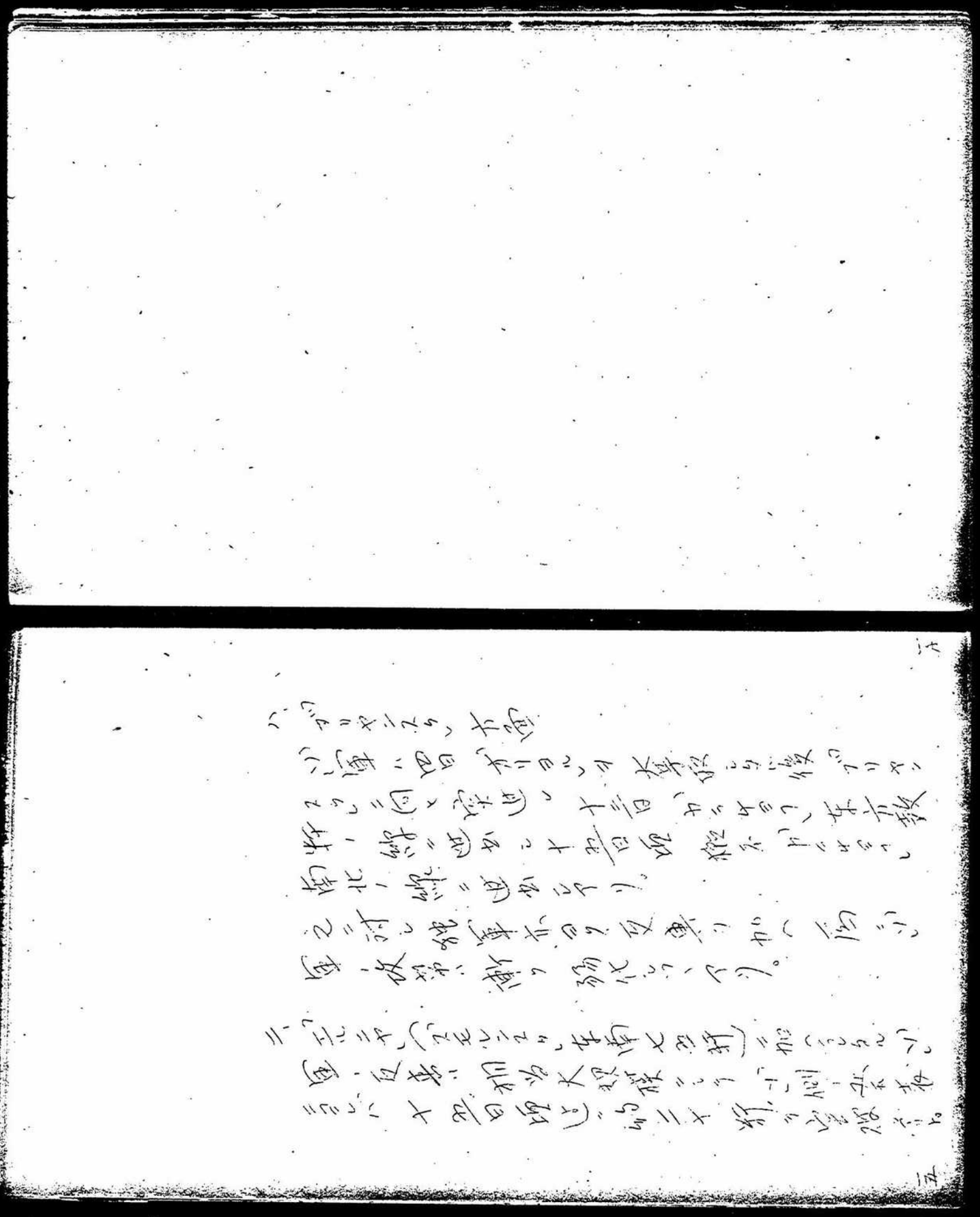
イ、仏軍ハ南方ニ於テハ パリニ 附近ヲ 又中央ニ於テ
ハ ブリヤンスク スモレンスク ノ 突破 企図ニ 対シ
モノノ 熱烈 果敢ナル 反撃ヲ 繰行シ 激烈
ナル戦斗 展開セラレタリ 其中一ニ 於ハ パリコフ

周辺及ブリヤンスク東方ニアリ。

ロ、ハリコフ方面。

ソ軍ハ七八日(ソ側発表ハ五日)頃ビエルゴロド、ハリコフ、李取、周其東南ヨリ攻寄ヲ続行シ一日東北、西北ノ三方面ヨリ攻寄ヲ続行シ一日最大ノ三ツ三五軒ノ連接ヨリ成ル市ハリコフ、ハリコフ、ポルタワ、ハリコフ間ノ鉄道ヲ遮断シ十一日駅ニテ切断シ十三日頃ハリコフ東北方約一粁半ノ地点ニ到達シ東南方約一粁半ノ地点ニ到達シ東南方約一粁半ノ地点ニ到達シ東南

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



ホ、其他、ガダルカナル、ブナ、ラバウル、南西諸島、等ニ於テハ敵軍ハ反撃ニ実施シタルモ戦勢ニ大ナル変化ナシ。

ヘ、両軍、損害、左ノ如シ

a、敵側、発表セル戦果ニ基ク推定

七月五日ノ八月十五日

戦死及捕虜合計　一三三四一八

飛行機　三四九三　戦車　五一三六

b、我側、発表セル敵軍ニ与ヘタル損害

七月五日ノ八月十五日

飛行機　四三〇〇以上　戦車　一〇〇〇〇以上

（口述）

三、爾後ノ戦況ニ対スル予察

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

二 地中海方面ノ戰況

(一) 一般戰況

五月十二日獨伊軍降伏ニ依リ終結ヲ告ゲタル北阿戰役ハ英米ハ對伊作戰ノ準備ヲ進ムル一方優勢ナル空軍ヲ以テ伊本土ニシチリヤ等ニ対シ猛烈ナル爆撃ヲ敢行シ益々謀略ト相俟ツテ伊ノ枢軸陣営ヲ動揺セシメン事ヲ企圖シタルモ伊ノ抵抗所期ノ如ク得ラレズ

五月十七、十八日ニセンブラ島及ランペドーザ島ヲ占領シ次デ六月十日ニ六月四日ニ亘リ「シチリヤ」海峡諸島嶼ノ降伏ヲ得テ漸次對伊進攻ノ歩ヲ進メタリ

即チ北阿及マルタ、オ間ニ海陸空ノ大軍ヲ集中シ上陸作戰準備ヲ進メスルト共ニ海、空軍ヲ以テ「シチリヤ」「サルデニヤ」ノ補給輸送路並ニ「シチリヤ」港湾施設及飛行場等ノ攻撃ヲ強化シ遂ニ七月十日完全ニ制海

之ニ對シ独伊空陸軍ノ善戰敢闘アリタルモ利海利空権依然彼ニ在リ
逐撃作戰又ズルモ有利ニ進展セズ 英米軍ノ進撃ニ対シ歩々後退
シツツ之ガ撃破ヲ画リツツアリタルモ遂ニ八月十五日戰局ハ決定的段階ニ
達シ八月七日独伊軍ノ「シチリヤ」撤退ニ伴イ同島ヲ英米軍ノ手中ニ
奪フルニ至リタリ 此間伊海軍ハ全ク鳴伏シテ何等戰局ニ寄与
スル所無ク一才米英軍ハ「シチリヤ」攻撃ト共ニ伊国民ニ対スル襲撃ヲ
依然積極的ニ実施シ政略的ニ伊国民ニ呼掛クルト共ニ全伊ノ都市
爆撃ヲ強化シ伊ノ戦意破砕ヲ企画セリ 爾ニ遂ニ七月二十五日
和平ヲ主目的トスル伊ノ政変アリタルモ英米トノ間ニ和平條件ニ就キ
一致セズ 伊ハ現在好ト好マザルトニ拘ハラズ依然 対英米戦争ヲ
継続セザルヲ得ザル状況ニ在リ

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(二)「シンガポール」戦況

(イ) 上陸作戦並ニ陸上作戦

別冊第一ノ通

(ロ) 潜水艦作戦

制海権ヲ握ル英米側ノ手中ニ帰シ為ニ伊海軍ハ徒ニ潜艦ノ形骸ヲ堅ムシテ遂ニ出撃セズ僅ニ独伊潜水艦ニ依ル若干ノ攻撃アリタル外一方的作戦ニ終始セリ

(ハ) 航空戦

独伊空軍ハ為ス所ナク敵海上兵力ノ撃破並ニ陸戦協力ニ努メ戦果必ズシモ十ナカラザリシモ反側的ニ優勢ナル英米航空兵力ニ対シテハ概ネ守勢的ナラザルヲ得ズ為ニ戦勢ヲ有利ニ導クニ至ラザリシ状況ナリ

(三) 兵力配備ノ現況

別紙第一並ニ別冊第二ノ通

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(10) 戰局今後ノ見透シ

「シチリヤ」作戰ノ成功ニ依リ英米ノ次期作戰トシテ考ヘ得ル攻勢作戰次ノ如シ

(イ) 更ニ「リビヤ」「コルシカ」等ヲ占領シ對伊本土進攻據点ヲ強化スルト共ニ伊本土爆撃ニ依リ伊ノ抵抗陣容既若ヲ保持ス

(ロ) 直接對伊本土上陸ヲ強行ス

(ハ) 「バルカン」半島南佛海岸北佛海岸若ハ「ルヒー」等ニ対シ上陸シ所謂欧洲第二戰線ヲ結成ス

(ニ) 「トルコ」若ハ「スペイン」等中立国ヲ利用シテ欧洲第二戰線ヲ結成ス

(ホ) 對独戰ヲ一時ノ所ハ改勢並ニ独逸攻撃ニ集中シ英米ハ對日終及攻主力ヲ指向ス

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

而シテ英米ガ右作戦中孰レヲ先ヅ実施スベキヤ或ハ同時ニ実施スベキハ
欧洲海域ノ制海空権ヲ確保シ作戦ノ主動権ヲ掌握セル後ニ於テ
在ルベク遠ニ豫断ヲ許リザル所ナルモ北阿「シチリヤ」作戦成功ノ餘勢ニ
乗ジ近キ将来更ニ大規模ニ對枢軸攻勢作戦ヲ決行スベキハ豫測
スルニ難カラザルベシ

（終）

別冊第一

7-16 現迄ノ撃沈戦果

撃沈
- 巡洋艦 ×2
- 駆逐艦 ×5
- 輸送船 ×27
- 其ノ他

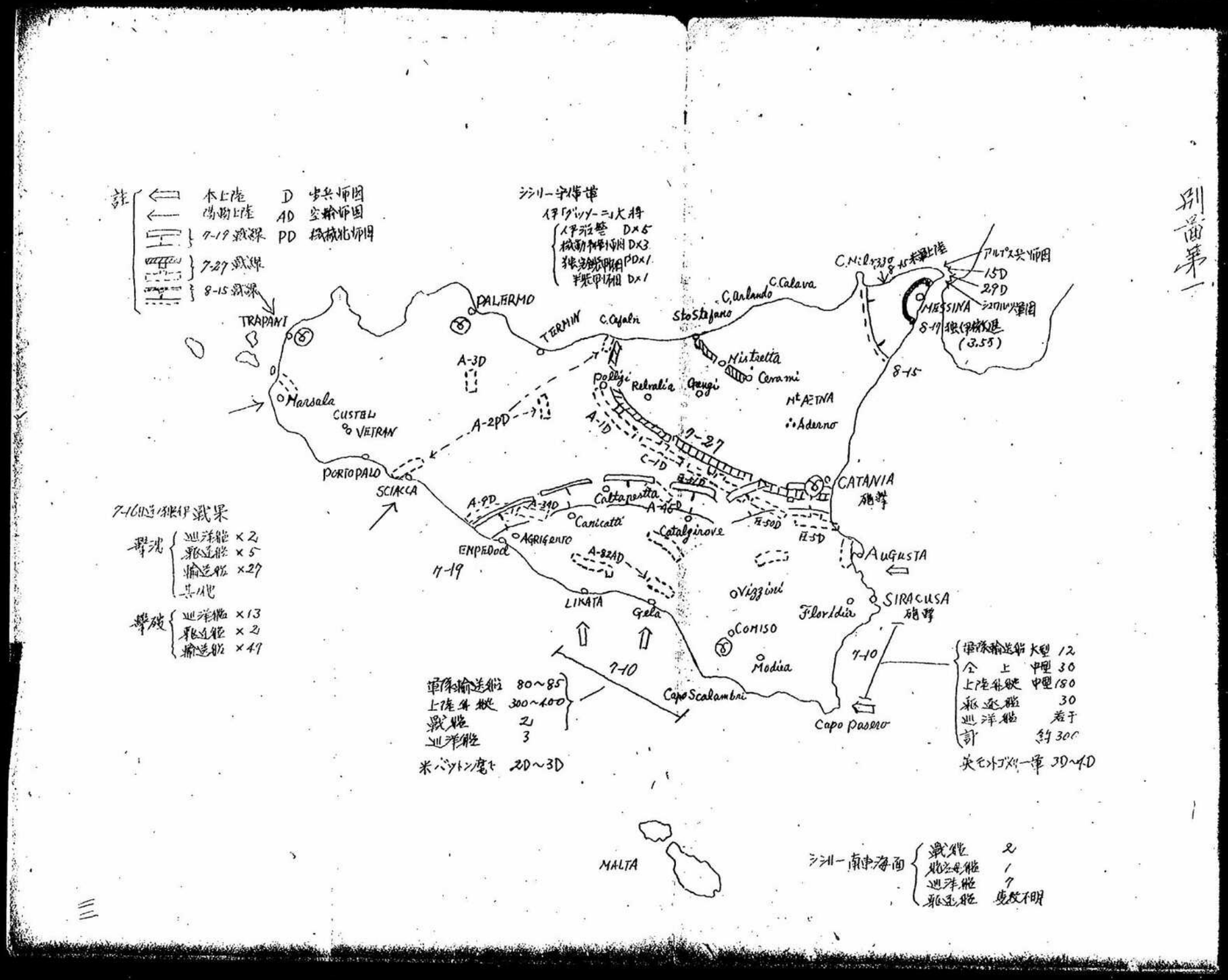
撃破
- 巡洋艦 ×13
- 駆逐艦 ×2
- 輸送船 ×47

大型 12
中型 30
中型 180
30
差于
約 300
一連 30~40

三

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



別冊第一

裏面白紙

めくれず

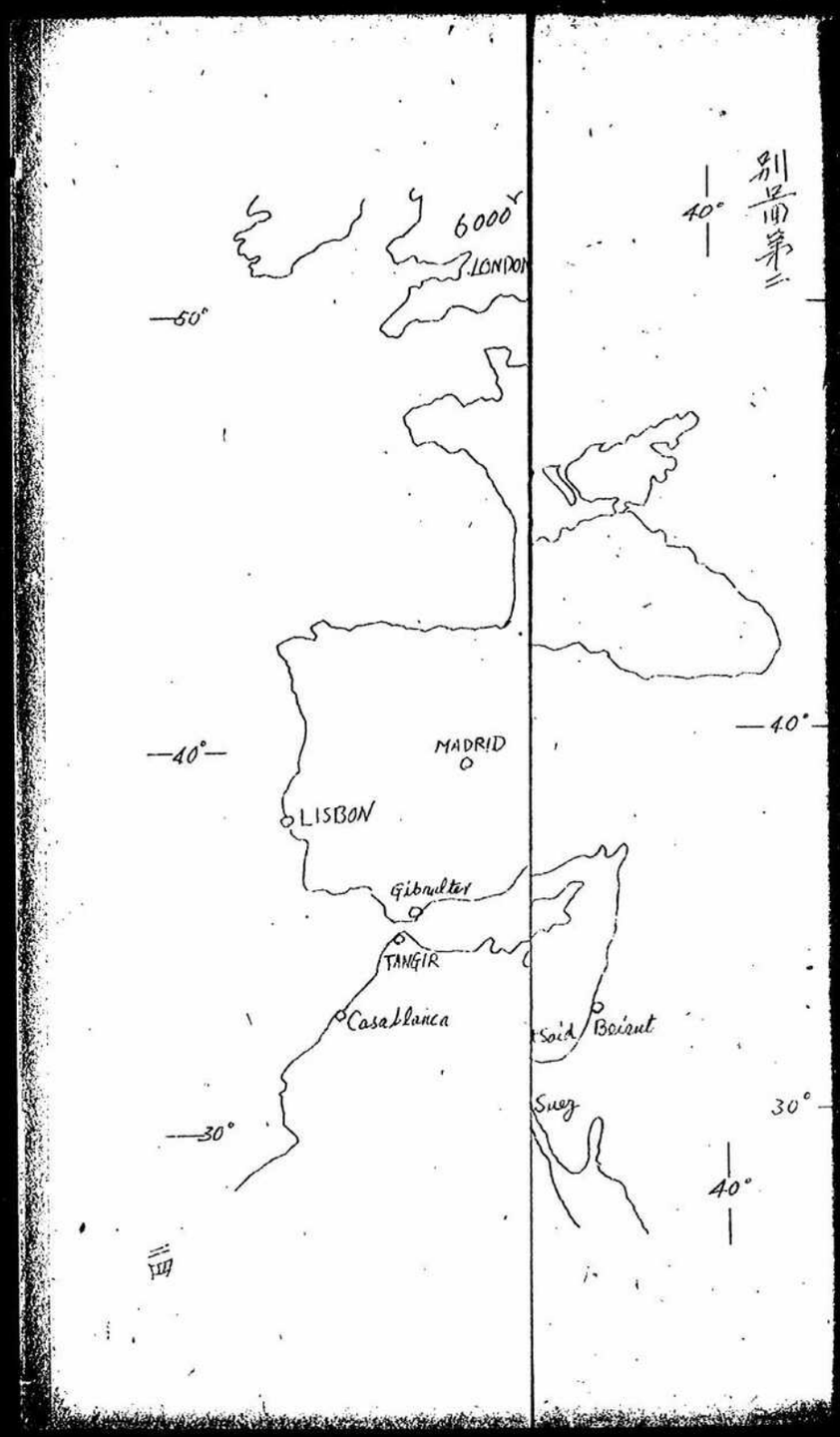
別表第一

英米 空陸軍地中海方面兵力配備（一九四三年一月一）

地域＼国別＼種別	航空兵力 英	航空兵力 米	陸軍 英	陸軍 米
地中海域アフリカ（含ジブラルタル、マルタ）	2700 (fc×1400 fb×1000 etc.×300)	930	47万 ～48万 (MD×4 D×16 内3.5ヶ月増)	43万 (D×20)
ジブラルタル	200	/	3万	0.5万
シリヤ、パレスタイン、キプロス	300	230	211.5万 (MD×1～2 D×12)	7万
イラン、イラク	300		19万 (D×13)	

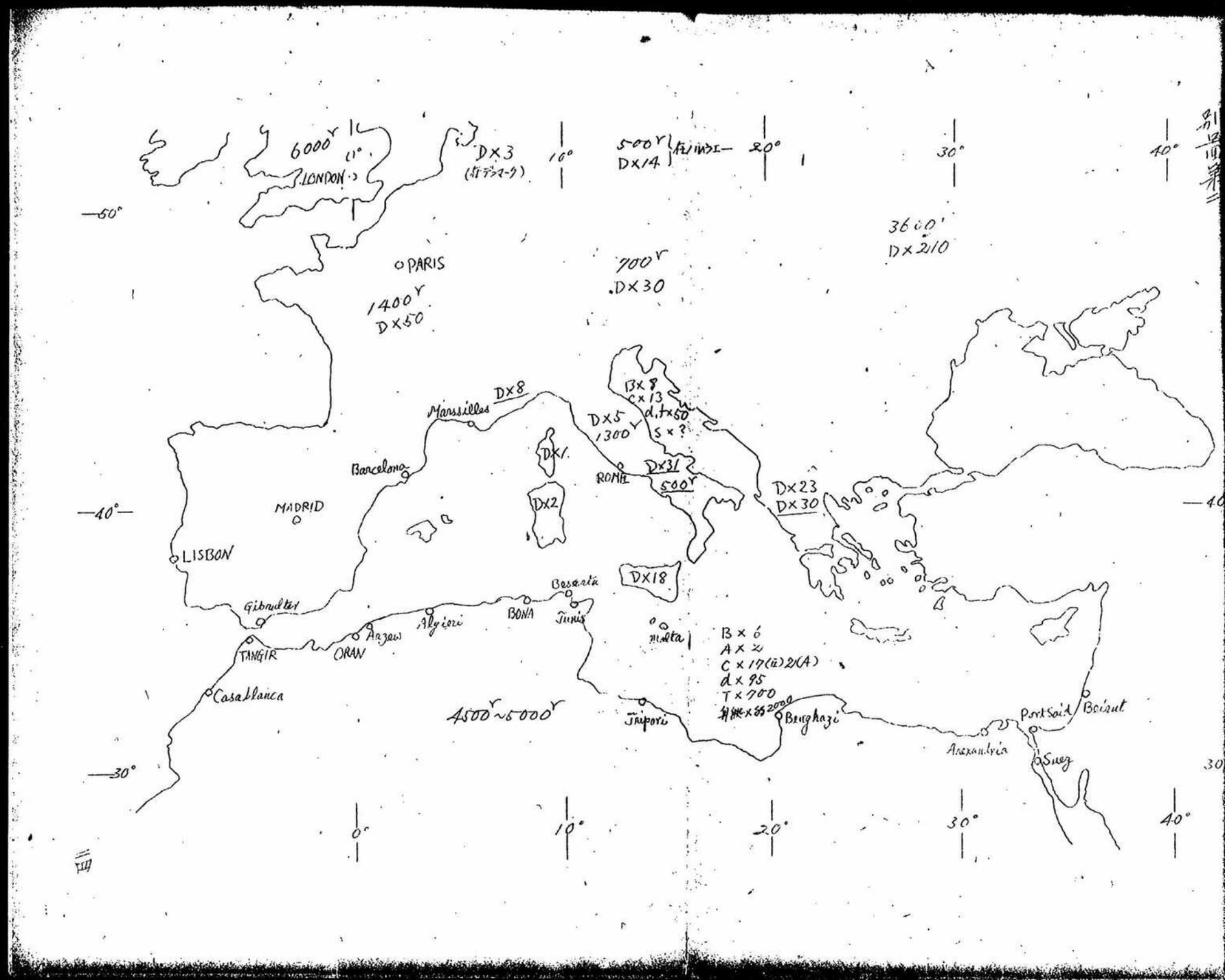
めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



裏面白紙

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三 航空戦状況一般

今日ノ欧州戦場ハ獨ソ戦線以外ハ殆ド航空戦ニ終始シアリト云フベク、枢軸側反枢軸側共ニ膨大ナル航空兵力擁シテ晝夜不断ノ空襲戦ヲ敢行其ノ猛威ヲ逞シクシツツアリ、

一、独、英米、ソ、ノ航空兵力配備

〔略〕

二、英米ノ独逸占領地ヲ含ム空襲

昨年五月頃ヨリ漸次本格セル英米ノ対独爆撃ハ本年七月下旬ニ至リ特ニ激化シ多数機編隊ニ依ル工業都市空襲ハ「ハンブルグ」「マグデブルグ」「カッセル」「ケルン」等

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

市等ノ異地点及ビニ至リ就中ハムブルグニ対スル連續大
撃爆ノ惨烈サハ想像ヲ絶スルモノアリ、即チ軍需工
場乃至ハ軍事上ノ目標ノミナラズ市街地全般ニ破壊ニ以
テ民心ノ動揺ト生産ノ低下トヲ企圖シタルモノノ如シ、
而シテ本年一月以降ノ独國内各地ニ対スル空襲状況次表如シ
月別空襲日数及延機数（八月十四日迄）

項目／月別	空襲日数	延機数
一	一八	二五〇〇以上
二	二一	二〇〇〇以上
三	二二	三五〇〇以上
四	二〇	四〇〇〇以上
五	一九	四五〇〇以上
六	一八	五八〇〇以上
七	二〇	一〇五〇〇以上
八	一三	一〇五〇以上

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ロ、空襲回数、時刻（晝夜）別々延機数

項目＼月別	五	六	七
総数 回数	二七	三三	四九
総数 延機数	四五七〇	五八一〇	一〇五〇〇
晝間 回数	一八	二〇	二五
晝間 延機数	二四三〇	二一七〇	六一七〇
夜間 回数	九	一三	二四
夜間 延機数	二一四〇	三六四〇	四三三〇

八、主ナル空襲目標　（附図参照）

イ、独國内

独国内ニ於ケル爆撃目標ハ「エッセン」「ドルトムンド」「ケルン」……

ノ「ライン」工業地区、「ハムブルグ」「ノイスタット」「スツガルト」「マグデブルグ」等ノ工業都市及「キール」「ウイルヘルムスハーフェン」等ノ軍事基地

又占領地区

占領地区ニ在リテハ「サンナゼール」「ロリアン」等ノ獨潜水艦基地ニ集中セラレタルモノノ如シ

二、被害

從來独側ノ発表ニ依レバ軍事施設ノ被害ハ僅少ナルモ市街地、市民ノ被害甚大特ニ十二月末ノ「ハムブルグ」空襲ノ如キハ被害甚大ニシテ死者二〇、〇〇〇ニ行

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

方不明五〇〇〇、類焼家屋三〇〇〇戸、市街ノ1/3ハ破壊、罹災者七〇〇〇〇〇ニ及ビ民心ニ相当深刻ナル打撃ヲ與ヘタリ、

尚独ノ英米機撃墜状況

独ニ對スル空襲激化ト共ニ英米機ノ喪失数ト次第ニ増加シ来リ

本年七月七日 英国空相「アーチボルト・シンクレアー」ハ反枢軸空軍ノ戦性ヲ次ノ如ク発表セリ、

「英本国基地ヨリ独本国及ソノ占領地域ニ対シテ作戦シタル反枢軸空軍ハ六月中ニ英国爆撃機二七六米国爆撃機八二ヲ喪失セリ」ト

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

独側発表ニ依ル英米機ノ撃墜数ハ（八月十四日迄）

項目／別	一	二	三	四	五	六	七	八
撃墜（内撃墜）	二一九（一七七）	三〇〇（一四〇）	三三〇（一八〇）	七〇一（五〇〇）	六三四（四一〇）	五八七（四一八）	五三一（四〇〇）	二〇〇（？）
独側喪失	五七	三九	七九	一〇〇	一四四	一七二	二九三	？

二、獨ノ英國空襲

獨ノ英本土空襲ハ昼夜ニ亘リ如何ニ激烈サニハ非ラザルモ尚南東英蘭地域ニ対シ依然空襲ヲ敢行シツツアリ

然レドモ獨トシテハ「ハムブルグ」大空襲ノ報復トシテ大規模ノ英本土空襲ヲ実施スル公算アリ

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

本年一月以降ノ英本土空襲状況

項目／月別	空襲日数	空襲回数
一	一六	二七
二	九	一二
三	一四	二一
四	一三	一五
五	一六	?
六	一九	?
七	一〇(?)	?

三、独ノ「ソ」聯空襲

地上作戦ニ呼応シ独空軍ノ主力ヲ対「ソ」攻撃ニ指向シアリテ連日激烈ナル空襲ヲ実施シアリ

独空軍本部ノ発表ニ依レバ「出撃機数ハ七月ニ在リテハ六月ノ二倍ニ上リ、「ソ」聯ノソレノ一・五倍ナリ」ト

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

然レテ其ノ主ナル空襲目標ハ地上部隊ノ協力ト共ニ「ゴルキー」ノ戦車工場「サラトフ」精油所等ニ集中シツツ東部戦線ヘノ出動日数

五月　二八日

六月　三〇日

七月　三一日

独「ソ」飛行機襲撃数（獨側発表）

回別／月別	五	六	七
「ソ」側	一三一九	一、二〇〇	二八〇〇
独側	一四三	三七〇	三二二

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

四、今後ノ見透、

英米ノ對独空襲ハ最近頻ニ激化シ且ツ攻撃目標タルヤ個々ノ施設據点等ノミナラズ市街住民ヲモ含メテ之ヲ破壊殺傷シ以テ物心両面ヨリ戦力ノ低下ヲ企圖シアルモノト認メラレ、今回ノハムブルグニ攻撃ノ例ノ如キ惨烈徹底的ナル爆撃ヲ他ノ重要都市ニモ及ボス惧レアリ且独逸モ亦之ガ報復爆撃ヲ企ツルノ公算アリテ今後欧州ニ於ケル航空戦ハアシケリヤヲ基地トスル伊太利及南独、東部ニ領地ノ攻撃ト相俟チ一層熾烈ノ度ヲ加フルモノト豫想セラル、

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

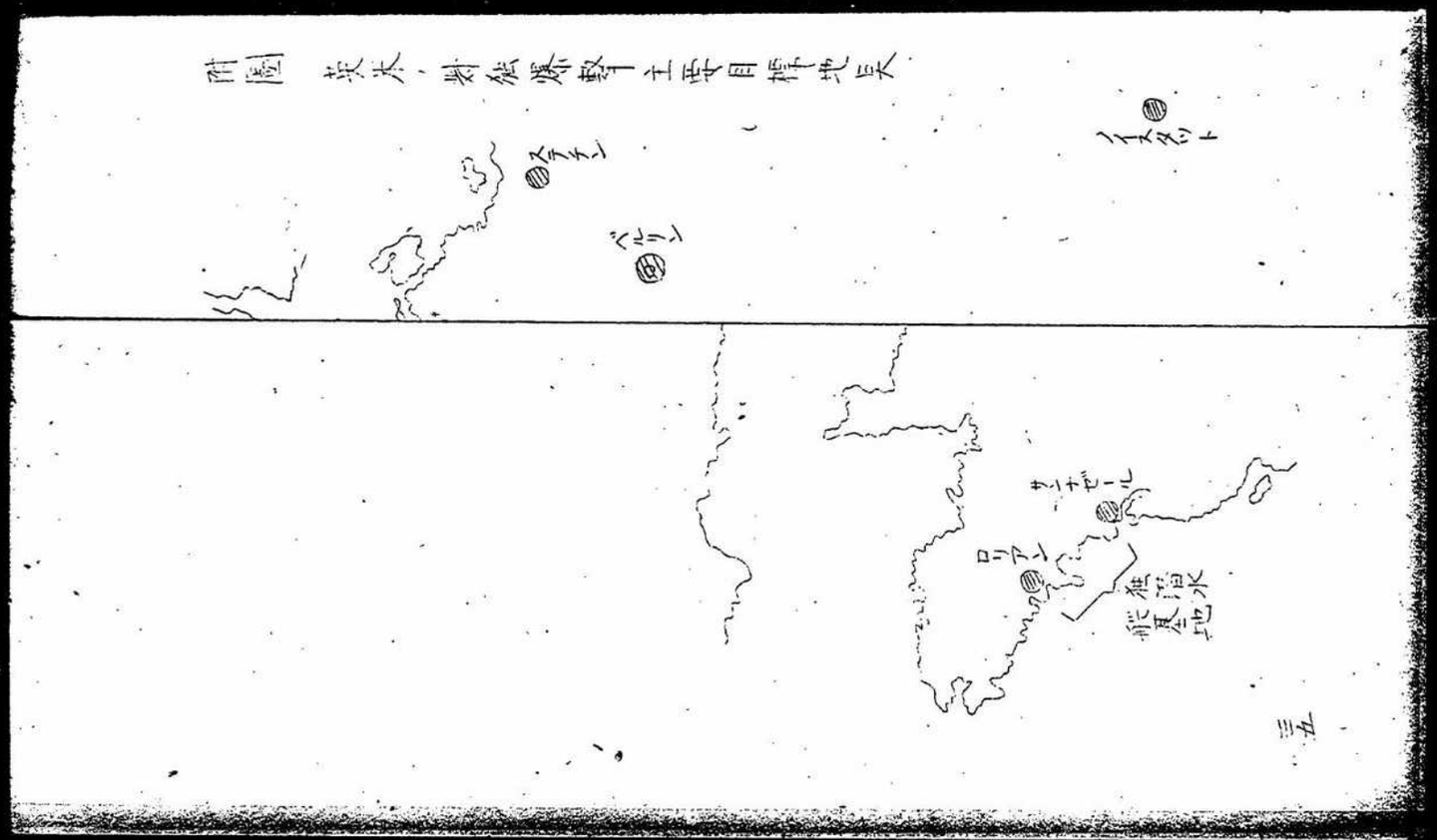
尚從来英米株ノ執シタル爆発ノ方法及今期「ハムブルグ」
攻撃ニ使用セル爆弾ノ性状等ヨリ推察シテ「ガス」
弾使用ニ移行ノ惧ヲ多分ニ包蔵シアリ

終

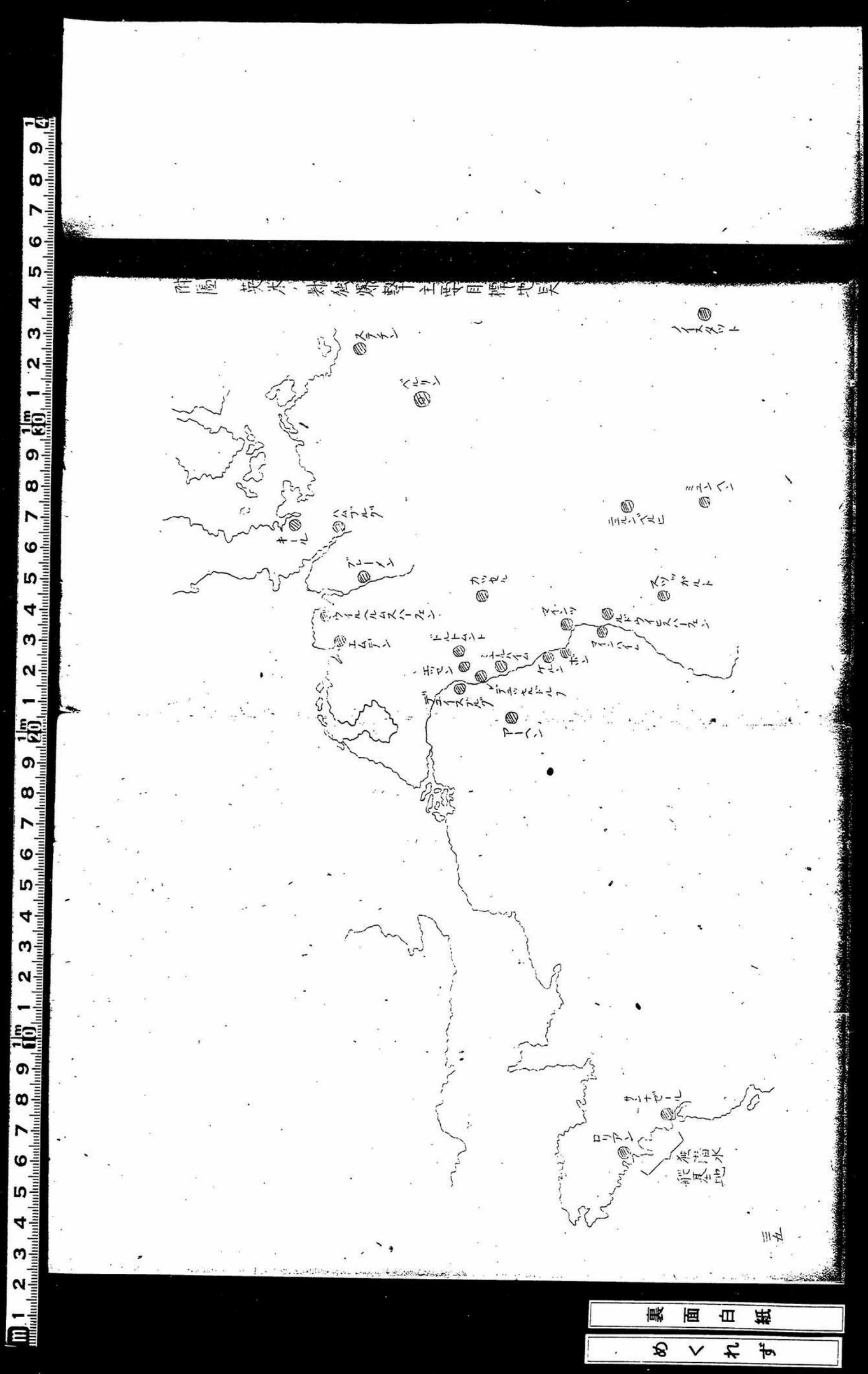
めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



めくれず



裏面白紙

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

四、独逸通商破壊戦

(一)一月以降戦果左ノ如シ

月	潜水艦 隻数	潜水艦 屯数	水上艦艇 隻数	水上艦艇 屯数	空軍 隻数	空軍 屯数	計 隻数	計 屯数
一	六三	四〇八、〇〇〇			一八	一二四、〇〇〇	八一	五二二、〇〇〇
二	八三	五四五、三〇〇	三一	六五〇〇	五	三五、〇〇〇	九〇	五六七、八〇〇
三	一三八	八五一、六〇〇			一一	七五、〇〇〇	一四九	九二六、六〇〇
四	六一	四二五、〇〇〇					六三	四二三、〇〇〇
五	六五	三八〇、〇〇〇			一一	五〇、〇〇〇	七六	四三二、〇〇〇
六	三一	一〇七、〇〇〇					三一	一四九、〇〇〇
七	五七	三五一、二四三					九四	五五四、二四一

十一工

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(二) 今後ノ見透シ

独ノ通商破壊戦ハ英米ノ対潜諸施策ノ成ルニ及ビ戦果急激ニ低下セルモ之ニ対スル独ノ潜水艦戦様式ノ研究改良 対航空機対電探方策ノ確立 整備並ニ航空戦ノ積極的活用等ニ伴ヒ漸次戦果挙ルベキハ期待シ得ル所ナルモ 通商破壊戦ノミニ依リ英米特ニ英ノ屈服ヲ求ムルハ極メテ困難ナリト認ム

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

II

独乙ノ政治

第一 政情

其ノ一 最近ノ欧洲情勢 日向研究生

其ノ二 占領地統治ノ現状 佐藤研究生

其ノ三 「ナチス」運動ノ実情 寺中研究生

其ノ四 国防軍ト党ノ関係 中村(雅)研究生

第二 国民生活 寺中研究生

第三 民心ノ動向 日向研究生

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第一　政情

其一　最近ノ欧洲情勢

一、「ムッソリーニ」首相退陣ノ眞相

「ヒ」廿五日突如トシテ起レル「ムッ」首相ノ退陣ハ十九日ノ「ヒ」總統「ムッ」首相ノ北伊会談ヲ契機トシ伊国軍首脳部「ファッシスト」幹部ヲ操縦シテ「クーデター」ヲ断行セルニ起

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

困スルモノナリ

抑伊ガ北部作戰以来隨時ノ独伊会談ニ於テ独ニ要求セルハ独ノ軍事的援助ノ強化ニシテ之ナクシテ伊ガ独伊軍事同盟ノ義務ヲ完全ニ履行スルハ不可能ナリキ

特ニ独伊軍ノ北阿撤收以後米英ガ伊ノ無差別爆撃ヲ開始シコレシリ上方面ヘノ上陸ノ可能性増大スルニ反ビコムビ首相ハ独ニ対シ東部戰線第一主義ヲ

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

後ニ至リ蘇カナル独立軍ノ印度援助ヲ要望セルモノノ如ク
之ニ対シ独ハ東部戦線ニ後退重点ヲ指向シ印度援助
ヲ第二義ト考慮後ニ米英軍ノ「レンリー」島上陸及
攻ヲミタリ 然レテ米英上陸軍ハ「ビ」首相ノ意表語ニ
拘ラズ逐次ニ陸地点ヲ拡大スルニ至ルヤ「ムッ」首相ハ戦
局ノ重大性ヲ痛感後ニ十七日ノ「ビ」総統「ム」首相北
伊会談トナリタリ 会談ニ於テ「ム」首相ハ「ビ」総統ニ対
シ「レンリー」島ノ実情ヲ訴ヘ援軍ヲ要求シ独ノ援助
ナクシテ戦争継続ハ困難ナル旨指摘ス処「ビ」総

後ハ如何既ニ開始ヲル欧洲戦ノ為ノ有事ニ際シ
ハ「ポート」問題ナラザルヲ以テ日防衛ハ「レレリー」或ハ仏
南部ニ據ラズ寧ロ北仏ノ要点ニ於テ防衛スルヲ
可トスル旨言明、「ムッソリニ」首相モ此ニナクシテ同意セイタノ
ト
斯クシテ羅馬ニ帰来セル「ムッソリニ」首相ハ「ラッシュ」大評
議会ヲ開催シ右会談ノ結果ヲ伝ヘ仏ハ独伊ト共ニ
対米英戦ヲ遂行スベキ旨評議会ニ計ル處「ファシスト」
「ムッソリニ」首相ニ心酔カサリシ「ファシスト」幹
部ハ「伊国ノ参戦」ニ反対シ「ムッソリニ」首相ノ「ヒトラー」連絡

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

緩急針ニ変ジ対シ会議会ヲシテ会議ヲシテ会議ヲシテ会議

レ居リタルガ故ナリ

二、「バドリオ」内閣ノ政策

「バドリオ」将軍ノ登場ノ経緯ニ鑑ミ其ノ政策ガ和平ヲ目的トスルハ想像ニ難カラズ。「バドリオ」内閣成立ノ直後羅馬市民等ガ伊太利王及「バドリオ」内閣万才ヲ叫ビ「ファッシスト」党員ガ一早ク党章ヲ剥脱セルガ如キハ如何ニ日民ガ和平ヲ熱望セルカヲ物語ニ表明セルモノトシテ得ベシ

「バドリオ」内閣及一般伊太利民ハ米英ノ対伊戦争目的

七

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ザ「ム」首相及「ファソレスト」政友ノ打倒ニ在リトノ宣伝謀略ニ迷ハサレ「ム」首相ノ退陣即和平ノ想来ト錯解シ米英ノ反響ヲ窺ヘルニ米英ノ伊新内閣ニ要求セルハ伊ノ希望スルガ如キ甘キ和平ニ非ズシテ無條件降服、伊本土ニ上陸ニ外ナラザルヲ知リ結ニ伊内閣ハ止ムナク「戰ヲヲ継續スベキ」ト日ヲ中外ニ声明スルニ至リタリ。

右ノ如キ伊ノ政策ノ混乱ハ八月十日発表セラレタル伊当局ノ外交政策ニ明ニシテ伊ハ正ニ進退兩難ノ窮境ニ立ツモノトミフベシ

三、独伊関係

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

従来ノ独伊関係ハ「ヒ」總統ト「ム」首相トノ相互信頼ニヨリ固ク結ばレ「ヒ」總統ガ「ム」首相ニ期待セル処ハ頗ル大ナリヨツテノ今回ノ「ム」首相ノ退陣ハ止ムヲ得ザルモノトハ云ヘ「ヒ」總統及独国民ノ失望大ナルモノアルベシ「ヒ」總統ハ伊国軍ノ弱力及伊国内事情ノ悪化ヲ承知シ居リタルヲ以テ伊ノ脱落ハ豫テヨリ覚悟セル処ナルベキモ「ム」首相ガシカク簡単ニ脱落スベシトハ思ヒ居ラザリシモノノ如シ

「ム」首相退陣後ノ独伊関係ハ新内閣ガ和平的性格ヲ有シ又独ヒトノ思想的共通性ヲ欠除セルヲ以テ昔日ノ

九

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

此ナル親善関係ヲ維持スルコト困難ナルベシ

四、伊太利ノ将来

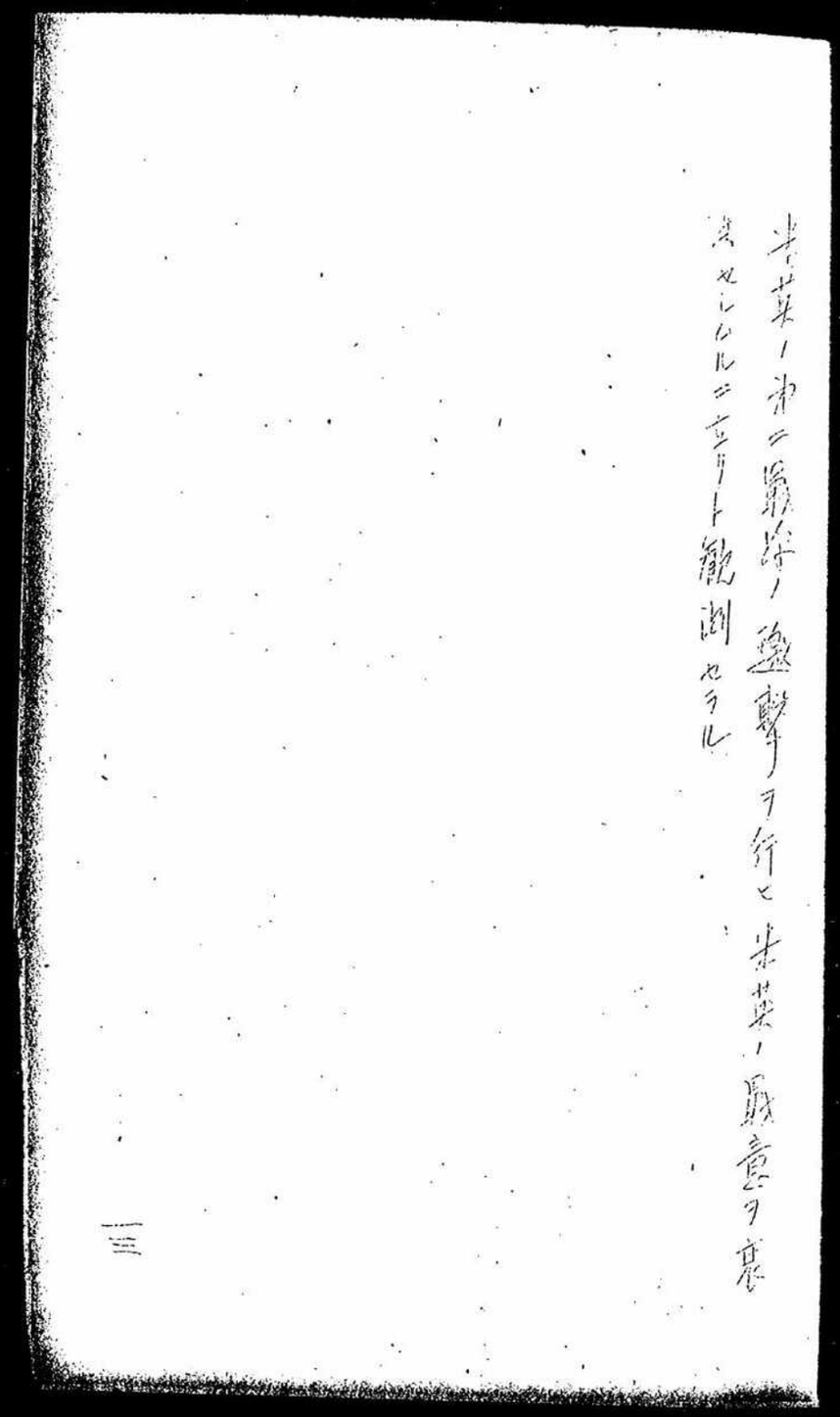
伊ノ軍独和平工作ノ失敗ハ止ムナク伊ヲシテ独トノ提携再開ヲ考慮セシメ此処ニ八月八日ノ独伊首脳部会談ヲミタリ　本会談ノ内容ヲ推測スルニ独ノ伊ロ防衛方策討議セラレタルモノノ如ク若シ独ガ北伊ニ兵ヲ置キ伊本土ヲ防衛スルコトトナラバ「バドリオ」内閣ノ目的タル和平、伊ノ戦場化防止ハ実現困難トナルベク今ヤ伊ハ和平乃至戦争継続ヲ独自ノ見地ヨリ決定セル能力ヲ喪失シ独ト米英トノカノバラン

ニノ間ニ浮動シ居ルモノ如シ

五、独ノ戦争指導方針

独ノ戦争指導ハ本来短期戦ニシテ独蘇戦亦短期決戦ヲ目標トセルモノナルガ蘇ノ抗戦力ハ独ヲシテ出ナク長期戦ヲ行ハシムルニ至レリ然シテ他方独ハ米英ノ戦力増大シ地中海ノ戦線ノ展開トナラザル内ニ独蘇戦ヲ終結セシメント欲シタルガ如キモ終ニ成シリシ上陸トナリ二正面作戦ヲ遂行セザルヲ得ザルニ至レリ之ニ加フルニ最近頓ニ強化セラレタル米英ノ独都市無差別爆撃アリ米英ハ引シリ上作戦ノ外

戦略爆撃ノ効果ニ多大ノ期待ヲ掛ケラレタモノ如クナリ
我ハ対独生産者ハ更ニ増大スルモノトミラル
然ルニ独ハ軍部戦略、コレリー作戦及対蘇
爆撃ノ三面作戦ニ直面セリ 亞洲戦局ハ正シク
決戦的段階ニ入リタリトミラレル
之ニ対スル我ノ戦争指導方針ハ東部戦線ニ対シ
テハ蘇ノ戦力ヲ適時消耗セシメ之ヲ無害化スルニ在リ
コレリー方面ニ対シテハ北伊ニ拠リ米英ノ戦力ヲ消
耗セシメツツ米英ノ本土ヲ脅ス時機ヲ最後ニ対
独爆撃ニ対シテハ防空陣ヲ強化スルト共ニ民ノ士気
昂揚ヲ計ルニアルベク要セスルニ我ハ亞洲要塞ニ



米英ノ第二戦線ノ逐撃ヲ行ヒ米英ノ厭意ヲ衰
ヘシムルニ立ツト観測セラル

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其ノ二　獨逸ノ占領地統治ノ現況

一、理念トシテノ基本方針

戰爭目的カ新秩序ノ建設ニアル限リ之カ占領地統治ノ基本理念ハ既ニ目獨伊三國條約ニ於テ明示セラレタルカ如ク所謂「高邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シム」ル爲ノ体制ノ編立、即チ「各々」其ノ地域ニ於ケル當該民族ノ共存共榮ノ實ヲ挙グルニ足ルベキ新秩序ヲ建設シ且之ヲ維持センコトヲ根本精神トナス」コトニ在リ

二、統治ノ原則ニ現ハレタル統治方策

歐洲新秩序建設ノ爲ノ直接目標ハ遠ニ他力本願ヲ脱却シテ所謂歐洲廣域經濟圏ノ他五ヲ期スルニアリ

圏ニ今次大戰ニ於ケル獨逸ノ恐ルベキ國力ノ發揮ハ一ニヒツトラー政權ノ自給自足政策ニ依ル經濟目的ノ達成ニ基因スト言フモ過言ニアラザルベシ

獨經濟相フンクノ言ニ從ヘバ「歐洲諸國丸カ經濟的ニ外國ニ依存スルコトハ總テ政治的ニ支配サレル危險ヲ意味ス」ルモノデアリ之カ爲一円

獨逸ノ占領地ニ於ケル經濟再建ノ目標モ亦獨逸ヲ指導者トスル廣域經濟圏ノ確立ニ參與シアルハ今更言ヲ要セス、又原邦相ハ「ゼンベルグ」ハ「歐洲諸國民ノ運命的課題」ト題シ「此ノ大戰ニ於テ獨逸國民ハ新歐洲建設ノ爲ニ前線ニ於テハ最大ノ血ノ犧牲ヲ拂ヒ銃後デハ凡ユル缺乏ニ耐エテキル、從テ獨逸ノ敵國デアツタ占領地諸國ガ更ニ大ナル犧牲ヲ要求サレルノハ當然デアルー中略ー獨逸ト其ノ同盟國ノミガ新秩序ニ對シ要求スル權利ヲ持チ占領地諸國ハ之ヲ援助スル義務ヲ持ツ歐洲大陸ノ諸國民ガ此ノ運命ニ從フコトガ積極的デアレバアル程歐洲間題ノ解決ト大戰ノ終結ハ一層早ク到來スルノデアル」ト述ベ大戰下ニ於ケル歐洲諸國ノ運命ノ道帝住ヲ強調スルト共ニ占領地諸國ノ義務ト服從トニ就テ大膽率直ニ斷言セルハ獨逸ノ占領地統治ノ根本方針ヲ效ニ明示セルモノト言フヲ得ベシ

而モ獨逸ハ其ノ占領地ニ對スル統治方式ノ決定ニ當リテハ常ニ之等新秩序建設ノ法則ヲ基礎トシ個々ノ占領地ト獨逸トノ民族的近親性、歴史、文化、経濟的關係、其他戰略的地位及國民經濟ノ特性等ヲ考慮シ

所謂平和一般的ノ統治方策ヲ採ラス極メテ強力性ヲ保持シツツ之等ノ指導ニ當ジツツアリ、即チ

イ、占領ニ伴ル併合

舊獨國又ハ獨逸人居住地域

即チポメラニヤ、ポーゼン、ダンチヒ、ウエストプロシヤ、ノルドシユレスヴヒヒ、ベルギー、ルクセンブルグ及ユーゴスラビアノ一部等ニシテ統ニ之等ノ地域ハ正式或ハ實上獨逸領ニ併合シ速カナルドイツ化方策ヲ第一義トナシツツアリ

2、總督制

ビツドラー總統ニ直轄スル總督ガ政治及經濟ヲ統轄スル統治方式ニシテ獨領ニ併合サレタル地域ヲ除ク諸ーランドノ之ニ當リ大ドイツノ補充的使命ノ達成ニ其ノ重點ヲ指向ス、總督管轄區ハ其ノ制度ノ根本理念カラ言ヘバ之ガ行政的指導ハ國家社會主義ヲ奉ズル獨逸人ニ依ルヲ原則トナスベキモ實際ニ於テハ或種ノ行政ハ諸ーランド人タル公務員ニ委託シアリ

二A イ

◎總統――↓總督――↓總務長官

3. 軍司令官制

軍司令ニ直屬スル軍政長官ガ當該地域ノ政治經濟關係ヲ統制管掌スル統治方式ニシテセルヒヲ、ゴリシヤノ一部、北部フランス、ベルギー等之ナリ

之等ノ地域ハ單ニ高遠ト民族及文化ヲ異ニスルノミナラズ將來ノ作戰戰場トナル可能性ヲ有スル地域トモ目サルルヲ以テ軍事的考慮ガ相當重キヲ爲シ且一面他日之等地域ノ政治的經濟的組織ガ獨逸的秩序ニ依テ根本的ニ再建セラレタル場合軍政ヨリ直チニ比較的獨立性ノ濃厚ナル行政組織ニ移行スルコトモ豫想セラルルヲ以テ暫ロ暫定的中間統治方式ノ採用ヲ避ケタルモノトモ思料シ得ベシ

◎總統――↓軍司令官――↓軍政長官

4. 軍政、民政分離制

ヒツトラー總統ニ直屬スル軍司令官ノ外ニ民政ニ關シテモ亦總統ニ直屬スル民政長官ヲ置キテ之ヲ統治ス、ゴランダ、ノルウエー之ナリ

之等ノ地域ニ於テ今ノルウエー人ニ依ルノルウエー「ノルウエー」ヲ根本方針トシ長官ハ獨逸ノ指令ニ基ク「ヒツトラー」ヲ根本方針トシ長官ハ獨逸ノ指令ニ基ク

統ニ必要ナル場合ニ於テノミ干渉スル除度ニ於テ之ヲ指導育成シツツアリ

(イ)丁抹ハ所謂保護占領トモ稱シ得ベキ地域ニシテ若干ノ軍事的直接スルモ內政ニハ干渉セズ、然レ共實際的ニハ獨逸ノ物動計畫ニ依テ丁抹ノ經濟ガ動カサレ政治的ニモ獨逸ノ勢力ガ決定的力ヲ有スル結ミリスンバ實質的ニハ占領地ノ一ニ包含セラルベキモノナリ

◎總統――┌――┐――↓軍司令官
　　└――┘――↓民政長官

5. 第五省制

統治上強力ナル政治力ヲ必要トスル地域即チ舊ソ聯邦（バルト三國、ウクライナ地方、クリミヤ地方其他）ニ對スル統治方式ニシ

テ中央政府内ニ獨立セル一省（東邦省）ヲ設置シテ省長官ニ從屬スル民政長官ヲ派シテ統治ス

◎總統ー↓東邦省長官ー↓民政長官

以上統治方式トシテノ立憲ヲ超越シタルモ除外共樂國ハ北ハ北氷洋ヨリ南ハ地中海、黑海ニ及ブ廣大ナル領域ニ亘リ而モバルト三國、ポーランド、ベルギー、北部ブラジル、ルーマニア、ハンガリー等ノ如ク外交上、國防上且又戰略上重要ナル地域、東南歐諸國及ドナウ河沿岸諸國ノ如ク今後獨逸ノ食本ト技術ニ依ル經濟諸發ヲ必要トシ相互ノ經濟關係ヲ緊密トスル地域、或ハ國土ヲ失ヒ、モーゼル、ヴ、ヴ、ヴ、ヴ等ノ如ク發展政策ノ整備ヲ必要トスル地域又ハ急速ナルドイツ化ヲ要スル獨逸併合地域等之ニ包含セラルル諸國家ハ各々其ノ傳統ニ於テ或ハ文化、經濟、政治等ノ各種各件ヲ異ニアルヲ以テ獨逸國民ニ課セラレタル課題ハ極メテ困難ナリト言フヲ得ベシ

第ノ三　ナチス黨ノ組織

ナチス黨ノ組織

- 親衛隊（SS）
- 自動車操縦士團（SS・SA）（NSKK）
- ヒトラー少年團（HJ）（獨逸少女聯盟（B・D・M）及幼女團ヲ含ム）
- 國民社會主義獨逸大學聯盟
- 學生聯盟
- 婦人團
- 醫師聯盟
- 法曹聯盟（BNSDJ）
- 教員聯盟（NSLB）
- 國民厚生團（NSV）
- 戰爭犧牲者保護事業（NSKoV）
- 全獨逸官吏聯盟（RDB）
- 獨逸技術聯盟（N・S・B・D・T）
- 獨逸勞働戰線（DAF）（親衛力行團組織（K・D・F）ヲ含ム）

- 國民社會主義獨逸勞働黨（NADAP）所屬團體

細胞組織　縣ー郡ー地區ー細胞

二、今次大戰ニ際シ、總統自ラナチス黨ノ政治上ノ各國體ニ對シ國民保護ノ任務ヲ賦與シ所ニ左ノ三任務ヲ指令ス

第一部門　各分肢ニ發セラレタ場合指令

ヒトラー少年團員及政治指導者（突擊隊、親衛隊、ヒトラー少年團等ノ政治團體ノ指導者）ノ收獲奉仕、婦女子ノ停車場奉仕、國民厚生團（NSV）ニヨル食糧切符配給ノ任務、同團ノ冬季救濟事業組織ニヨル獨逸赤十字社ノ救濟事業等

第二部門　地區、郡及縣ガ自發的ニ行フ活動、配給ニ對スル協力、相互扶助、軍事郵便ノ發送、慰樂事業等

第三部門　ナチス黨部ノ事業

黨部自ラ國家ト國民ノ間ニ生ケル鑑環ヲ形成シ、進ンデ國家ヲ指導スル、國家ガ爲シ得ザル一切ノ任務ヲ負擔スルコト

三、ナチス黨關係各種團體ノ戰時下ノ活動

別表ノ通リ

二

住

員

ノ他

獨逸國內重要諸團體ノ活動

團名		ナチス關係ノ團體	創設年月	指導者	團體ノ目的
ヒトラー少年團（HJ）	分肢組織		一九二六・七	アルツアー・アックスマン	國民社會主義的世界觀ニ依リ青少年ヲ教育訓練シ次代國民ヲ作ル
國民社會主義婦人團	分肢組織			ゲルドルード・シヨルツ・クリンク夫人	アラユル獨逸婦人及少女ニ自己ノ力ヲ自覺セシメ獨逸民族ノ奬來ノ苦難ヲ矜持ヲ以テ自發的ニ肯定セシム
獨逸勞動戰線（DAF）	所屬團體		一九三三・五	ドクトル・ロバート・ライ	生產活動從事者ノ總テヲ總括シ勞資一體トナツテ生產能率ヲ上グ
強力行團（KDF）	勞動戰線附屬團體		一九三三・一二	同右	生產活動關係者ノ生活ニ對スル樂シミヲ與ヘ勞働ト文化トノ對照ヲ抹消ス
イヒ勞役團（RAD）	政府直屬		一九三五・六	ウイルヘルム・フリツク（內務大臣）	國民社會主義ノ精神ヲ以テ國民團結並ニ勞働ニ對スル正シキ認識就中肉體勞働ニ對スル正シキ尊敬、是等ノ自覺セル教育ヲ獨逸青年ニ授ク
國民厚生團（NSV）	所屬團體		一九三三・五	エーリーヒ・ヒルゲンフエルト	全體ノ力ニ依ル援助ヲ必要トスル人々ヲ擁護シ、生活ニ活氣ヲ與ヘ、獨立セル自由人トシテ國民協同體ノ爲力ヲ致シ得ル樣誘導ス

兵士及勞働、スポ
働ニ徵用

占領地區
他ノ勞役
女子勞役
ノ小學校

難民ノ
建築及

(ハ)防空活
物資ノ貯
ノ倉庫

三國民義務
空政勞働

企業者並
勞働任務
給與其ノ

相互
第三部
統部
スル
三、ナチス
別表ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三部門　ナチス黨部ノ事業

黨部自ラ國家ト國民ノ間ニ生ケル鍵環ヲ形成シ、進ンデ國家ヲ指導スル、國家ガ爲シ得ザル一切ノ任務ヲ負擔スルコト

三、ナチス黨關係各種團體ノ職時下ノ活動

別表ノ通リ

戦時下ノ活動方面

ノ目的	任務
的世界觀ニ依リ青少年ヲ代國民ヲ作ル	(イ)國粋活動　(ロ)收獲手傳ヒ　(ハ)保健衛生方面ノ活動　(ニ)廢品回收其ノ他物資ノ蒐集等、(ホ)文化的活動　(ヘ)軍官應援勞務ノ手傳ヒ　(ト)女子隊員ノ待遇改善（就學中ニ於ケル子供ノ世話、農家ノ手傳ヒ、兵員慰安ノ編諧メ作詩等）
婦人及少女ニ自己ノ力ヲ遂民族ノ興來ノ苦難ヲ矜的ニ肯定セシム	三國盟邦等ヲ通ジ、銃後勞働戰線深入部ヲ組織ス、勞働婦人ノ激勵慰藉、政勞働者會團體N S救護事業協力等
達ノ線テヲ綜活シ勞資一者能率ヲ上グ	企業者並ニ從業員間ノ對立ヲ除去シ勞働統制法ニ依リ斡旋セラレタル重要職任務ヲ果ス、職業教育及職業補習教育、窮乏勞働者ノ保護養老年金給與其ノ他各種自助施設
ノ生活ニ對スル樂シミ化トノ對照ヲ抹消ス	兵士及勞役團員ニ對スル慰安興奮（コンサート、講演、展覽會、旅行等）餘暇利用、スポーツ奬勵、職場ノ美化及清潔化、但シ同團所屬ノ三大汽船ハ海軍ニ徵用セラレ大規模ナル旅行、慰安會ノ開催等ハ不可能トナル
精神ヲ以テ國民團結並正シキ認識就中肉体勞尊敬、是等ニ自覺（標）セ等ニ授ク	占領地區建設ニ對スル協力、道路橋梁ノ建設、收獲參加、夏季農業其ノ他ノ農役奉仕 女子勞役團ハ農村家庭ノ家政手傳ヒ（主ノ給養手傳ヒ）、野戰病院勤務、教師ノ應召セル村ノ小學校勤務等
助ヲ必要トスル人々活氣ヲ與ヘ、獨立セ民協同体ノ爲力ヲ致	疎開民ノ收容援護、母子保護事業、冬季救濟事業、應召者家族保護、住宅建築及移植事業等

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其ノ四

「ナチス」黨ト国防軍トノ関係。

判決

一、現在ニ於ケル両者ノ関係ハ良好且緊密ニ保タレアリテ戰爭遂行上何等ノ不安並ニ支障ナキモノト判断セラル。

二、又今後ニ於ケル其推移ニ就キテモ現在ニ於ケル狀態ノ繼續シ得ルモノトマ相信セラル。但シ万一將來ニ於ケル戰局ガ独国ニ極メテ

不利ニ推移シテ国民全般ガ厭戦
指導ニ対シテ大ナル不信ヲ表明スルニ至ルカ
或ハ「ヒットラー」一死セル場合等ニ於テハ
両者ノ間ニ重大ナル問題ヲ惹起スル
虞アリトセザルベシ。

説明。

一、国防軍ノ有スル特色ノ中ニ左ノ如キ事項アリ。

イ、古来ノ堅実ナル軍ノ傳統ヲ継承ス。

前大戦直後ノ世情極テ険悪腐敗ス時ニ於テモ当時ノ所謂到限軍隊ハ別ニシテ以来ノ堅実ナル軍ノ傳統ヲ保持シテ中ニ在リ比即度ヲ失ハズ不偏不黨紛糾混迷セル祖国ニ対シ無言不動ノ柱石トナリテ以テ之ヲ山崩壊ノ前ニ支ヘ今日ニ及ビタリ。

2. 政治ニ拘ハラズ、其統帥、独立ヲ確保ス。
政治ニ拘ハラズ軍事ニ事ヲ念ズル反面
部外ノ統帥ニ対シ干渉ヲ極度ニ
排害ス。

3. 国民ハ軍ニ対シ絶大ナル崇敬ノ信
頼ヲ有ス。

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

二、ヒットラーハ前項ノ如キ軍ノ特色ニモ鑑ミ軍ノ密接ナル提携協力延ヒテハ之ガ掌握ヲクニテ独国ヲ指導シ得ザルコト及右ヲクニテ独国ノ興隆ヲキコトヲ熟知シアルヨリテ当初ヨリ本件ニ関シ充分若干意ヲ各種ノ施策ヲ行ヒ今日ニ及ビアリ。

而シテヒットラーノ軍ニ対スル根本思想ハ左ノ如キモノト認メラル。

八、軍ハ国家ガ対外的ニ其欲スル所ヲ貫徹

ズ為ニ重要ナル手段ナリ。從テ其要求ニ対シ強力ナル軍ヲ整備スルヲ要スト共ニ軍ハ国家指導者ノ絶対掌握下ニ其意志ノ儘ニ使用セラレザルベカラズ。

2. 軍ハ党ト親和ス必須ノ要件ナルモ軍ノ政治化ハ絶対ニ之ヲ排サザルベカラズ。

註。

ヒットラーノ党軍一致ノ為ノ施策例左ノ如シ。

1. 国内手薄時代ノ宮ニ軍ニ対スル敬意ヲ失ハズ。

2. ヒンデンブルグ其他将軍ノ長老ニ対スル敬意ヲ盡シタリ。

3. 統帥ノ独立ニ関スル軍ノ政治化ヲ策セズ。

4. a. レーニン事件。

b. 突撃隊(S.A. Sturm Abteilung)及親衛隊(S.S. Schutz Staffel)ヲ

作戦地方ニ出ル軍司令官ノ指揮ヲ受ケシム場合ハ純然タル軍隊トシテ一般所用ト全然同様ニ取扱ハル

アリ。

C. 覚員ガ軍ニ入リタル場合ハ純然タル軍人トシテ終始シ所謂覚員ノ活動ヲ行ハシメズ。

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、軍ハヒットラーノ前述ノ如キ態度ニ鑑ミタルヲ以テ

独国ニ対スル

相互独国ニ対スル

提携

特ニヒットラー氏ノ事件ニ通ジテ

ヒットラーニ対スル信頼ハ論ジトシテ其度ヲ加ヘ

更ニヒンデンブルグ元帥ガ総統ト

ナルヤ即日宣誓ヲ行ヒ以テ陸海空軍

陛下ニ捧ケ全ク其

指揮ニ入リ

此ニ任務領域ノ如キ

総統ニ統合

指揮セラル

軍ハ

今日ニ及ビタリ

而シテ現在ノ

軍ハ

尊敬

三二

信頼ハ絶大ナルモノアリテ従テ両者間係ハ良好其緊密ナル状態ニアリ。

四、従来営軍間ニ時ニ紛議ナキニシモアラザリシガ右ハ「ヒット」トラーガ悪シキ為ニ非ズシテ其幕僚ガ悪シキ為ナリトナシ、

（其例ハ独伊間戦争一年ニ亦ルモスコー攻撃ノ件

ナレ作戦及ブーカサスレ作戦ノ件

又ナチス政策ニ対スル不満等ニ就テ

三

戰爭遂行中ハ論議スベキニ非ズシテ戰後之ヲ是正スベキモノトナシ一般ニハ表面化シアラザル狀況ニアルモノノ如シ。

五、以上ノ如キ實情ヨリシテ現在ヒットラーハ實質的ニハ既ニ當ノ威力ニヨリ国家權力ヲ行使シアルニ非ズシテ寧ロ軍ヲ確実ニ掌握シアルコトニヨリ其地位ヲ安固強大ナラシメアリト稱スルヲ得ベク又現在當ニ代ルベキ勢力ハ軍以外ニ存セザルガ如ク「ヒットラー」

三四

めくれず

ニレテ軍隊ヲ失ハル限リ軍ト軍トノ対立或ハ軍以外ノ反対勢力ハ起リ得ザルベシト云フヲ得ベシ。

而シテ従来ヒトラーハ當軍両者ヲ実質的ニ一体化スベキ措置ヲ着々実現シテ以テ国防両者ノ国体ハ良ク其堅密ニ保ツベキ種ヲ得ベシ。

従テ今次伊国政変ノ如キ事態ヲ独国ニ於テ生ズルガ如キ事ハ現在ニ於テハ全ク考ヘレザルコトニ属ス。

次ニ右両者ノ関係ハ今後ニ於テモ変化ナキモノトモ想ハセラルル次第ナルガ、一方独国国体、本質ハ飽迄右ナルモノ、特質等ニ鑑ミルトキハ一戦酣ガ極ッテ独国ニ不利ナル状態ニ推移セル場合ハ両者ノ間ニ重大ナル問題ヲ生ズル虞ナキヤニ就キテハ遺憾ナガラ今日ヨリ如何トモ予断ヲ許サズ遺憾ナルベシ。

一、勞働事情

(1) 戰時下軍需生產增强ノ爲獨逸勞働界ニ活躍セル勞働者數ハ外國人勞働者七百萬人ヲ含メ二千八百萬ニ達シ、獨逸總人口八千一百萬人ニ對シ獨逸勞働者ノ場合ハ二六%ニシテ動員總數一千二百萬人ヲ含スレバ三千三百萬人即チ總人口ノ約四一%ハ直接戰爭遂行ニ從事シツヽアリ、戰爭勃發當時戰力ノ急激ナル昂揚ニ應ズル爲軍需品工場及特殊工場ニ於テハ十一時間乃至十二時間勞働ヲ規定セシモ、過度ノ勞働ニ依ル能率低下ト經濟機構ノ一應完了ニ鑑ミ一九四〇年一月以來再ビ戰前ノ八時間勞働制ニ復歸シ、又勞働能力ノ長期維持ト內部戰線强化ノ爲休暇禁止令ハ四ヶ月後ニ之ヲ取、ツテ勞働力ノ保護ヲ圖リ、尙婦人勞働者及少年工ノ保護ニハ萬全ノ措置ヲ施シツヽアリ

(2) 農村勞働力ノ不足ニ伴ヒ多數ノ俘虜ヲ以テ之ガ補充調整ニ當ラシム外、男女青少年、學生、兵士等ヲ之ニ動員シタルモ必ズシモ豫期

ノ成果ヲ收メタリトハ稱シ得ズ、尚昨年三月農村ニ於テ未ダ勞働ニ從事シ居ラザル者及終日勞働ヲ爲シ居ラザルモノノ申告義務ヲ課シタルガ本年一月更ニ之ヲ擴張シ、男子十六歳以上六十五歳迄、女子十七歳以上四十五歳迄ノ勞働申告令ヲ公布シ、總力戰體制ヲ一層強化シタルヲ以テ、遊休人口殆ンド皆無ノ狀況ナリ

(3) 昨年五月平時經濟ヲ目標トスル諸計畫ノ樹立並ニ其ノ實施ノ禁止令ヲ公布シ、戰時體制ノ全面的確立ヲ期ス

二、教育

(1) 獨逸ノ大學ハ最短修業期間六學期ニシテ戰爭當初一ケ年三學期制度ヲ採用シタルモ一九四〇年以來一ケ年二學期制ニ復シ、三ケ年修了制ニ復歸シタルモ、學生ノ徵集延期ヲ認メズ、學科ニ依リ區別スルコトナシ、現在兵役ニアル學生數ハ十二萬乃至十四萬ニシテ、左ノ場合ニ於テ服役中修學ノ機會ヲ與ヘラル、(イ)軍ガ必要ニ依リ修學ノ爲派遣スル場合 (ロ)醫科學生ニシテ衛生隊ニ勤務セル者研究ノ爲休暇ヲ與ヘラル、場合 (ハ)長期ニ亘リ兵役ニアル上級學生卒業試驗受驗ノ爲原則トシテ半年、場合ニ依リ一年間休暇ヲ與ヘラル、場合

(2) 初等及中等教育制度ハ一九四〇年改革ヲ見(イ)獨逸國民ノ政治的文化的及經濟的基礎ノ綜合觀察及其ノ實際生活トノ結合 (ロ)國防教育ノ重視 (ハ)教科ノ簡素化及統一的排列等ノ方針ヲ指示ス

(3) 入營前ノ青年男子ノ國防教育ハ突擊隊ニ參與セラレ、射撃、野外教練ハモトヨリ、地歩教練(地歩觀察、地圖利用、地形利用、見取圖製作、距離測定等)ニ及ビ國防軍ニ於ケル勤務ノ基礎的訓練ヲ爲セルヲ以テ部隊ニ於ケル初年兵教育ヲ容易ナラシメタリ、ナチス自動車運轉者團(NSKK)及ナチス航空士團(NSFK)ノ所屬員ノ數年來ノ經驗モ國防軍ノ戰力基礎强化ニ貢獻シ居リ、

(4) 全國ノ大學及研究所ノ教授、講師總數ノ四割乃至四割五分ハ召集ヲ受ケ其ノ內醫科教授ハ殆ンド總テ召集セラレ、各其ノ專門科學ニ於テ軍事活動ニ貢獻セル爲、戰爭ニ關スル科學ハ其ノ機能ヲ平時以上ニ發

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

揮スルニ至リタルモ、基礎科學ニ於ケル若干ノ機能低下ハ之ヲ免レズ

三、藝術文化

(1)音樂、演劇、文學、美術、映畫等一切ノ藝術活動ハ戰爭ノ深刻化ニモ拘ラズ概シテ常態ヲ維持シ、特ニ歌劇ニ於ケル初演、映畫ニ於ケル封切頗ル多シ、映畫製作費ハ從來四十%迄外國市場ニヨリテ償ハレタルモ、今日全ク國內所得ニヨリテ滿サレ、各映寫場共入場者ノ增加ヲ示シツヽアリ

(2)獨逸國民ノ知的水準ヲ示スバロメータータル圖書ノ發行數及賣上數ハ未曾有ノ增加ヲ示シ、兵士ノ讀書慾甚ダ旺盛ナリ

四、物質生活

(1)食生活ハ週間單位ノ切符制度ニ依リパン、バター、肉類、チーズ、スパゲッティ類、調理用油類、卵、砂糖等ニ付配給制度ニシテ家庭食、外食ヲ通ジテ切符ヲ用フルニ非ザレバ飲食シ得ズ、旅行者ニ付テモ同樣ナリ、配給量ハ左表ノ如クパン、脂肪ニ付テハ漸次改善セラレ、

肉類ハ殆ンド困難トナリツヽアル狀態ナリ、食糧事情ノ詳細ハ經濟ノ項ニ讓ル

(一週間分、單位瓦)

糧	一九三九、一九三九	一九四〇、一九四一	一九四一、一九四二	一九四二、一九四三	一九四三、一九四四	一九四四、一九四五	一九四五、一九四六
穀類	八・二七二	九・二二五	一・六二	四・六	一〇・一九五	一九・三	
パン	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇
脂肪(一日)	六〇〇	二二五〇	二二五〇	二〇〇〇	二二五〇	二二五〇	二二五〇
肉類	七〇〇	二〇六九	二〇六九	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六
糖		五〇〇	四〇〇	三〇〇	三五〇	二一八五	二五〇

(2)衣生活ニ於テハ夙クヨリ切符制ヲ採リ一人一年間百五十點、洋服一着六十點乃至八十點ニシテ極メテ窮屈ナリシガ、最近コノ面ニ於ケル統制ヲ一層强化シ本年八月一日ヨリ九月末迄、正服、喪服及空襲被害着用衣等ヲ除キ一般的衣服類ノ新調ヲ禁止シ、新調中ノモノノ仕立ヲ中止シ當分ノ間衣料切符ノ效力ヲ停止シタリ、軍モ切符制ニシテ婦人輔、

ニハサンダルガ流行シ一般ニ黒衣流行ス、古着ノ仕立直シ、修繕等ニヨリ間ニ合セノ實行盛ナリ

(8) 住宅政策ハナチス政策ノ一重要部面ニシテベルリン其ノ他ノ重要都市ノ防空的見地ヨリスル都市改造ヲ計畫實施中ナル外、敵後準備ノ意味ヲモ含メ、且一般住宅ソ公的建築又ハ產業上ノ建築ヘノ轉換ニ伴フ補充並ニ工場勞働者住宅ノ確保ノ爲住宅營團ニ依ル住宅ノ新築ヲ奬勵シツヽアリテ最近、工員住宅ノ營團ヨリ成ル「ヘルマンゲーリング都市」及「KDF自動車都市」ナル新工業都市ヲ建設セリ、ナチスハ住宅建築ニ對シ「農業勞働者住宅」「小家園住宅」「國民住宅」ナル三種ノ形式ヲ要求シ、又主トシテ歸鄉兵士等ノ需要ニ應ズル爲政府ニ於テ建築費ヲ貸付シテ小規模移住(低收入ノ家族ニ、小住宅付ノ耕地ヲ與ヘ、半バ自給的生活ヲ爲サシメツヽ生活ヲ保障スル制度)ノ實施ヲ見ツヽアリ、之ニ依リテ一九三九年ニ於テ增加シタル住宅數ハ二十二萬戸ヲ數ヘタリ

(4) 府ハ戰ノ緊迫化ニ伴ヒ勞務動員ノ見地ヨリ本年一月一部商業關、料理、ホテル等ノ閉鎖令ヲ公布シタルモ、七月二十一日、健全ル中等ノ心ヲ擁護スルノ根本方針ニ基キ之ガ閉鎖措置ヲ打切ル旨發セリ

一、欧洲戰爭勃發後約三ヶ年間ハ直接戰爭ニ依ル犧牲者ノ數モ少ク日民生活亦カレモ大ナル苦痛ヲ伴ハザリシモ一九四一年六月独蘇戰勃發スルヤ戰爭長期化スルニ至リ独ハ總力戰体制ヲ確化敵味方ノ資源ヲ極度ニ強化シ日民中直接間接戰爭遂行ニ干與セザル者ノ存在ヲ許サレザル情況トナレル処此ノ間敵ノ戰力増強セラルルニ伴ヒ西部欧洲方面ニ於ケル總我空軍勢力ノ推移ヲ見、米英側ノ独諸都市ノ爆撃強化等レ其ノ直接軍需工場ニ対スル被害ハ別トスルモ人民ノ

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

親善相互アリ既ニ獨逸ニ保ル直接機密書ノ數々ニ依リ
加スル一方日民ノ消耗生活ハ低調ヲ契機トシテ急
激ニ低下ヲリ

二、既初相当ナル意気込ヲ以テ開始サル独ソ戦ガ所
期ナル熱ノ抵抗ニ依リ短期終結ヲミズ第一次第二次
ノ冬期反抗ハ抵軍ニ相当ノ損害ヲ與ヘ且東部戦線
ノ膠着ヲ招来セル事実ハ独政府ガ開戦ト初期期
戦ヲ呼称セルダケ日民ニ大ナル失望ヲ與ヘタルハ否定シ
得ズ。特ニ「スターリングラード」ニ於ケル独逸軍ノ潰滅
ハ特ニ衝撃ヲ與ヘタルモノ如ク本年三月「クラスベリス」宣伝

四五

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

相反シタル結果ヲ引續キ独ソノ志向スル重大問題ノ説キ口長ノ奉命超ヲ促セルハ戰爭長期化ニ伴フ士気ノ沈滞ヲ防止センガ為ナリ

三、次ニ本年七月ノ米英軍「コンリー」島上陸、引續クゴロ首相ノ辞職ニ伴フ「ファウレスト」政权ノ出現、更ニハムブルグ其他独都市ノ爆撃ガ独民心ノ抗戰意志ニ影響セルコトハ否定シ得ベカラズ

特ニ最後ノ独都市ノ爆撃ハ米英ガ独ニ対スル戰力殺摧手段トシテ重視セン処ニシテ独ヲ亦爆撃ニ依ル士気ノ阻害ヲ極力防止セントスル中ナリ

四、要之戰爭滿四ヶ年ヲ迎ヘントスル独ソノ戰後ハ戰

而ノ深キシカラザルト 対外爆発ノ激化ノ為 然ルノ前途ニ
和快ニ居ル向アルモ 独ロ民ハ前回大戰ノ苦キ経験ト
今次大戰ノ性格ニ鑑ミ決シテ敗北スルヲ得ザルベキ所
以ノモノニカヲ奮ヒ起シツツ黙々トシテ其ノ部署ニ於テ
抗戰力発揮ニ全力ヲ振ヒツツアル情況ニシテ「ヒトラー」総統
能ニ対スル国民ノ信頼ハ未ダ動揺シ居ラズ
然レドモ「ヒトラー」総統及「ナチス」黨ノ聲望ハ、独ガ敗、丁、
諸、伊、蘭、佛ヲ順次制圧セル当時トハ異リ「ヒトラー」総統
ノ施政ニ公然論評ヲ加フル者モ出デ居レリトノ情報
アリ 斯ク一般民心ニハ種々ノ不満ハアル如キモ斯ル不満
ハ沿仏カトナリ得ザル一方政府ハ其ノ警察力ヲ拡充

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シベリヤムラノヲ領トスル三百万ノ「ウスタボレ」(秋葉警察官)ハ
ボースレ政治ノ中核トナリ居ル関係上「ヒレ總領」ノ口民把握
ハ絶対ニ重要スルコトナキヤノト観測セラル

五、但シ此処ニ注意ヲ要スルハ独ヲ合ハ欧米人ト日本人
トノ抗戰意志ノ差ニシテ日本人ハ戰局ノ悪化ニ伴ヒ徐
々ニ疲弊スル様子顕ナル意志力ヲ有スルモ独逸欧米人ハ斯
ル徴候サヘ有セザルコトナリ

四八頁

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

二 政治

(一) 昭和十八年夏ニ於ケル米国ノ情勢　佐藤忠研究生

(二) 政情　大久保研究生

(三) 国民生活　大久保研究生

(四) 民心ノ動向

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(1) 政情

一、議會ト政府

ニューディール政策以來ノ「ル」大統領ノ独裁的傾向ハ戰爭分入以來益々助長サレ、從テ議会ノ機能ノ低下ヲ來レソノ無能ヲ云々サルヽニ至レリ。然レ共最近ニ至リ漸次大統領独裁ヲ攻撃スルノ空気議会内ニ生ジ、大統領ノ戰時独裁权ガ ① 戰後問題 ② 戰爭ニ直接関係ナキ国内改革問題、ノ二点ニ迄利用サル、ニトヲ極力警戒シツヽアリ、或ハ ① 戰後問題

題ニ関スル委員会ヲ議会内ニ設置シ、或ハ②
政府提出法案ニ対シ否決、握リ潰シヲ行フ
等最近ノ議会ノ動キハ政府幸制、大統領、
独裁ヘノ反撃ノ動向ヲ示シツヽアリ。然レドモ
議会トシテハ戰争遂行ニ直接関係アル重
要問題ニ就テハ憲モ政府ニ反対スルノ意圖
ナク、例ヘバ戰争費算、兵役法改正等ニ就テ
ハ無條件的ニ賛成ヲ与ヘツヽアルハ留意ヲ要ス。
昨年十一月ノ中間選挙ニ於テ共和党ノ進
出著シキモノアリシ以来共和党ノ反政府色濃ク

ナリツヽアリ、又外交問題ニ就テノ孤立派、内政問題ニ於ケル反ニューディール派、勞働団体ノ一部、農村議員グループ、等反政府的立場ニ立ツ形勢ニアリ、「ル」大統領ハ此等各勢力間ノ調和ト牽制ニ手腕ヲ発揮シ難局ヲ切リ抜ケ来リシモ最近戰時経済高度化ニ併フ行詰リ、諸政策ノ失敗等ニ依リ反政府的動向ヲ採ルモ「前述ノ如ク戰局ニ対スル楽觀的見透シハ政府ノ戰爭遂行方策ニ全面的協力ヲ妨ケ、之ヲ要スルニ「ル」大統領ノ政治力ハ少ズシモ

衰ヘズ ノ感アリ。

二、戦時経済高度化ノ行詰リニ伴フ政治問題

最近ニ於テ米国生産力ハ略〻限界ニ達スル
ト共ニ民需生活物資ニ就テモ亦ソノ切下ゲノ
限界ニ達セリト言ハル。(比較的)高キ物質生活ニ
慣レ、極端ナル生活ノ切下ゲニ堪ヘ得ザル米
国人ニトリテハ、軍需生産力ノ引上ゲノ為ニハ
民需生活物資ノ保障ヲ行ハザルベカラザルノ
事情最近ニ於テ生ジ来レリ。コノ両者ノ矛盾
解決ノ問題ハ、経済問題タルト共ニ政治問題

トシテ現ハレツヽアリ。

(イ) 勞働問題

米国勞働界ハ「ロ」大統領ノ戰爭遂行方策ヲ全面的ニ支持スルト共ニ他面勞働者階級ノ生活擁護ヲ主張シ、両者ノ間ヲ往来シツヽアリ。

ルイスヲ總裁トスル炭礦勞働者組合ハ最モ強ク勞働者ノ生活擁護ヲ主張シ、果敢ナル罷業運動ヲ展開セシモ、コレトテモ結局戰爭完遂支持ノ埒内ニ於ケル運動ナルコト

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

前大戦時代ノ罷業運動ノ一部ニ反戦的ノモノアリシト比較シ留意スベキ点ナリ。

然レ共インフレーションノ危険増大ト共ニ米国勞働者層ノ生活擁護ノ要求ハ高マルコト必然ニシテ道義的協約ヲ以テシテハ解決シ得ザルベク米国ノ戦争遂行途上ノ深刻ナル悩タルコトハ疑ナシ。

尚議会方面ニ於テハ「ル」大統領ノ勞働対策ヲ微温的ナリトシ、今年戦時勞働争議取締法ヲ可決シタルモ、大統領ハ之ニ署

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

セザ、更ニ議会ハ大統領ノ拒否ヲ否認シ右
反罷業法ヲ成立セシメタリ。右ハ大統領ノ
議会ニ対スル政治的敗北ト目セラル。

(ロ) 農村問題

インフレーション的傾向ノ助長ニ伴フ農産
物價ノ鋏狀價格ハ増産問題ニ大ナル障
碍ト考ヘツヽアル実情ナリ。議会内ノ所謂
農村議員グループガ強ク農産物價格方別
上ヲ主張シテ止マズ、コレラノ分子ハ大農ヲ
代表スルモノ多ク政府ノ補助金政策ヲ以テ

八

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シテハ満足セザル狀況ナリ。
農産物價格引上ノ問題ハ勞働賃銀引上ノ問題ト関聯シモチツヽ政治問題化シツツアリ。

(ハ) 人種問題

軍需生産発展ニ伴ヒ勞力不足対策トシテ米口人口ノ一割ヲ占ムル黑人ヲ使用スルヲ余儀ナクセラレ居ル実情ニアリ。黑人編入ヲ禁止シ居リタル米国海軍ニ於テモ黑人兵採用ヲ発表セリ。

ニューヨーク市内ノ黒人問題ハ最近経済的政治的地歩ヲ促進セントノ水平運動盛ントナリツヽアリ。

最近デトロイドニテ黒人勞働者ノ住宅問題ニ就キ紛糾セル事例アリ。

アメリカ内ノ二タヤ人問題ニ就テハ戰爭勃発以来日内ノ一部ニ今次大戰ヲ猶太人ノ陰謀ナリトシ反猶太運動ヲ展開シ御テ政府ヨリ反戰的運動トシテ断圧ヲ受ケタルモ、最近多数猶太人ノ流入、闇相場ニ於ケル猶太人ノ暗躍等ヲ因トシ一般民衆間ニ反猶太思想漸次高マリツヽアリ。

(ロ)國民生活

(イ) 衣類

絹織物操業停止、羊毛消費量ノ大割削減ヲ行ヒタル外本年五月三十一日衣類ノ徹底的簡易化ヲ衣服業者ニ命ジタリ、戦時生産局長官ハ今冬ニハ衣服織物類ニ三%ヲ引下ゲラルベシト述ブ　現状ハ毛織物大ナル不足ナレ、綿製品ハ減ズベシ、人絹製品ハ五〇%減トナルベシ、猶靴下、ブラウスノ等ハ入手困難ナレドモ大ナル苦痛ヲ感ズル程度ニハ至ラズ

(ハ) 食糧

イ 砂糖切符制　一週一人当　半ポンド

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

コーヒー　一週一人当ロ、二ポンド（一九四一年一人当消費量ノ六〇％）

ナルモ船腹不足ノ為輸入促進セラレズ三月ヨリ一般料理店ノ配給量ヲ半減セルノ外、最近ニ至リ更ニ配給量ヲ減少セリ

2　肉類バター、チーズ、食用油脂類ノ切符制

一人当一週ナ六ポンドトシ肉類、バター、チーズハ何レモ一斉度入点ナリ　然レドモ一部都市ニ在リテハ肉類ノ出廻悪リ闇取引ハ横行シアリ（二月末現在　桑港五〇〇軒中一三九軒　ロスアンゼルス　二千軒中　九〇〇軒ハ閉店ノヤムナキニ至レリ）

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

今後ハ軍需ノ急増、輸送ノ供出ニ依リ之ガ需給ハ相当窮屈化スベキモ現在ノ度大ナル制限度ニ至ラズ他ノ交戰国諸国ニ比シ相当豊富ナリ

3 野菜及果実類、鑵詰ノ全面的切符制

一ヶ月四十八点（一例パインアップル鑵十一点、豌豆七点等）

(三) 住宅（含自動車）

イ 一部都市ノ住宅難ハ相当深刻ニシテ緩和セラレズ一九四二年度六十七万軒ノ住宅建築資材ノ優先配給（現在農家以外ノ住宅二〇〇万戸）セルノ外商店改造古屋補強ヲ計画シアリ

2 昨年度自動車、冷蔵庫、洗濯機、家具（金庫使

用ヒモノ）ノ製造禁止ヲ為シタル外三月十七日自動車用ガソリンノ配給量ヲ半減ス（一週二五ガロンヲ至一二五ガロン）

（四）物價昂騰

物價指數ハ一九三五年ー三九年平均ヲ一〇〇トシテ一九四三年三月ニハ一二二・八トナレリ　本年ニ入リ毎月約一%增加シ最ハ二ヨトハ物価局長官ノ認ムル所ナリ

尚労働総計局発表ニ係ル三十三都市ノ賃銀労働者及低給俸給者ニ付生計指數ハ一九三五年ー三九年平均ヲ一〇〇トシ

	指數	食糧品
一九四一年平均	一四八・一	一三三・七
十一月	一五四・二	一四三・五

一九四年 十二月	一五七、二	一四九、六	
一月	一五八、七	不明	
二月	一六一、〇	〃	
三月	一五九、四	〃	
四月	不明	一五〇、二	
七月	一六五、四	不明	
十一月	一六四、八	〃	
十二月	一七〇、四	一七四、九	

尚本年二月ノ生計費ヲ前年二月ニ比較スレバ平均七%高

内食糧品一五、二%、衣服類四、九%、雑貨三、七%、等

ニシテ斯ル物価高ニ呼応シ労働賃銀モ引上ゲラレ一九四二

年五月ヨリ十二月迄ニ工場労働者ノ賃銀ハ一週当一〇%

増加シタリト発表ス

物価騰貴ハ種々ノ問題ヲ包蔵シアリテ現在ノ処最重要

問題ナルベク後述労働事情ヲ概ネ之ニ原因ヲ有ス

(五) 生活ノ切下ゲ

尚当局ハ一九三二年程度ニ迄生活ヲ切下ゲベク又之ヲ甘受スベシト繰返シ述ベツツアルモ一般ニハ意ノ如ク為ラザル如ク商取引ハ漸増ノ傾向アリ

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(ハ) 民心ノ動向

(イ) 戰爭ニ対スル一般的態度

イ 戰爭目的　所謂「四ツノ自由」ナル戰爭目的ハ抽象的ニシテ民心ヲ十分把握スルニ至ラザル如シ　何等特定ノ理念乃至思想ノ為戰ハレツツアリトノ意識稀薄ナルガ如シ一般人ヲ戰爭ニ駆リ立テ居レルハ復讐感ノミナルガ如シ

2 主敵ハ日本ナリトスルモノ多シ　戰後モ日本ト親好関係ヲ保持シ得ルニ至ルベシト予フルモノハ僅少ナリ（六月十一日ギャラップ調査　日本ト戰後ハ親好関係ヲ保持シ得ト為スモノ　八%、ドイツニ対シテハ六十七%）

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

3 米政府発表ニ依レバ六月三日現在ノ戦死傷数等左表ノ如クニシテ前大戦ニ於テ二三四、〇五五ノ損害（戦死及戦傷死五〇、九二四、戦傷一八三、一三一）ヲ受ケタルニ比シ比較的戦禍ヲ遠ザカリ潤沢ナル国民生活ト相侍チテ未ダ戦争ヲ身近ニ感ジ居ラザルガ如シ

米国人的損害一覧表

陸軍	戦死	六、七五九
	負傷	一四、八六五
	行方不明	二、二四九
	俘虜	一、六三〇
	計	六〇、四一九
海軍	戦死	七、三六〇
	負傷	四、七〇六

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

行方不明　一一、一二六
保護　三、二四一
陸海軍合計　二六、四三二
八六、八五二

4. 一般ニ最近ハ吉報奉戰場ヨリ至リ戰勝氣分濃厚ナリ

5. 戰後經營論議ニシテ國際經濟通貨、物資等ニ關シ世界改有ヲ樹立シ米國其ノ主導性ヲ保持セントノ意向盛ナリ

(二) 現政權ニ對スル態度

對手指導者ニ關シテハ現政權ニ從ヒツツアリ（六月十五日ガロップ調査　「ル」ノ内閣政策ヲ支持スルモノ五四%、外交政策ヲ支持スルモノ八三%）次期大統領候補トシテハ仍「ル」

二人象アリ（五月二十八日　フォーチュン調査　戰爭継續中ナラバ「ル」ヲ四遠セシムベシトスルモノ　六四%）

(三)各階層協力ノ状況

イ　農業者

開戰以來概ネ協力シ来リタルモ　最近ニ至リ増産ノ為ニハ農産物価格ノ引上ヲ主張シ「ルレ」大統領ノ助成金改策ハ小農保護ニ止マルモノナリトシテ之ニ反対シ遂ニ大統領拒否權ノ発動ヲ見ルニ至リタルハ周知ノ事ナリ　物価ノ騰貴ニ伴ヒ農業者及工業家及ト小農乃至ハ労働者ノ利害対立ハ漸ク顕著ナラントス

2. 労働者

開戦以来暫クハ二大労働団体ハ一致シテ政府ヲ支持シ来リシモ本年ニ入リ物価高ニ依ル生活難ヲ理由トシテ賃金引上ゲヲ要求スルモノ相継ギ之ガ為事業主ノ拒否ヲ至ハ労働局ノ裁定ニ対スル報復手段トシテノ罷業ヲ企出スルニ至ル 即チ本年一月以降

A、「コンカゴ」四大罐詰工場十八万人ノ怠業

B、二月下旬西部航空会社二十万人其他罐詰工場ニ於テ賃金値上ゲ要求ノ罷業ヲ行フ

C、五月「クライスラー」八万五千、六月下旬「フォード」ノ罷業

D. 炭坑労働者 五十余万人「ルイス」組合長ノ指揮下ニ一
週二帯ノ賃金引上ヲ要求シ四月ヨリ罷業開始 累次
休戦期間ノ延長ヲ行ヒ来リタルモ 六月四日ニ至リ「ルイス」
復職命令ヲ発ス 一部ヲ除キ復職セル如シ(上半期
ニ於ケル之カ為ノ減産ノ如ニ万八千瓲ナリト発表)

E 五月アクロンゴム工場ノ従業員五万罷業ヲ始メタルモ
大統領ノ挙ノ昔ニ依リ終熄ス
罷業ハ今後暫クノ間ハ或程度ノ賃金引上ニ依リ安快ニ落
着キ差当リ八ナル戦争遂行ノ障害トハ成ラサルベシ 但之ガ
背後ト為リ居レル物価政策ニ注目ノ要アルベシ

一般要論ハ四篇者ヲ非愛国者ナリトシ非難シアリ

3 言論界

一部孤立派ニ在リテハ英蘇トノ連繋ニ疑念ヲ持チ且

戦後ハ孤立主義ニ帰ルベシト説ケルモ概ネ一致シテ戦時

体制ノ強化確立ヲ呼ビツツアリ

4 婦人層学生層

未だ大ナル動揺ナク概ネ一致シテ戦争完遂ヲ主張シアリ

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

二　政　話

昭和十八年一夏ニ於ケル英国ノ情勢

山島　研究生
足立　研究生
中村（実）研究生
藤原　研究生
熊谷　研究生

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、政情

(一) 英國ノ政情ハ戰爭遂行ニ關スル限リ現在程メテ安定シ内閣内閣ニ於テハ相當ノ波瀾ヲ生ジ居レリ。而シテ内閣上ノ波瀾ハ、戰爭ガ及ボス影響ニ有利ナリトノ安心感ニ原因スルモノニシテ、「チャーチル」内閣ノ安定性乃至指導力ヲ何等動搖セシムルモノニ非ズ。尊ノ戰爭ニ於ケリテ内閣問題ニ関シ、「チャーチル」ハ英國及世界ニ於ケル情勢ヲ好轉シ、戰爭指導者トシテノ「チャーチル」首相ノ地位ハ組閣以來最大ノ安定性ヲ示シタリ。

(二) 「チャーチル」内閣ノ安定性ノ示スベキトシテハ、勞働黨年次大會ニ於ケル聯立内閣擁護ノ決議及輿論調査會ニヨル人気投票ノ

[illegible]

大会ハ、ガヤーケンレ聯立内閣擁護ヲ圧倒的多数ヲ以テ決議セリ。

多数者ハ僅カ一名アリタルノミ。昨年五月、大会ニ於テモ同様、聯立

内閣留任ノ決議ヲ行ヒたんが、之ニ対スル反対者ハ数名ニ及ビタリ。

聯立内閣制度ノ理論的延長トシテ補欠選挙ノ休義内数アリ。

昨年度大会ニ於テハ選挙体義ニ対スル不満多クノ採決ノ結果

ハ一二二票、〇〇〇対一二〇九、〇〇〇トなったノ僅少ノ差ニテ辛ウジテ体義

継続ニ決シたんが、本年度ハ二四三、〇〇〇対三六四、〇〇〇トなった圧倒的

多数ニテ休義ニ決シタリ。此処ニモ現内閣ノ安定性ヲ見ル得ベシ

輿論調査会ハ本年七月現内閣ノ人気投票ヲ行ヒたんが、

めくれず

出版年月	政治問題	記事ヲ主トスル記事
大正四年一月	六三%	九三%
大正四年二月	五六%	八六%
大正四年三月	三六%	六四%
大正四年四月	四一%	八一%
大正四年五月	五八%	八二%
大正四年六月	三三%	八七%
大正四年七月	三二%	八八%

上記ノ事例ニ及ボシ例ニ基ガ好轉セシ及ボ

四國文學部、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

政府ト全民間ニ於ケル輿論ガ其ノ抗議意識ヲ発化シテ現戦時
内閣ノ擁護シツツアルヲ示スモノナリ。

(三) 内政上ノ政策ニシテ挙ゲラルベキモノハ、企業者ノ問題ヲ続ル
保守党、労働党間ノ対立ノ尖鋭化及保守党系ノ中央協会
ノ成立、之ニ出方第党ノ色彩強キコンセンサスノ党ノ出現ナリ。
戦時ニ際シ、労働党ノ発言権増大スル事ハ勝者内閣成立事情
ニ徴ムルモ明カナルガ、戦時中ノ企業者ノ政策理論数、戦後ノ
企業者形態問題ヲ続リ、保守党、労働党間ニ調和シ難キ
主張ノ差異アルコト念ヲ明瞭トナレリ。保守党ノ子中ニハ、新党ノ機
会ニ於ノ強力ナル社会保障企業者ニ関シ、出方第党系ノ

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

関係ニ対シ不満ヲ懐クモノアリ、又首相ガ緊縮私的企業ノ活動ヲ
盛ナラシムベキトノ見解ヲ表表セルコトハ、政府保守党ノ子ニ対スル
労働党ノ対立ヲ激化シタリ。

斯ル保守党ノ、労働党対立ノ雰囲気ノ下ニ、本年六月保守党
員並ニ自由主義者ヲ構成員トスル中央協議会成立シ、旧人ノ主導性
及自由主義原則ノ維持ヲ主張スルニ至レル八、保守党側ノ自己
防衛、表現トモ見ラルル所ナリ。更ニ労働党大会ニ於テ党刷
新、地位ヲ左翼系ノ「ミリーンド左翼系ノ「ミリーンド」ガ掌ル、
為者ガ敗退セルコトハ英国金融界ニ多大ノ影響ヲ與ヘ、
保守党ヲシテ結果シテ「チャーチル」支持ニ向ハシメタリ。此ノ外財産

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

共有ヲ段階トスル「コンモンウエルス」党ノ進出ハ最サキ民衆ノ一端ヲ示モノニシテ保守党系ノ首班ニ得ザル者ナリ。「コ」党ハ補欠選挙ニ於テ殿ニ一名当選シ、其他ノ場合ニモ次位又ハ三位ヲ占メ、相当ノ人気アリ、労働党ノ地盤ニ喰ヒ込ミ、来年ハ之トノ合体ヲ企図シ居ルモノ如キ、労働党側ハ「コ」党ニ対シ最モ強ク反対シ居レリ。

保守党ハ、最近ノ輿論及ビ労働党系勢力増大ニ対シテ正面ヨリ自己防衛措置ヲ採ルト共ニ、又自己ノ相当ノ譲歩ヲ考ヘテ労働党ノ政策ヲ採用シテ以テ対應スルノ必ヲ知ルヲアリ、即チ其ノ金融大臣ニ就テハ、北条保険会社ノ原則採用、教育制度改良、人頭登用等ニ関シ決議ヲ行ヘルハ之ナリ、此点労働党ノ

めくれず

主張トノ差異殊ニ甚シカラサルモノアリ。

然レトモ之ハ企業組織ニ関シ、労働党ノ主張トノ間ニ根本的差異ノ存在スルヲ示スモノナリ。

右ノ他ニ、共産党ノ、労働党ト合流運動ヲナシ、労働党ハ共産党ニ乗取ラレン危険ヲ感シ、英蘇関係ノ進展ニ伴ヒ共産党ノ合流ヲ拒否シ続ケ居レリ。

(四) 以上ヲ要約スレハ、四和十八年夏ニ於ケル英国ノ政情ハ挙党支持ヲ基礎トシテ政府ノ対ソ政策及一般ノ情勢及支持大ニシテ政界ノ内閣ノ安定性最近ニナク強大ナリ、従テ政界ハ内政問題ヲ中心トシテ論争スルノ余裕ヲ示シ居レリト称シ得ベシ。

二、国民生活

(一) 国民消費資金ノ面ヨリ観ルニ、英国民ノ生活水準ハ著シク低下シ余裕ナクセラレツツアリ。

前ニ比シ相当大幅ノ切下ヲ余儀ナクセラレツツアリ。

(イ) 国民所得ハ昨年増税ノ影響ノ為ニ若干増加ノ傾向アリ。国民所得増加ノ主タル内容ヲ高スルモノハ賃金ノ増額ナリ、

(ロ) 浮動購買力吸収策トシテノ政府ノ採リツツアル諸方策

(1) 保税 — 一九四三年度ニ於ケル増税、

(2) 国債消化 (3) 強制貯蓄 (4) 野蛮便動

(ハ) 以上ノ如キ政府ノ イロロシ抑制策ハ、ヨリ其ノ効力ヲ発シ、大戦当初以後物価ハ一時騰勢ニ移ツタルモ

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其ノ後臨貢ノ數ヲ示サレ、

(二) 一九四二年ニ於ケル臨氏商貿総金額等（一九三八年）

二校校ノ人二		
(1) 一九三八年ニ於ケル臨氏商貿（合算稅）	四八〇〇一百萬磅	
(2) 一九四二年 〃	四六九〇一百萬磅	
(3) 小賣物價指數ニテ換算スレバ	三、三三六百萬磅	
(4) (3)/(1)	七六%	

右數字ハ臨氏商貿ノ四年間ニテハ臨氏生活費ト下ノ程度ヲ遠觀シタルニ過ギザルモ、大凡ノ趨勢ヲ察知スルニ足ルベシ。

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(二) 最低生活水準ノ確保ノ為、改作ノ採リツヽアル消費統制策左ノ如シ。

(イ) 衣料。一九四二年六月ニ家庭用実施。一九四三年六月、新年度ニ於ケル三、五%ノ割当量ヲ以テ行ヒ日下施行中ナリ。之ト併行シテ実用布地及実用服飾品ノ制度ヲ実施シ、又本年ニ於テハ奢侈品ニ対スル課税ヲ断行セル反面、実用織物ニ対スル免税範囲ノ拡大シ、最低衣料生活ノ確保ニ努メツヽアリ。

心、食糧。一九四〇年一月、砂糖バター等ニ対スル配給制実施ノ其ノ翌月ハ其ノ後漸次拡大セラレツヽアリ、主食タル

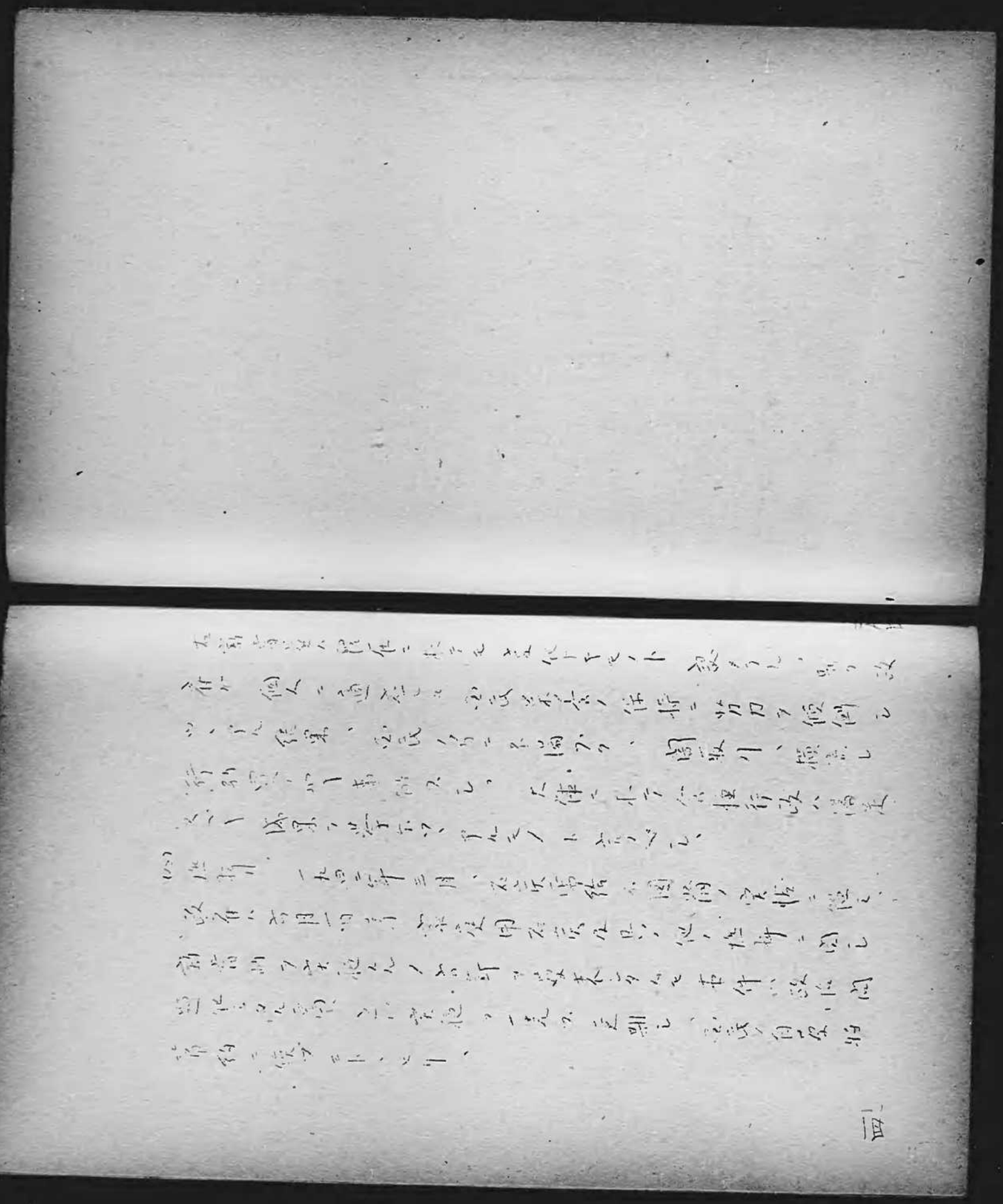
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

めくれます

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

| | | |

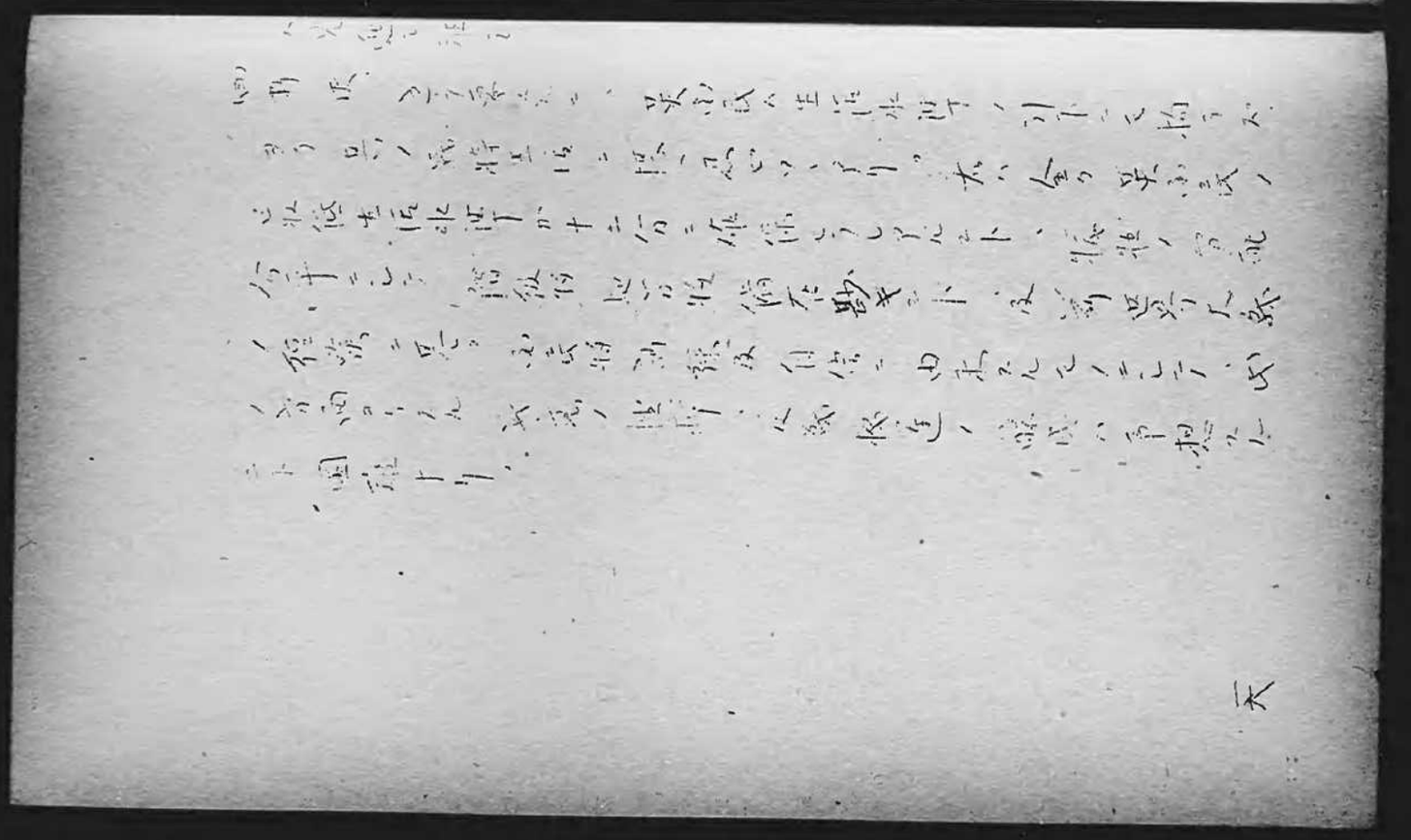
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

めくれず



三　民心ノ動向

英国民ノ民心ノ動向トシテハ、戦局ノ好轉ヲ反映シテ益
々戦意旺盛ヲ昂揚シ居レルモノト認メラレ、其ノ情況ハ
「ダーケルク」ノ内閣ノ義勇軍指導ニ基ク熱誠ノ満足ニモ
表現セラレタル所ナルガ、更ニ背後水際線ノ進歩ノ経過
状態ノ改善、海軍、陸軍ニ陸ノ危険消滅ノ教訓ノ経験ノ使
用等ヲ、背景トシテ障害撤去等ヲ行フ」
設備ノ社会政策的諸施設ハ英国民ノ抗乗意識温化
ニ資セル所大ナルモノアルベシ。
英国民心ガ枢軸国ニ背ヒテ妥協セル事例トシテノ注目ニ値

人人ハ英国及英国ノ独リ
ハ英国ノ侵略論、
別紙仏米英国ノ言論等ハ日本ノ国民
性ヲ以テノ特殊ナルモノトシ、之ガ徹底的破滅ハ望ミ難シ
トノ説明ヲ行ヒ居レルガ、日本近世英国ノ侵略論ヲ
敬見スルニ至レリ。其一例トシテノ倫敦大学ノ一教授ハ
「英国ノ為ニ善リテハ徹底ヲ期スベク、第二陸海軍ノ
殲滅、領土ノ返還ニ止ラズ、現政治組織ノ倒壊、民
族的復讐感ノ放棄、好戦的国民性ノ払拭ヲシテ高尚
義侠相愛共栄的ニ主要諸都市ノ軍事的占領ヲ行フベシ」
ト論ゼリ。

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(二) 英獨ノ背德論

(α) 英獨和平條件ノ一部後藤家ノ所有ニ

大西洋憲章ノ實施、獨逸ノ領土及殖民地ノ分割、東ヨリ出ヒシ人ノ誤、ファイフラヒトシノ分離問題、寄港ヨリ空軍ノ撤去、重要原料品ノ獨逸、人工軍隊ノ武裝解除、

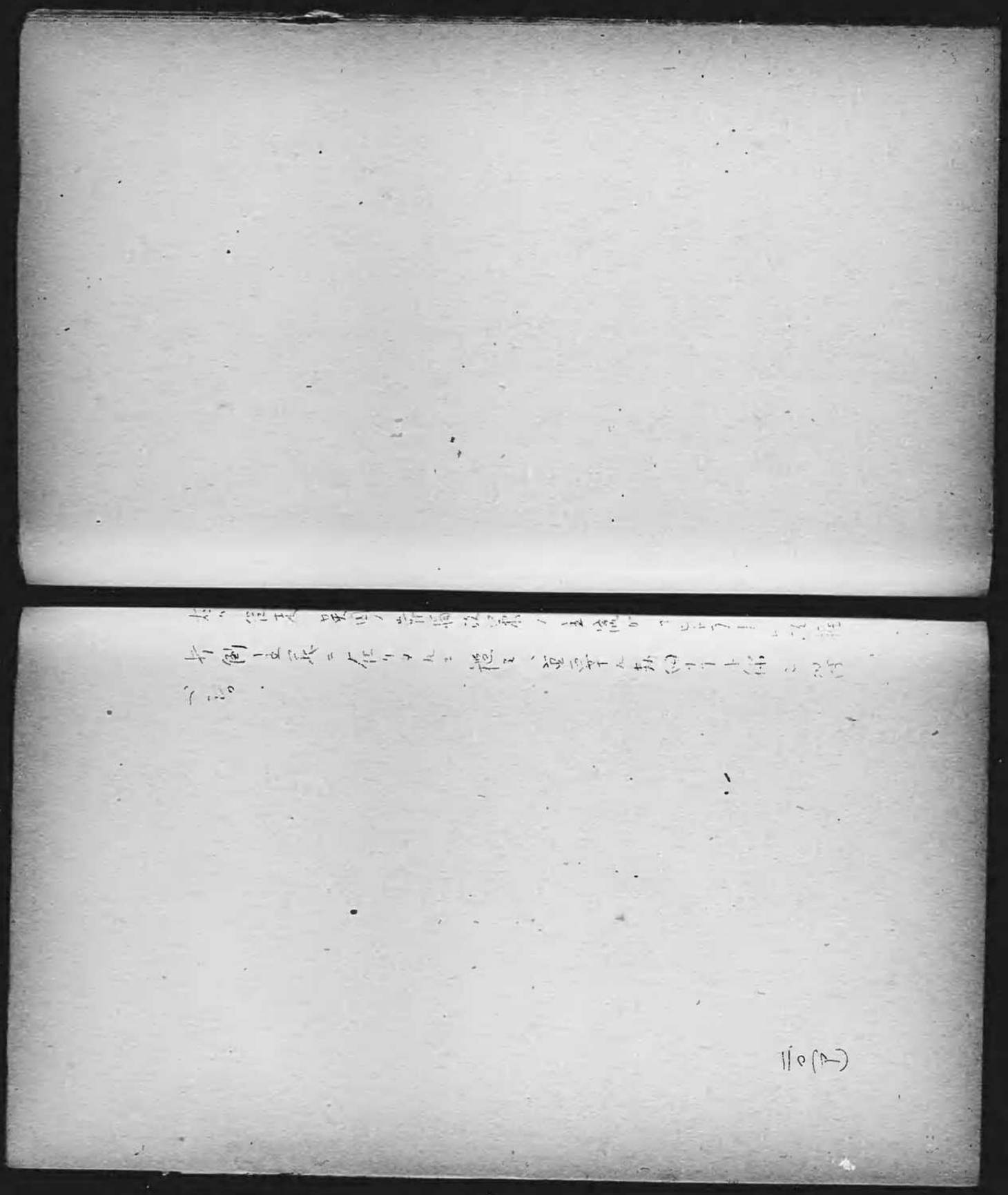
(β) 「ジャーナリスト」ノ決議案ノ採擇。

「ヒトラー」ノ國民人工部ノ敵性ノ徹底的ニ排撃セントスルノ「ジャーナリスト」ノ案ヲ一八三三〇〇〇〇票ニ二〇〇〇〇票ニテ採擇セリ

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



極秘

昭和十八年夏ニ於ケル「ソ」聯國力判断

（政治）

北澤研究生
植田研究生
越村研究生
青木研究生

二A二

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

昭和十八年夏ニ於ケル「ソ」聯國力判斷

北澤研究生

第一　政情

一、判決

スターリン獨裁政權ハ極メテ強力ニシテ、何等ノ不安動搖ナク、外交及作戰ニ於テ重大ナル齟齬ヲナサザル限リ益々ソノ獨特ノ擧國体制ヲ以テ戰爭遂行ニ邁進シ得ベシ

二、理由

1、黨、政、軍ニ於ケルスターリンノ完全ナル三位一体的獨裁制ノ確立ニ依リ簡素强力ナル政戰兩略ノ統一指導ヲナシアルコト

一九二二年レーニンノ死後ヨリ一九三九年ノ間ニ於ケル反對派打倒、肅清工作ニ依リ徹底的ニ反スターリン分子ヲ撲滅シタル反面スターリン黨ノ新進拔擢ヲ敢行シテ、黨、政、軍ノ內外ニ亘リ完全ナルスターリン化ヲ行ヒ、獨裁ノ基礎ヲ築キタリ

而シテ從來黨書記長トシテ舊ヨリソ聯政治ヲ動カシ至ル彼ハ一

九四一、五月ニ至リ突始自ラ人民委員會議長ノ地位ニ着キ、獨ソ開戰ト共ニ國家防衛委員會議長、國防人民委員等ヲ兼務シ是ニ名實共ニ完全ナル獨裁者トシテ、對獨戰遂行ノ陳頭ニ立ツニ至リタルナリ

スターリンハ二代目獨裁者トシテ常ニ「總テハ人ガ決ス」ト云ヒテ、單ナル機構、制度ニノミ依存セズシテ、自己ノ獨裁地位ノ基礎ヲスターリン派ヲ以テ固ムル爲ニハ手段ヲ選バザリシハ卓見トナスニ足ル

2、黨組織ヲ中核推進力トスル尨大ナル國民組織、生産組織、赤軍ヲ有スルコト

スターリンガ二十年餘ニ亘リ飽ク迄蔭ノ人共産黨書記長トシテ、自ラ黨ノ强化育成ニ當リタルコトハ、今日ソノ成果ヲ發揮シツツアルモノト謂フ可ク、所謂地域別、職場別ノ各末端ソヴエートニ至ル迄必ズ黨組織ヲ以テ之ヲ裏付ケ、國民ヲ監督シ啓蒙シ訓練シ

めくれず

ッツァリ、且ツ外廓組織トシテコムソモール、ピオネールヲ有シ之等ノ青少年ハ其教育ニ依リ今日完全ニ忠實ナルスターリン信徒トシテ、彼ノ掌中ニ在リテ前衛的役割ヲ果シツツアリ

更ニ開戰ト同時ニ赤軍ニ對シテ廢止シアリタルコミッサール制度ヲ復活シ、政治兵組織ヲ布キテ統帥ノ實質的掌握ヲ圖レリ

但シ本コミッサール制度ハ昨年十月再度コレヲ廢止シ、從來ノコミッサールヲ兵科將校ニ多數拔擢任用シテ、直接部隊指揮官トシテ、赤軍ノ政治性ト統帥トノ統一ニ成功セリ

3、民族政策適切ニシテ舉國對獨戰ニ協力セシメ得タルコト

十万以上ノ民族ノミニテモ三五ノ多數ニ上ル各民族ニ對シテ從來ハ平等ナル共和國ノ聯邦組織タル体裁ヲ取リ、實質的ニハ表裏各般ノ手段ヲ盡シテ中央化ヲ行ヒ來リシガ開戰ト共ニソ聯獨特ノ執拗ナル宣傳ニ依リ民族的敵愾心ヲ旺盛ナラシメ、祖國防衛戰爭ナリトシテ各民族ノ一体的協力ヲ獲得シアリ

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

4、國民性ノ特質ヲ把握シ硬軟兩政策ニ依リ民心指導ニ遺憾アラシメザルコト

國民性ノ單純、强靭、「ネエチエヴオ」主義信仰心、專制ニ對スル信頼的傾向等ヲ精確ニ把握シ戰時諸政策ヲ內務人民委員部ノ監視ノ下ニ施行スル反面諸種ノ勵章制度ノ擴大、食料品生必品ノ優先配給、宗教政策ノ緩和等ヲ以テ人心ノ機微ニ投ジツツアリ

更ニ最近ノ戰況ノ有利ハ益々民衆ノ戰意ヲ昂揚セシメアルモノ民心ノ面ヨリスル動搖ハ期待シ得ズ

5、重工業建設ヲ早期ヨリ着手シ戰前既ニ高度國防國家トシテノ基本的体制ヲ樹立シアリテ開戰後ハ速ニ工場ノ移駐ニ着手シ生產力ノ決定的破潰ヲ免レ得タルコト

6、外交

(一)對獨戰ニ關スル限リソ聯ハ飽ク迄米英ト緊密ナル歩調ヲ保持スベキモ、歐洲特ニバルカン問題及對日問題ニ關シテハソノ傳統

伊太利問題

的政策、政治原則及狀況ヨリシテ、決シテ全面的協同ハナシ得ザル事ヨリ
ル事明ニシテ、コ、ニ兩者外交ノ限界ヲ有スベク、シテ(獨逸ニ於ケル)
テ何レガ一方ヲ利用シ得ルカハ今後ノ問題ナリ(一方ヲ利用シ)
現ニ本日(八月十三日)ノ新聞情報ニ依レバ今次ノ反推軸會議ニ
モカリプランカ會談ニ出席セザル如キスタイリシ一流ノ駆引ヲ試ミ
リ

(二)日本トハ一種奇妙ナル關係ニアリ、表面妥協的態度ナルモ、コレ
ヲ以テ對日攻撃企圖ヲ完全ニ抛棄シタルモノトナスハ過早判斷ニシテ、對日警戒ニ於テハ聊カ緩和サレタルモノ、ニ非ザルコトヲ注意スルヲ要ス

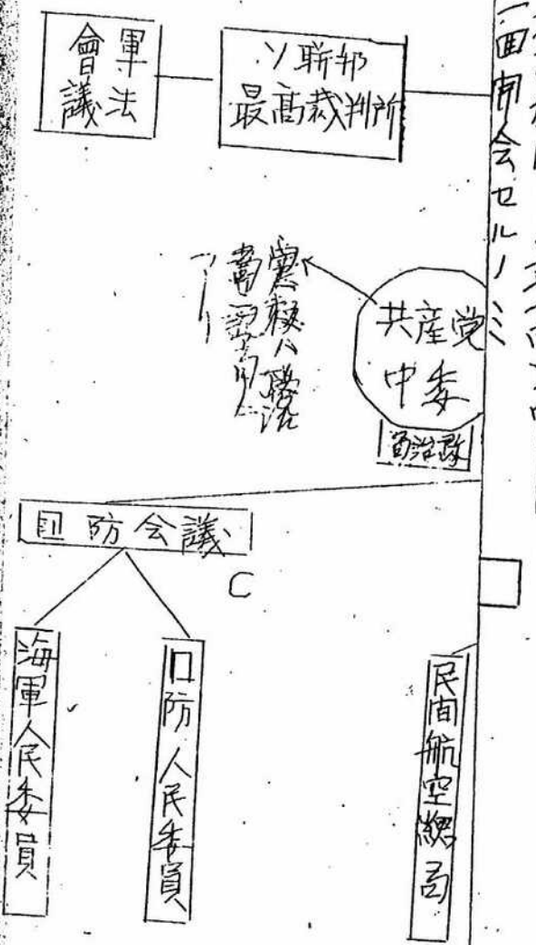
時ソ聯邦中央政治機構要図

備考

イ、ハスターリンノ長ヲ示ス

ロ、憲法上ノ最高執権タル最高ソヴェート

ハ、南戦後一回開会セルノミ



A

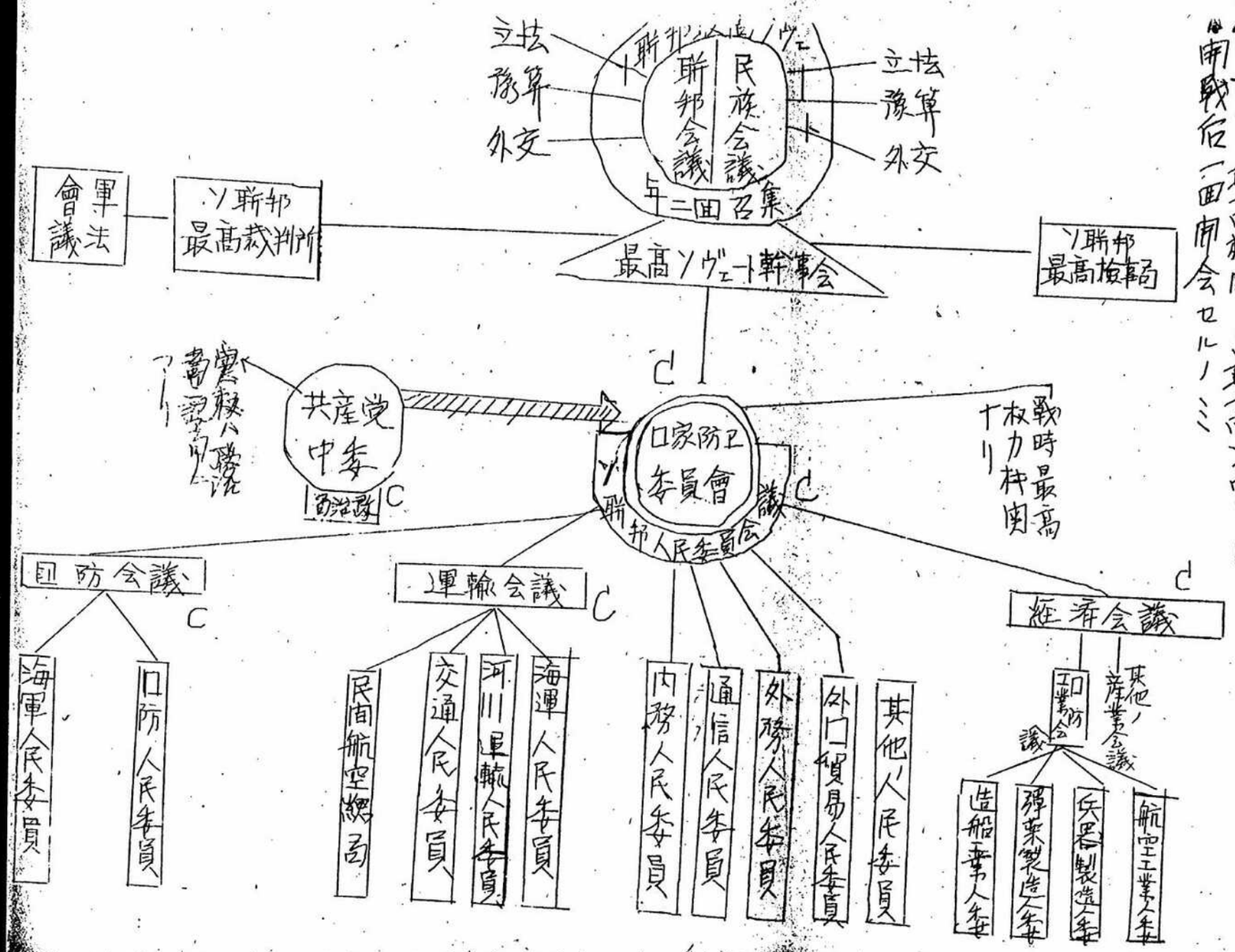
めくれず

戦時ソ聯邦中央政治機構要図

備考

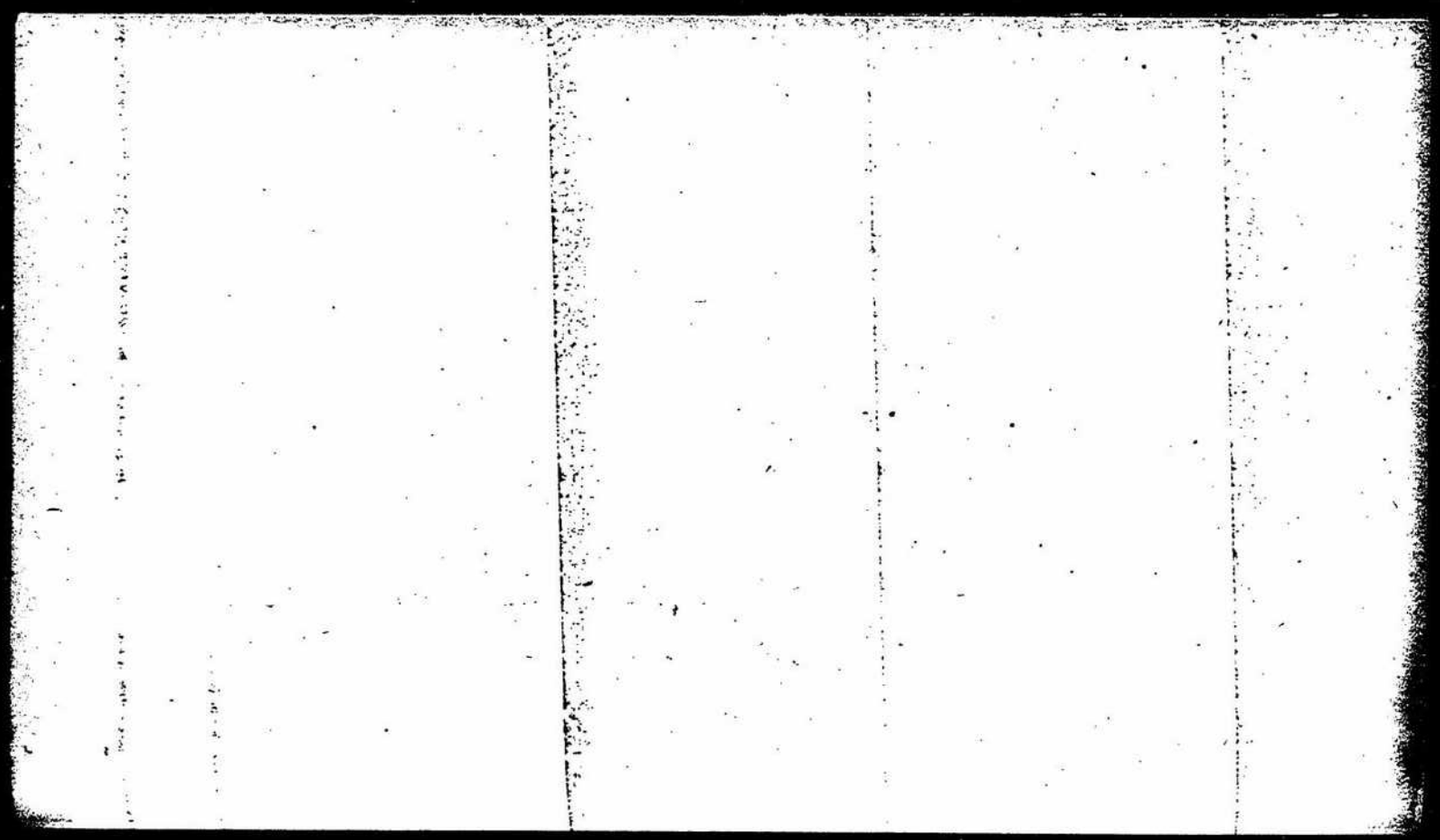
イ、ヒトスターリンノ長ヲ示ス

ロ、憲法上ノ最高機関タル最高ソヴェート閉戦後一回開会セルノミ



裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



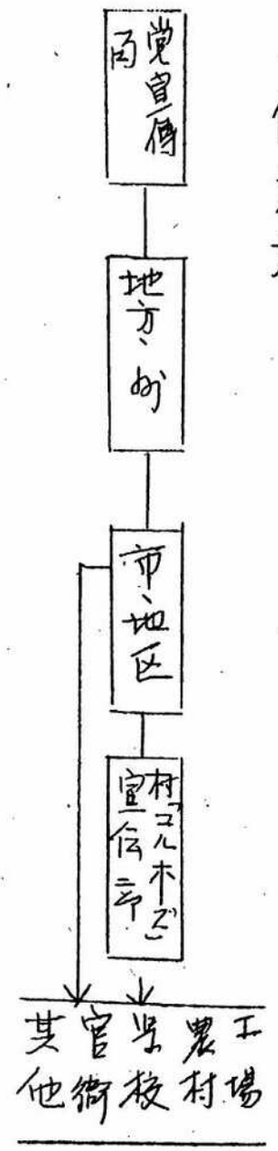
ソ聯邦人民委員会議（平時）

全聯邦人民委員部				聯邦及共和国人民委員部		
重機械製作	化學工業	河川運輸	国防	漁業	肉、乳製品	食料品工業
戦車工業	ゴム工業	石炭工業	海軍	軽工業	繊維工業	木材工業
工作機械	建築材料	石油工業	外務	セルロース製紙工業	農業	穀物 畜産 ソホーズ
自動車	航空工業	発電所	外国貿易	財政	商業	内務
鉄道	造船工業	電機製作	交通	司法	保健	国家統制
建設	弾薬	黒色冶金	通信			
中形機械	兵器製作	有色冶金	海上運輸			

經濟会議

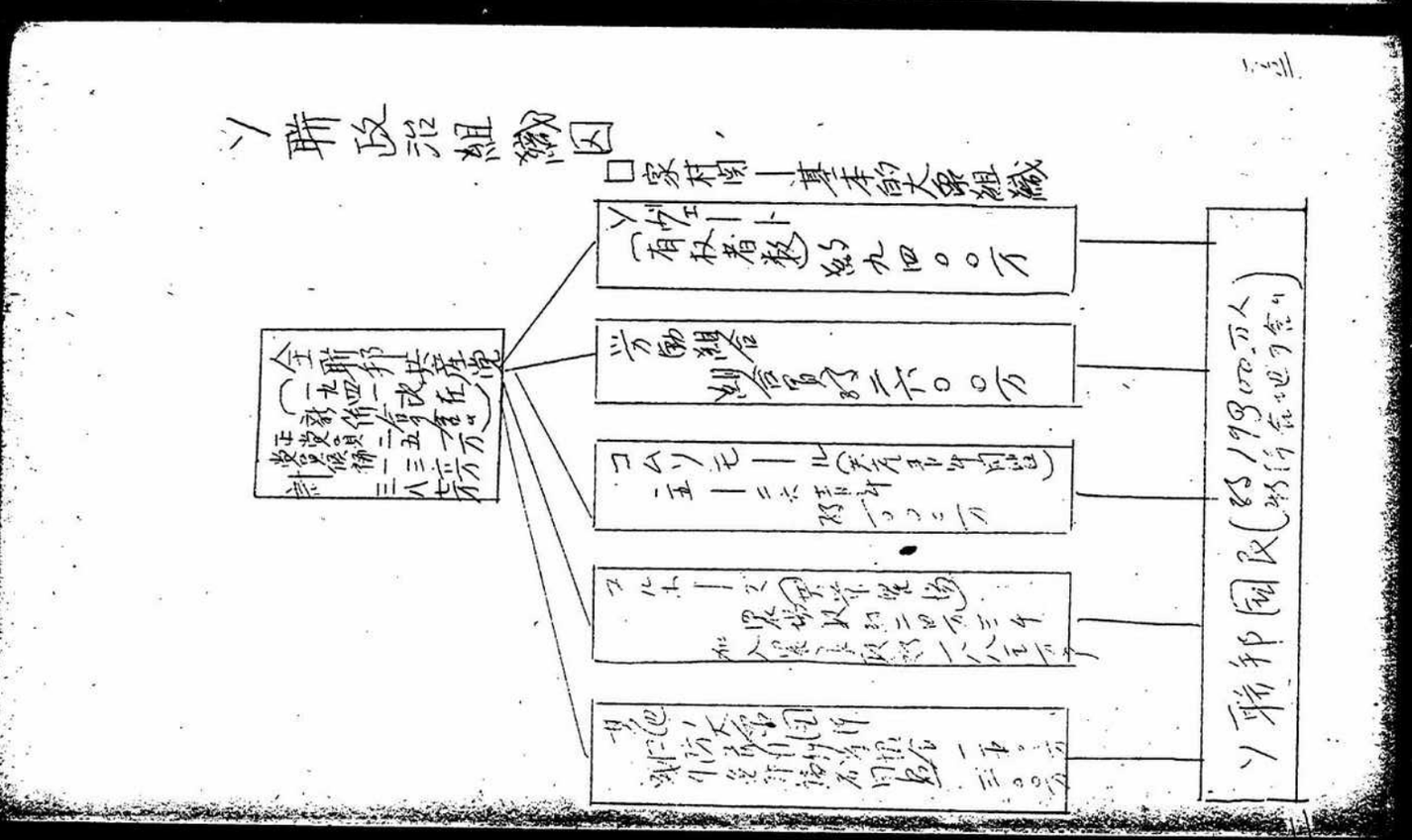
- 治金化学工業委員会
  - 製鉄、非鉄諸金工業各人民委員部
  - 亜硫酸、塩、硫酸加水分解工業鉱業理事会
- 機械製作業
  - 重機械、工作機械、電機製作、中機械、各人民委員部
- 防衛工業
  - 戦車工業、自動車、兵器、弾薬、航空工業、造船各人民委員部
- 燃料及電力
  - 石炭工業、石油工業、共和国燃料工業、発電所各人民委員部
- 日用消費品会議
  - 繊維工業、軽工業、食料品工業、肉、乳製品工業、漁業各人民委員部
- 農業及調達会議
  - 農業、ソフォーズ、調達各人民委員部

宣傳機構



二A二

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



第五章　國民生活

一、今次大戰ニ參加シアル主要國ノ中其ノ本土ノ一部ヲ失陷シテ打擊ノ甚大ナルハ先ヅソ聯ニ指ヲ屈スベク、戰時至渚ニ伴フ壓迫ト共ニソ聯ノ國民生活ハ二重ノ重壓ヲ受ケ居レリ

搬出シテ直接消費者ニ賣渡スヲ去ヒ価格ノ制限ナキ自由市場ナリ（一九三九年都市ノ小賣店賣上一六五八億留　コルホーズ・バザール賣上三〇三億留）

三、生活物資ノ配給狀況ヲ見ルニ一九三五年ニ打切リタル切符制度ヲ独ソ戰開始直後別表第一ノ如ク復活シ政府ニ於テ責任ヲトル態勢ニ在リ

ソ聯ハ農産國ニシテ平年ニハ幾分ノ量ヲ外國ニ輸

第五ノ(4)、國民生活　二八二

一、今次大戰ニ參加シアル主要國ノ中其ノ本土ノ一部ヲ失陷シテ打擊ノ甚大ナルハ先ヅソ聯ニ指ヲ屈スベク、戰時圣清ニ伴フ圧迫ト共ニソ聯ノ國民生活ハ二重ノ重圧ヲ受ケ居レリ

共産革命以来既ニ三十年ニ垂ントシ、其ノ間内乱ト三次ニ亘ル五ケ年計畫ノ遂行過程ニ於テ忍苦ノ生活ヲ續ケ来レルソ聯人ノ持久力ハ相当强靭ニシテソ聯ノ之以上ノ敗退ナキ限リ國民生活ノ面ヨリスルソ聯ノ破綻ヲ予想シ得ザルベシ

二、ソ聯ノ配給組織ハ

(1) 國營　商業人民委員部系ト生産関係ノ人民委員部系トアリ（尚ホ他ニ特殊ナ國營企業ノ三枝ノ三

從業員ノタメノ配給所アリ）

(2) 協同組合營

(3) コルホーズ・バザール

ノ三アリ　前ニ者ハ計畫的配給ヲナシ　(3)ノバザールハ農産物ノ生産者タル農民ガ所定量ヲ國營機関ニ納入シタル残余ヲ附近都市ノ指定バザールニ搬出シテ直接消費者ニ賣渡スヲ云ヒ価格ノ制限ナキ自由市場ナリ（一九三九年都市ノ小賣店賣上一六五八億留　コルホーズ・バザール賣上三〇三億留）

三、生活物資ノ配給状況ヲ見ルニ一九三五年ニ打切リタル切符制度ヲ独ソ戰開始直後別表第一ノ如ク復活シ政府ニ於テ責任ヲトル態勢ニ在リ

ソ聯ハ農産國ニシテ平年ニハ幾分ノ量ヲ外國ニ輸

裏面白紙

出セル實情ニ在リ独ソ戦当初約一年分ノ穀物ヲ
ストックヲ有シタリトノ說モアリ、所定量ノ配給ニハ
現在ニ至ルモ破綻ヲ来タサザルガ如シ
副食物タル腐敗性食物ニ就テモ政府ハ配給ノ措
置ヲ講ジツツアルモ所定量ノ配給ハ困難ニシテ肉類
牛酪ハ月一回或ハ全然ナキ月アリ、砂糖モ二ヶ月ニ一
回程度ノ配給ナリト云ハル（甜菜森塔地ノハ〇%ヲ失
ヘリト云フ）
國土広大ニシテ輸送機関足ラズ且ツ軍需輸送ノ
競合モアリテ副食品等ハ全国的ノ計畫配給困難ニ
シテ地方ニ依リ配給量ニ差異アルヲ免レズ
食糧品ニ於ケル配給ノ不足ハバザールニ対スル期待
ヲ大ナラシメ バザール価格ノ暴騰ヲ見ツツアリ 又 地 2 四
従来バザールニ現ハレザリシパンモ登場シ来レルハ 五
聯国民ノ食糧飢渇ノ証左トモ云フベシ 食糧ノ不足
特ニ副食物ノ入手困難ニ依リ國民栄養ノ低下ヲ免
レズ
食糧以外ノ生活物資特ニ軽工業品ニ於テハ工業
地域喪失ノ打撃甚大ニシテ戦前全ソ生産量ニ比
シ綿織物ニハ〇%、毛織物ニ〇%、亜麻織物四二
%ニ減退セリトモ云ハレ、所謂必需品トナリ或
ハ隨所ニ買物行列ヲ出現シツツアリ
軽工業品ノ不足ハ農産物ノ供出ニモ悪影響
及ボシ 又物々交換ノ傾向ヲ馴致セリ
~~軽工業品ノ不足ハ農産~~
全般的ニ配給ノ不足並ニ不円滑ハ闇取引

裏面白紙

量ノ増加ヲ来シツツアルガ斯カル国民生活ノ窮乏ハ開戦後急激ニ人口ノ増加セル中ソ工業地帯及食糧基地ヲ有セザル東ソニ甚シ

配給量ノ単、重要企業関係者ニ厚キハ割当量ニモ明カナルガ、尚ホオルス「労働者用必需品配給部」ノ復活（一九四二年五月）ニ依リ重要企業関係者並ニ其ノ家族ニ対シ生活物資ノ優先配給ヲ実施シツツアリ

四、国営価格ノ一例ハ別表ホニノ通リニシテ昨年四月被服、布類、軽工業品、嗜好品等ニ対シ一者ニ二倍乃至三倍ノ値上ヲナセリ

国営価格ニハ

(1) 全国単一価格（各種織物、メリヤス製品、小間物類、マッチ、煙草等）

(2) 全国ヲ数地帯ニ分チ定ムルモノ（穀物ハ七地帯）（穀物、パン、肉、砂糖、塩、魚類）

(3) 更ニ小ナル地域ニ依リ定ムルモノ（地方的特殊生産物、各種蔬菜）

ノ三種別アリ

前述セル如ク配給量ノ不足ニ伴ヒバザールニ対スル需要大ニシテバザール価格ハ別表ホ三ノ如ク暴騰セリ

五、住宅ハ従前ト異モ不足ニ悩メルモノニシテ工場移転ニ伴フ住宅不足、難民ノ流入等ニ依リ相当悪化セルモ、住宅費ノ騰貴セルモノナシト云フ　ドンバス炭田ノ戦禍ニ依リ冬季ノ燃料不足ハ相当深刻ナルベシ

裏面白紙

六家計ノバランスニ付テ見ルニ、勤労者ノ收入ハ漸増ノ一途ヲ辿レルモ、收入ノ三四割ニ及ブ租税及國債ノ負担アリ価格ノ騰貴ト共ニ國民生活ノ圧縮ヲ余儀ナカラシメツツアリ　尚ホ其ノ反面ニ於テ物資ノ絶對量ノ不足ハ浮動購買力ヲ発生シツツアリ斯カル現象ハ都市労働者ト近郊農民ニ著シト云フ

別表第一　物資配給状況一覧表

二A二

配給品目	種目	備考
食糧品	パン、麦粉及マカロニ、砂糖及菓子類、肉類及肉製品、魚類及魚製品	
被服品	各種布地、各種靴、洋服、外套、下着等二十九品目	
日用品	マッチ、洗濯用及化粧用石鹸	
1	採用セリ毎六ケ月毎ノ婦人期間ヲ定ム其ノ各人割当数	
2	労働者（技術者ヲ含ム） 一二五匁	
3	勤務者 一〇〇匁	
4	家族、子供、学生 八〇匁	
備考		
日用品	洗濯石鹸及化粧 毎月一箇（特別ノ切符一枚ニヨル）配給	
註		

註　被服類ノ点数

綿布、絹布一米　一一〇点　靴　一三〇　オーバー、フロックコート、衣服（毛製）一八〇　同上（綿製）一六〇　パンツ、スカート　二五乃至四〇

シャツ　一〇〇　靴下　一〇　メリヤスセーター　二〇

別表第一　物資配給状況一覧表　二A二

配給品目		配給					備考
		1、一般労働者	2、軍需産業労働者	3、家族	4、五歳以下ノ小児		
食糧品	パン、麦粉及マカロニ、砂糖及菓子類、肉類及肉製品、魚類及魚製品、脂肪	パン 八〇〇瓦（一、二〇〇） 穀類及マカロニ 八〇〇（一、五〇〇） 砂糖及菓子 大〇〇（一、二〇〇） 肉及魚 一、二〇〇（二、〇〇〇） バター 一、八〇〇（二、〇〇〇） 配給量ハ一九四五年四月現在ノモノ	パン 五〇〇（大〇〇） 穀類及マカロニ 八〇〇（一、五〇〇） 砂糖及菓子 大〇〇（一、二〇〇） 肉及魚 一、二〇〇（二、〇〇〇） バター 二〇〇（四〇〇）	パン 四〇〇 穀類及マカロニ 一、二〇〇（一、〇〇〇） 砂糖及菓子 大〇〇（一、二〇〇） 肉及魚 五〇〇（大〇〇） バター 二〇〇（二〇〇）	パン 四〇〇 日量 穀類及マカロニ 規定ナシ（一、二〇〇） 砂糖及菓子 大〇〇（一、二〇〇） 肉及魚 四〇〇（大〇〇） バター 二〇〇（二〇〇）	月量 月量（三回ニ分ツ） 月量 月量	
被服品	各種布地、各種靴、洋服、外套、下着等二十九品目						
日用品	マッチ、洗濯用及化粧用石鹸						

註　被服類ノ点数
綿布一米　一〇点　靴　一三〇　オーバー、フロックコート、衣服（毛製）一六〇　同上（綿製）一六〇　パンツ、スカート　二五乃至四〇

品目	内容
	一、軍隊、地下労働者、冶金業者等ノ重労働者ニハパン日量一〇〇〇瓦ト定メラルモ事実ハ八〇〇瓦ナリ 二、交通労働者ハ従業中定量ノ外パン四〇〇瓦、腸詰一〇〇瓦、砂糖二〇瓦、煙草二〇瓦ノ特別配給アル如ク定メタリ 三、妊産婦ニハ妊娠六ケ月以後産後二ケ月迄砂糖二〇〇瓦、バター四〇〇瓦、磨割麦六〇〇瓦、牛乳大瓦特別配給ヲ定ム（一九四二年七月以降） 四、高等専門学校学生ニ対シ工業技術ニ関係従業者ニ対スルト同一基準ニ従ヒ食糧ヲ補給スベキ旨定メラル（一九四三年三月以降） （肉ハ南蛮唐辛子ノ割当量ヲ示ス）
被服類	織維製品、護謨革製品其ノ他ノ必需品ニ就テハ点数制ヲ採用セリ　毎六ケ月毎ノ購入期間ヲ定ム　其ノ各人割当点数 労働者（技術者ヲ含ム）　一二五点 勤務者　一〇〇点 家族、子供、学生　八〇点
日用品	洗濯石鹸（及化粧）　毎月一箇（特別ノ切符一枚ニヨル）配給

裏面白紙

別表第二　一九四三年二月現国営（固定）価格表

品目	規格	単位	クイブイシェフ	ケイ、タ	浦潮
パン	黒パン	一瓩	一、〇〇	一、三〇	一、〇〇
小麦粉	中級品	〃	三、五〇		
牛肉	骨ツキ	〃	△一二、八〇	一二、五〇 一三、〇〇	
牛酪	中級品	〃	二一、〇〇	二七、〇〇	二四、〇〇
鈴薯		〃	〇、六五		
キャベツ		〃	一、三〇		
砂糖		〃	五、五〇	六、五〇	六、〇〇
塩		〃	〇、五二		

△印ハ骨ヌキ肉ノ価格ナリ

二A三

別表第三　一九四三年二月現ノ主要都市バザール物価表　二

品目	単位	オムスク	クイブイシェフ	チカーロフ	オルスク	ケイタ	浦塩
黒パン	一瓩	八五留	九五				一〇〇
牛肉（骨ツキ）	〃	三〇〇	二五〇 一四〇〇 四五〇	二五〇 一三〇〇		二〇〇 一二〇〇	一八〇 一二〇〇 二二〇
豚肉	〃						
牛酪（約一瓩）	中四一ケ				四〇〇		
鶏卵	十ケ		二〇〇			二五〇	
牛乳	一立	四〇	大〇 一七〇		六〇	二〇〇 五〇 一六〇	二〇〇 九〇
キャベツ	一瓩	約六〇	七〇			二、	
鈴薯	〃	約四〇	五〇		大〇〇		
紅茶	二〇〇瓦						三〇
「ホルカ」	「スタカン」一杯						
塩	〃	一二〇					
皮靴	一足	二、五〇〇	二、五〇〇	三、五〇〇			

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二ノ口

増産對策トシテノ競爭

（資料・外務省調査部第三課、露西亜月報ニ據ル）

一九二四年ノメーデー訓令ニ於テスターリンハ前線、銃後ハ打ツテ一丸トナリ対獨戰爭ノ遂行ニ邁進セザルベカラズ、而シテ銃後ノ最大任務ハ前線ノ必要トスル武器彈藥、食糧ノ増産ヲ強行スベキコトニアル旨ヲ強調シタ。コノ訓令ニ呼應シテ増産運動ガ目下全面的ニ展開セラレツヽアル。軍需工業ヲ始メ各重工業部門カラ開始セ

ラレ漸次鐵道運輸、農業、漁業、商業、勞働豫備軍學校等ニ
並及セル所謂社會主義競爭ガ即チ之デアル。各部門ニ於テハ夫々
社會主義競爭規約ナルモノヲ規定シ、之ニヨツテ競爭ノ條件ヲ定
メ、所定ノ諸條件ヲ具備セル優秀企業ヲ表彰スル方法ガ採ラレテヰルノ
デアル。コレラノ諸條件ヲ一般化シテ言ヘバ、後述スル如ク、國家計畫ノ
超過遂行、製品ノ品質ノ適正或ハ作業ノ質ノ向上等デアツテ、各部
門ヲ通ジテ特ニ新規ナルモノヲ含ンデヰナイ。寧ロ從來通リノ生産活
動ヲ一層昂揚セシメ、以テ生産ノ增進ヲ量、質兩面ニ於テ達成セント

スルコトヲ期スモノヽ如クデアル。然シテ戰爭ノ必要ニ応ズルタメノ軍需品ノ及ビ食糧ノ生産ヲ確保シ、戰時輸送ノ適正化、國民消費ノ維持ヲ期シテ、工業、農業、漁業、鐵道運輸、商業ノ各部面ニ於テ競爭ヲ組織的且ツ全面的ニ励行セントスルトコロニ特徴ガアルトミラレルノデアル。

(1) 工業ニ於ケル競爭

ソ聯邦ガ戰時ノ必要ニ應ジテノ工業增産策トシテ重要工業部門所謂社會主義競爭ヲ広汎ニ展開スルニ至ツタ。コレハスターリンノメーデー訓令ニ呼応シテ、戰車、航空機、兵器、彈藥、工作機、中機械、製鉄等、重要工業部門ノ優秀工場ガソレゾレ同部門ノ勞働者、技

術者、勤務員ニ呼ビ掛ケ、全國的規模ニ於テ所謂社會主義競
爭ヲ行フト云フ形態デ、各部門ノ所定ノ國家計畫以上ニ增産ヲ行ヒ、
以テ戰爭遂行ノ必要ニ應ゼントスル增産運動デアル。
コノ增産競爭ヲ實施スルニ當ッテハ各部門ニ於テハ夫々「社會主義競
爭規約」ヲ規定シ、コノ規約ヲ完全ニ履行シタ工場ハ、優秀工場トシテ
表彰スルノデアルガ、增産競爭參加工業部門ノ規約ヲ綜合シテミルナラ
バ競爭目標ハ大體左ノ諸點ニ置カレテヰル。
(一) 各部門ニ於テ一定期間、主トシテ一ヶ月間ノ生産國家計畫ヲ

超過遂行シ、計畫超過ノ増産高ノ順位ニヨツテ優秀工場ガ選定セラレル。

(二)一ヶ月生産計畫ノ超過遂行ニ止ラズ、一晝夜毎ノ所定計畫ヲ完全ニ遂行スルコトヲ條件トスル。

(三)尚部門ニヨツテハ右ノ外規定ノ部分品生産計畫ヲ完遂スルコト、或ハ原材料及ビ燃料ノ消費節約ヲ條件トスル。

増産競爭ハ各工場間ニ於テノミナラズ、工場内ノ部工場間、作業場間、作業班間及ビ各節働者個人間ノ競爭ヲモ廣汎ニ行フコトガ要望セラレテヰル。

競爭參加工場ノ成績ハ毎月新聞紙上ニ発表セラレ、成績優秀ナル工場ニ対シテハ左ノ如キ要領ニヨツテ表彰ガ行ハレル。

(一) 競爭ニ於テ首位ヲ占メタル最優秀工場ニ対スル表彰

(イ) 各工業人民委員部管下ノ基本部門工場ニ対シテハ國家防衛委員会下附ノ持廻赤旗ヲ授與スル

(ロ) 各工業人民委員部管下ノ右部門以外ノ工場ニシテ最優秀工場ニ対シテハ勞働組合中央評議会並當該人民委員部下附ノ持廻赤旗並優ヲ授與スル。

(ハ) 兵器彈藥工業人民委員部管下ノ最優秀工場ニ対シテハ全聯邦共産党中央委員会下附ノ持廻赤旗並優秀賞金ヲ授與スル。

尚戰車、航空機、兵器、彈藥各工業ノ最優秀工場ヘ授與

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

セラル、赤旗ハ戰車隊、飛行隊ソノ他ノ親衛部隊代表者ガ夫々之ヲ手交スル。

(二) 最優秀工場以下ノ成績優秀工場ニ対シテハ一等乃至三等ノ賞金ヲ授與スル。同賞金ハ授與セラレタ工場ノ優秀勞働者、技術者、勤務員ハ文化、生活條件改善ニ向ケラレルモノデアル。

(三) 兵器・彈藥工業ノ競爭參加工場ノ特ニ成績優秀ナル勞働者、技術者、勤務員ニ対シテハ表彰・奬勵ノ趣旨ヲ以テ賞金ヲ授與スル。

(2) 漁業ニ於ケル競爭

戰時ニ於ケル食糧供給ノ確保ノ一端ヲ受持ツ漁業增産競爭ハ漁船、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

加工企業、副業企業、モーター漁船配給所等各方面ニ亘ツテ組織セラレ、
他部門ト同様ニ夫々ノ機関ニ於テ競争規約ノ下ニ競争ヲ展開シツヽアル。

(3) 農業ニ於ケル競争

一、ソフホーズ関係

(一)「社會主義競争」ニ參加セル穀物ソフホーズ及ビ工藝作物ソフホーズガ穀物、棉花、甜菜、煙草、マホルカ、ホップ、工業用馬鈴薯、亞麻、大豆、野菜ノ生産ニ於テ計畫ヲ超過セルヘクタール當リ實收

獲ヲ擧ゲ、コレラ生産物ノ最大量ノ國家納入ヲ期限内ニ完了シ、更ニツェントネル當リ原價ヲ最大限ニ引下ゲタ場合優秀ソフホーズニ指定セラレル。

(二) 畜産、飼料、家畜肥育、養禽、養蜂、養馬、種畜各ソフホーズニアツテハ、畜産振興計畫ノ超過遂行、肉類、乳卵、羊毛等ノ國家納入計畫ノ完了、最大限ノ生産限品原價引下ゲ、飼料ノ自給自足、家畜増産等ノ諸條件ヲ具備シタソフホーズガ「社會主義競爭」ニ優勝セルモノトセラレル。

(三) 果實、葡萄栽培、茶栽培、植物性油各ソフホーズニアツテモ他ソフホーズト同樣ニ、生産品納入計畫ノ超過遂行ツェントネル當リ大幅ノ原價引下

ゲヨ實現シタソフホーズガ競爭ニ優勝セルモノトセラレル。

(四) 最優秀ソフホーズニ対シテハ國家防衛委員会下附ノ持廻リ赤旗ガ授與セラレ、左記ノ名稱ガ與ヘラレル

「ソ聯邦ソフホーズ人民委員部最優秀ソフホーズ」

「ソ聯邦食料品工業人民委員部最優秀ソフホーズ」

「ソ聯邦肉類・乳製品工業人民委員部最優秀ソフホーズ」

「ソ聯邦外國貿易人民委員部最優秀ソフホーズ」

特ニ成績優秀ナル從業員ニ對シテハ右各人民委員部ノ「社會主義競

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

爭優秀者」胸章ガ與ヘラレル。二位、三位ノソフホーズニ對シテハ賞金ガ授與セラルヽコトハ他ノ競爭規定ト同樣デアル。

二、コルホーズ關係

(一)穀物及ビ工藝作物ヲ專業トスルコルホーズニ於テハ、播種計畫ノ實施ヨリ取入レニ至ル各作業ノ優秀ナル成績、各作物實收ノ國家計畫超過遂行、各作物ノ國家調達及ビエム・テー・エスヘノ現物支拂ノ完遂、畜産振興ニ於ケル優秀ナル成績ヲ目標トシテ競爭ガ組織セラレ、優秀コルホーズハコレラノ四條件ヲ同時ニ具備スルコトガ必要トセラレル。

(二) 畜産ヲ專業トスルコルホーズニアツテハ競爭ノ目標ハ、大略次ノ三点ニ置カレテヰル。即チ幼畜ノ飼育及ビ豫約、買付、搾乳、剪毛、家畜一頭當リ增殖ノ所定國家計畫ヲ超過遂行スベキコト。飼料、畜舍ソノ他家畜ニ対スル世話ノ行屆イテヰルコト。畜産品ノ國家調達及ビエム・テー・エスニ対スル現物支拂ガ完遂セラレルコトデアル

右ノ目標ヲ目指スコルホーズノ社會主義競爭ハ各コルホーズ間、各軍區間、各州或ハ各地方間、各共和國間ニ於テ組織セラレ、ソノ内

カラ優勝コルホーズ、優勝區、優勝州或ハ地方、優勝共和國ガ選定セラレル。國家防衛委員会持廻赤旗ガハ最優秀ノ州及地方執行委員会共和國人民委員会議ニ授與サレ、コレラノ機関ヲ通ジテ管内ノ最優秀コルホーズニ傳達セラレル。

三、エム・テー・エス及ビエム・テー・エム関係

(一) エム・テー・エスノ競争目標ハ、コルホーズトノ契約ニヨル農事作業ヲ期限内ニ完遂シ、コルホーズヲシテ作業上ノ國家計畫、國家調達及現物支拂ノ完遂ヲ實現スベク コレニ援助ヲ與ヘルコト、トラクター作業ノ國家計畫超過遂行、トラクターソノ他農業機械ノ保全、燃料、資

材ノ一割以上ノ節約ヲ實現スルコトニ在ル。

エム・テー・エムニ於テハトラクターソノ他機械ノ修理成績良好ニシテ部分品ノ製産計畫ヲ完遂シ、更ニ燃料、資材ノ節約ヲ實現スベキコトガ目標トセラレル。

(4) 鉄道ニ於ケル競爭

鉄道輸送關係デハレーニン鉄道モスクワ分岐駅ノ発起ニヨッテ列車ノ迅速ナル運行、前線及銃後ノ適正輸送ノ確保、戰時下輸送ノ國家計畫ノ超過遂行ヲ勵行セントノ趣旨ノ下ニ「社會主

義競爭」ヲ組織スルニ至ツタ。

競爭ニ於ケル成績優秀ナル各機關ニ対シテハ工業關係ノ場合同様、國家防衛委員會及ビ交通人民委員部下附ノ持廻赤旗ヲ夫々授與シ、更ニ成績優秀ナル從業員ハ「名譽鉄道員」及ビ「スターリン飛撤突擊隊員章」ヲ授與セラルベキ資格ヲ有スルコトニナツテヰル。

(5) 商業ニ於ケル競爭

商業關係ニアツテハ社会主義競爭ノ形態ニヨツテ、各商業機關ノ取引計畫ノ完遂、地方消費品生産ノ促進、農産物調達ノ遂行ソノ他商業關係業務ノ改善ヲ励行シ、戰時ニ於ケル國民ニ対ス

ル消費物資ノ供給ヲ確保セントスルモノヽゴトクデアル。殊ニ從來モ
提唱セラレテヰタ地元消費品生産ノ促進ガ競爭ノ主要條件トナツテヰ
ルノハ消費物資生産ノ地域的偏在、軍需輸送ノ輻輳ニヨル消費物資
輸送不円滑ノ爲各地ノ商品流通ガ澁滯シテヰル事態ノ緩和ヲ目的トシテ
ヰル点ニ於テ注目スベキデアラウ。國民ニ対スル商品供給ノ適正化ヲ目指ス各
機関ノ競爭目標ハ左ノ如キ点ニ置カレテヰル。

(6) 勞働豫備軍學校ノ競爭

、主要工業部門及ビ鉄道関係ト並ンデ勞働豫備軍學校タル徒弟學

校、鉄道學校及ビ工場實習學校ガ「社會主義競爭」ニ參加シタ。
競爭ノ目標ハ(一)全生徒ガ教育・生産業務ニ於テ「優」及ビ「良」ノ成績ヲ擧ゲ、(二)生産教育過程ニ於テ國家發註ノ計畫ヲ完遂シ、(三)大多數ノ生徒ガ軍事義務教育ニ於テ「優」及ビ「良」ノ成績ヲ示シ、(四)作業所、宿舍等ノ秩序維持ニ於テ模範的ナ學校ガ優勝學校ニ指定セラレルト云フ点ニ置カレル。
コレラノ諸條件ヲ具備セル最優秀學校ニ対シテハ國家防衛委員會持廻賜旗ガ授與セラレ、「最優秀徒弟學校」、「最優秀鉄道學校」、「最優秀工場實習學校」ノ名稱ガ與ヘラレル。ソノ

他優秀學校ニ対シテハ、生徒ノ文化、生活條件改善ノタメノ賞金ガ授與サレル。又、優秀ナル生徒・職員ハ勞働豫備軍總管理局ノ「優秀者章」、表彰状、賞品授與ノ申請ガナサレル。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三　民心ノ動向

独ソ戦勃發ニ伴フ一般民衆ノ日常生活ハ物心両方面トモ極度ノ重圧ヲ蒙リ之ガ民心ニ及ボス影響ハ深刻ニシテ不平不満ノ鬱勃タルアルハ勿論一部ニ於ケル厭戦気分ノ底流ヲモ看取セラレ寔ニ暗澹タルモノアリ　左レド右ノ様相ハ寧ロ戦争ニ伴フ必然現象ニシテ之ヲ過重視スルハ危険ナリトスベキモ現在其ノ不平不満ヲ昂消極的ニ沈潜内攻シアルノミニテ積極的ニ表面化スル徴候ハ認メラレズ而モ斯ル生活諸條件ノ窮迫ハ一般民衆ニトリ近年数次経験シ居リトコロニシテ亦其ノ忍従性諦観性強キ国民性ハ今後相當程度之ニ耐ヘシメ得ル

ヌノト判断セラル

而シテ此ノ間ニ処シソ聯當局ニ於テハ巧妙ナル士気昂揚ノ諸方策ー一例、赤軍反撃ノ成功、メーデー其ノ他ヲ巧ミニ利用スル物資ノ特配等ーヲ執リ就中其ノ思想宣傳工作ノ徹底的展開ハ強大ナル政治力ニ裏付ケラレテ之ガ民衆ヘノ浸透力ハ相當顕著ナルモノアリ即チ戦前既ニ「ソヴェト」的愛国主義ノ強調ニ特殊セル宣傳工作ハ一度ビ戦争ノ勃発ヲ見ルヤ熾烈熱烈ヲ極メテ対独敵愾心ト祖国防衛ヲ高調シ居リ右ハ戦争目的ノ単一明確ト国民ノ民族的自衛本能ト相俟ケテ巧ミニ民心ヲシテ対独戦完遂ヘト導キツツアリ固ヨリ一般民衆ガ内心私カニ速カナル戦争ノ終結ヲ願望シアルハ事実ナルモ其ノ消極的厭戦熱ハヨク当局ノ政治力ニ抑制サレテ

めくれず

之ヲ表面化セシムルコトナク敢々トシテ其ノ指導ニ追隨シ
来リタリ　更ニ戰況ノ躍進勢ガ民心ニ與フル影響ハ著シ
ク、最近ニ於ケル其ノ好轉ハ緒戰ニ於ケル一部ノ動搖ヲ鎮
靜化セシメタルノミナラズ國民ノ士気ヲ鼓カラズ昂揚シ
テ独軍ニヨル甚大ナル打撃ニモ拘ラズ漸次不敗ノ自信ヲ
植付ケラレ現在敵クニ表面上相當ノ抗戰意識アルモノト
見受ケラル
要之ノ政權確立後二十數年其ノ強靭ナル民心ノ把握ト指導
力ハ最近ニ於ケル戰局ノ好轉ニ助ケラレテ日常生活窮迫下
ニ免角沈鬱シ勝ナリ民心ヲシテ対独戰遂行ヘト導キ民衆ガ
概ネ戰局ノ高潮スル方向ニ向ヒ居リテ特段ノ情勢変化ナキ
限リ近キ將来其ノ破綻ヲ期待スルハ困難ナリ

次ニ之ニ関連アル二、三點ニ付補足スヘシ

(イ)ソ聯邦共産党及現政權ニ対スル民心ノ動向

戰時下党ハ益々其ノ指導的推進的役割ヲ強化シアル一方最近民衆、優秀分子ヲ續々党ニ加入セシメテ其ノ大衆化ヲ図ルト共ニ其ノ主義ノ浸透セル青年層ヲ著シク進出セシメテ之等ヲ通ズル人心ノ把握ハ其ノ巧妙ナル宣傳工作ト相俟ケ相當堅固ナルモノアリ固ヨリ反革命派ノ依然跡ヲ絶タサルハ勿論未ニ於ケル危険性ノ潜在ヲ暗示スルモ之ガ組織的反対勢力トシテ指摘スルハ現在期待シ難キノミナラズ亦一般大衆ノ党ヨリノ離反傾向モ目下之ヲ看取シ難シ而シテ斯ル党ヲ基礎トスル現政權モ依然強大ナル政治的把握力ヲ維持シテ概ネ国民ノ信頼ヲ繋ギ居リ人心ノ之ニ対スル悪化

動機ノ可能性ハ目下尠ク、殊ニ戰況ノ好轉ハ其ノ宣傳工作ニヨリ益々スターリンヨ神格化セシメ國民ノ彼ニ対スル信望ヲ概シテ良好ナリ

(ロ)國民諸層ニ於ケル問題

ソ聯ニ大社會層タル労働者コルホーズ農民及インテリ指導者間ニ於テハ前二者ノ後者ニ対スル反感ハ依然根強ク殊ニ戰時下インテリ指導層ノ機能低下ヲ見ツツアル今日両者ノ生活程度ノ開キガ物資不足ニ依リ益々目立チツツアル事実ハ注意スベク亦コルホーズ農民ニ於テハ其ノ経済生活ノ著シキ部分ヲ未タ副業私経営ニ依存シ反社會主義的私有意識ハ容易ニ拔クベカラザル近時之ニ加ヘラレタル強圧ハ両ビ農民層ニ動ナカラザル不満ヲ醸成シ居リ労働者層ニ

於ケル著シキ労働條件悪化ニ依ル不満ト共ニ無視シ難キモノアリ然レドモ斯ル否定的傾向ハ未タ表面化セズ亦近キ將来組織化セラルルノ徴候モ認メラレサルニ依リ過大ニ評價スルハ許サレズ

(八)、民族問題

ソ聯邦ノ民族政策ハ一方民族平等ヲモットシテ相互ノ対立ト差別意識ノ除去ニ努ムルト共ニ形式的自治ヲ許容シ他面強力ナル指導权ヲ把握シテ各民族ハソヴェト化政策ヲ強行シ此ノ憲柔ト強圧ノ巧妙ナル併用ハ戦前既ニ案外ノ成功ヲ收メ居レリ而シテ独ソ戦南進後ソ聯當局ハ諸民族ノ結束ヲ強化スベク独ソ戦ノ民族的意義ト諸民族ノ地位ヲ強調シ且宗教緩和政策ト共ニ差別待遇ノ排除ニ努メツツアリテ目下各

民族ハ概ネ現政权ニ追隨シテ組織的及ソ行動ナキハ勿論反
抗運ノ徴候ヲ示ノド自取サレズ尤モ今後戦局ノ不利ニ
伴ヒ民族問題培養ノ可能性ナシトセサルモ寛ノ政治的力把
握ト機密制度ノ完備ハ近キ將来之ガ組織的及ソ運動ニ展開
スルヲ困難ナラシムルモノト認メラル

(二) 宗教問題

宗教ハ共産主義ノ理念ト相容レズソ政权ハ從来强力ナル行
政的弾圧ニヨリ教會ノ現世的勢力ヲ破壞シタルモ國民大衆
ノ宗教意識ハ遂ニ之ヲ解消シ得ズ其ノ後新憲法ノ制定ト共
ニ露骨ナル弾圧政策ヲ止メテ漸進政策ニ移換シ更ニ独ソ戦
ノ勃発ヲ見ルヤ挙国一致ノ体制强化ノ為民心ノ歸趨ヲ考慮
シテ一段ト反宗教運動ヲ緩和シ寧ロ之ヲ保護スルガ如キ態勢

ノヲ示シ現在ニ於テハ其ノ間ニ特段ノ摩擦ハ認メラレズ尤
レド両者ノ理念ハ本質的ニ対立シ将来ニ於ケル潜在的危
険性ハ依然包蔵セラレ居ルモ現今ノソ辺ニ於ケル各宗教
ハ既ニ往年ノ戒力ヲ喪失セルコトヲ注意セネバナラズ

二八二

四七頁

軍極秘

重慶ノ政治情勢、

一、政情

二、国民生活ト民心ノ動向

三、中国共産党

今泉研究生

宮田研究生

沢辺研究生

古宇田研究生

二八ホ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、政情

(イ) 政治ノ基本的動向

現在ノ重慶政权ハ中国国民党ノ一党專制ニ基礎ヲ置ク。コレヲ発展段階的ニミレバ所謂訓政期ノ末期ニアリトモ得ベシ。シカレドモ実際政期ノ実現ハ当面望ミ得ザル所ニシテ国民參政会国民大會等偽装奔呂会等設置サレアルモコレラハ憲政実施準備ノ偽装ニ過ギズ。国民党ニヨル專制、中央集权ノ強化ガ政治ノ本流ニシテ民主制ノ偽装ハ單ニコレガ援護ノ役割ヲ果シアリ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(ロ) 政治機構ト蔣政府ノ統制力、

今日ノ情勢ニオイテ軍事的戦能力測定ノポイントハ従来軍備比重ノ軽重ニ非ズシテ寧ロソノ政治機構ノ強弱ノ問題ニアリ。

蔣政権ハ昭和十二年七月政府首脳会議ニオイテ(イ)党、政、軍三機関ノ全国的戦時体制ノ実施、(ロ)軍事、内政、外交ノ他国家ノ大事ト軍機ニ関スル諸機関ノ変ノ廃置ハアゲテ蔣介石ニ一任スルコトヲ決議シ爾来党、政、軍三位一体ノ抗戦体制ハ逐次整備強化サレ、コレニ対応スル蔣介石ノ統制力ヲ法制的ニモ実質的ニ強大トナリ、今日ニ及ベリ。中国共産党トノ対立機運ハ別トシテ軍事自体ノ政治機構ハカヲテミザル強靭性ヲ加ヘタル

モノト云フヲ得ベク、シカモ党、政、軍ヲ構成スル中堅分子ノ大多数ハ
イヅレモ抗戦意識極メテ熾烈ニシテ中華民族解放、抵抗等各
員長ノスローガンノ下ニ一致団結奮闘シツヽ現況ナリ。

(八) 各党各派及ビ財界ノ動向、

前述ノ如ク重慶政権ハ国民党一党ノ整断スルトコロニシテ中国共産党
国家社会党、国家青年党等各政党ハ残存シアルモイヅレモ僅カニ
国民参政会ニ代表者ヲ送ル程度ニシテ全ク政権ノ埒外ニアリ実力
モマタ中共ヲ除ケバ見ルベキモノナシ。
旧軍閥ノ残滓形骸今尚残存スルモ彼等ハ政治的ニモ経済的ニ

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

も党全ニ骨抜キ状態ニナリ、ソレ自体トシテノ実力ハ今ヤ問題トスルニ足ラズ。

更ニ国民党内ノ欧米派、親ソ派、知日派等々ト稱セラレル派閥分類ハ半植民地支那ノ特殊政治事情ヨリ生ジタル政治勢力ノ謂ナルモ今日、所謂欧米派ガ党内ノ主流勢力ヲタルハ論ヲマタズ。ルカレドモ現況ニオイテハカカル派閥ヲ超越セル新ラシキ勢力ノ抬頭ヲ認メザルヲ得ズ、即チ新官僚、少壮軍人等ハコノ範疇ニ属スルモノニシテ漸次実力ヲソノ手中ニ收メツツアリ。

蔣介石政治勢力ノ支柱タル浙江財閥ハ西南閥発ヲ通ジテ愈々政权ト癒着シ、更ニマタ西北開発、奥地建設ノ推進ハ新経済官僚抬頭

ノ地盤ヲ堤供スルトトモニ土着民族迄皇本ハ漸次国家統制下ニ統合慣服シ重慶政权ノ新タナル支柱ヲ形成シつつアリ。

(二) 対外関係

重慶ハ反枢軸陣営ノ一環トシテ米英、ソ、トノ聯携ヲ強持シアルガ就中対米依存ハ重慶対外政策ノ主軸ヲナスモノニシテ米英制夷ノ本領ヲ発揮シ自ラハ「建国」ニ全力ヲ傾注シアリ。治外法权ノ撤廃、租界返還ニ関スル米支條約、英支條約ハ締結ハイヅレモ渡夫ノ利トモ稱スベク著シクソノ国際的地位ヲ改善セリ。

(ホ) 判断

重慶政権ハ対日抗戦ヲ放棄シ無益ノ国力消耗ヲ成メ、治外法権ノ撤廃ハ租界還付、更ニハ枢軸陣営ノ世界戰局ニオケル有利態勢ニ鑑ミソノ志気ヲ昂揚シ事ヲ建国ニ誤ラメントスル。従ツテ支那問題ノ處理解決ハ当面期待スルコトヲ得ズ。シカレドモ対米関係ニオイテハ未ダ移民法解決シオラズ、対英関係ニ於テモ香港九龍問題未處理ノマヽニシテ対ソ関係マタ中共問題ヲ中心トシテ微妙ナル處南ヲ示ス可能性ナシトセズ、更ニ重慶人モマタ我々ト同ジク東亜人タルニ思ヲ至サバ重慶問題単独解決ノ鍵ハズシモ皆無トハ言ヒ難シ。

二、重慶ノ國民生活・民心ノ動向

(一)衣食住生活

衣生活ハ重慶ニトリテ致命的ト思ハル、迄ニ窮迫シ居レリ、コハ投降者及ビ遺棄死体ノ着衣ノ實情ヨリ見テ明瞭ニシテ、ソノ原因ハ專ラ軽工業ノ貧困ニ因ルト謂フヲ得ベシ。洋服一着ノ價格ハ約六千元ナリ。

食生活ハ「食フニハ困ラヌ」程度ナリトス。主食物ハ我ガ占領地區ニ比シテ廉價ナリ。

住生活ハ窮屈ナレドモ重慶崩壊ノ決定的要因トハナリ得ザルベシ。

カヽル狀態ハ如何ニシテ生ジタリヤ。蓋シ重慶ヘノ逃竄ニ際シテ工業カハ或程度迄移轉シ得タルモノ、如キモ工業カハ元來甚ダ貧弱ナリシガ故ニ軽工業生産ハ忽チ逆ノ昂騰ヲ生ジタリ。最モ困窮セシハ衣ニシテ、重工業モ零ト稱シテ可ナルベク、コ、何年ノ後ニヨリテモヨシ少

ノ武器ヲ外國ヨリ輸入シ得タリトスルモ、我ガ軍ニ対抗シ得ル軍隊トハ成リ得ザルベシ。空輸
西北ルートニヨル輸入モ経済生活ノ貧窮ヨリ救フ迄ハ参リ得ズ、カクシテ重慶ニトリテ唯一ノ
残サレタル打開方法ハ奥地開發ニアリキ。ソノ主目標ハ農業開發ニシテ、何ヤラ油断産業
ニ及ビシモ、玉門關ノ油田ノミキハ、航空機用トシテ役立タズ、唯一自給用トシテ相當量ヲ得
タルノミ。サレド開發ハ主トシテ西北ニ指向セラレ、甘肅省ヲ主トシテ迄ル新疆省ニ及ベリ。之ニ重カ
ビハ主トシテ蒙文類ニシテ、彼ノ地理ニ暗キシテノ事門的智識ニ負フ所大ナリ。而シテ注目スベキハ、
先ヅ宋一家ノ浙江財閥ガ西南開發ニ當リ、該地方ニ強固ナル地歩ヲ占メルト雖モ又実ニ大ナリ。
以上ノ如ク、藤原經ハ、重慶ノ食糧ニアリ、デラコル經濟行爲ガ物資ヲ以テ実行ケラルニトナク、「インフレ」ハ恐シク
程ニ迄達シ、ソノ日モ遠カラジトセリ。殊ニ、自己軍ノ「ビルマ」作戦以後ニ於イテ甚シトナス、ソノ中ニアリテ、唯一ノ福味
ニシテ長期抗戦ニ耐エ得、現在ニヨリ得タルハ四川省ガ古ヨリ豊ニ饒ナル農産地帯ナリシ点ト

奥地開發ノ成功トニヨリテ主食物ニ事缺カヌト云フ実ニアリ、藷や石ノ採リタル現物買上ゲト強制徵收トノ成功モ與ツテ力アリトス、兎ニ角食生活ニツキテ改善ヲ来サザリシハ注目ニ値スト云フベク、

開發ノ工程業ニ於ケル成功ハ主トシテ機械ノ不足ニ歸セラルベシ

二八千

〔參考第一〕　法幣中發行高

十七年九月末　二、八七三、七〇〇萬元
〃　十月〃　三、一二二、六〇〇〃
〃　十一月〃　三、三三八、一〇〇〃
昨年末ニハ　三五〇億元ニ達セリト考ヘラル

〔參考第二〕

	昭和十六年十一月	昭和十七年一月
卸賣	二、一二一・四	三、二七〇・九
小賣	二、三三六・八	二、七〇八・九

昭和十二年前半期ヲ一〇〇トスル物價指數左ノ如シ

	昭和十七年五月
一般	四、三〇〇
食料	三、九八〇

九

(二) 蔣介石ニ對スル信頼度

重慶政權ノ要人以上ハ陸続シテ居レリ。富農地主及若干官吏ハ買溜賣惜ミ又ハ機械等ニ依リ
巨利獲得ニ浮身ヤツシテ政府ノ取締リ、精神動員施策等シテ殆ド其ノ効ナカラシメツツアリ。
然ルニ、中堅以下ハ極メテ眞面目ニシテ、重慶的意味ニ於ケル愛國者ナリ、蔣介石ハカル青年ヲ
把握シ居レリ、ソハ抗日意識ノミガ青年ニ魅力ヲ有スルニ非ズシテ、「民族ノ開放」「中國ノ復興」ノ
理想ガ青年ヲ感化ケ、困難ナル彼等ノ境遇ガ却ツテ民族ノ開放運動ヲカリ立ツル所ニ強味
アリト謂フベク、一般ニハ蔣介石ニ對スル信頼感厚ク領袖崇拝ノ念徹底セリ。
然レドモ、叙上ノ國民生活ノ不安ハ常動叛乱ヲシテ進經セシメツツアルモ事實ナリトス。
(八) 昨年一月ヨリ春ニカケテ苗族ノ叛乱アリ、翌ハ二三ヶ師ヲ以テ討伐セザルヲ得ザリキ

(2) 三月末ヨリ五月ニワタリ「オルドス」ニ叛乱起ル、中支軍ノ使嗾スル所ニシテソノ數千五百位ナリ

(3) 一月中旬ニ始マリ四月ニ最高潮ニ達セル甘粛省蘭州ノ農民暴動ハ遂ニ人肉數千葬ト称セラル

(4) 四南各地、福建、廣東、廣西、雲南、貴州等ニ昨年來十暴動アリ

(5) 浙江、河南陝西ニ大水害アリ、罹災者數百万約二億元ノ支出ヲナシタリ。

コレラハ食糧ト生命ノ問題ヨリ起レリ。中央ノ侵略モアルベシ。回教徒ガ西北開発ニヨリテ追拂ハレタルモ一原因ナルベキモ、重慶ノ強制買上ト徴兵トニ対スル恐怖モ亦重要ナル因子ノ一ニシテ失ハザルナリ。

(三) 社會不安ハ薄政權ノ基礎ヲ動搖セシメツツアリヤ

不安ナル國民生活ハ民族問題、回漢、苗族等中支側ノ策動等ノ結合シテ異動ヲ頻發セルモ、コレラヲ非常ニ高ク評價シテ重慶ノ崩壊近キニアリ等ト思考スルハ不當ナルベシ。何故ト

云ハヾ(ロオ)、叛乱累卵ハ局地的ニシテ、シカモ彼ノ強權奔動ニ因リテ起リ、又ハ二因リテ鎮定セラレツヽアルヲ以テ、一面ヨリ之ヲ觀ル時ハ前函指ノ後進トモ云ヒ得ベキ現ラヤリ（第三）、強国ヒシ反抗勢力ナリシ。国際紛糾ハソノ領土ヲ侵蝕シ終レリ、彼等ハ保身ニ汲々タリ、唯一ノ対抗勢力タル英国覺ハソノ理念ニ於テ孤立的ニ非ズシテ、才能的ノ虎將ナリ、ブロレタリヤ革命ノ前ニブルジョア革命（即チ三百年前ノ英国ノ）、新疆者ハ未ダ解ノ中ニ野ニ尾ラザルト雖モ、金庫ニ対抗スル氣力モ空カラズ、即チ亜細亜ニテ之ヲ謂ヘバ、蓋シ金庫亜細亜ハ未ダ眠ル獅子ニシテ、ソノ覚醒ハ我カ国ノ希望的現象ナリ、即チ「ヤガテ」ガ「ヤガ」ノ意味ニ於テ、最近ニ於ケル提携者ノ勢ヒキ境遇ハ、金庫亜細亜ノ位置ヲ居ルモノトシテ、

二人キ

[illegible]

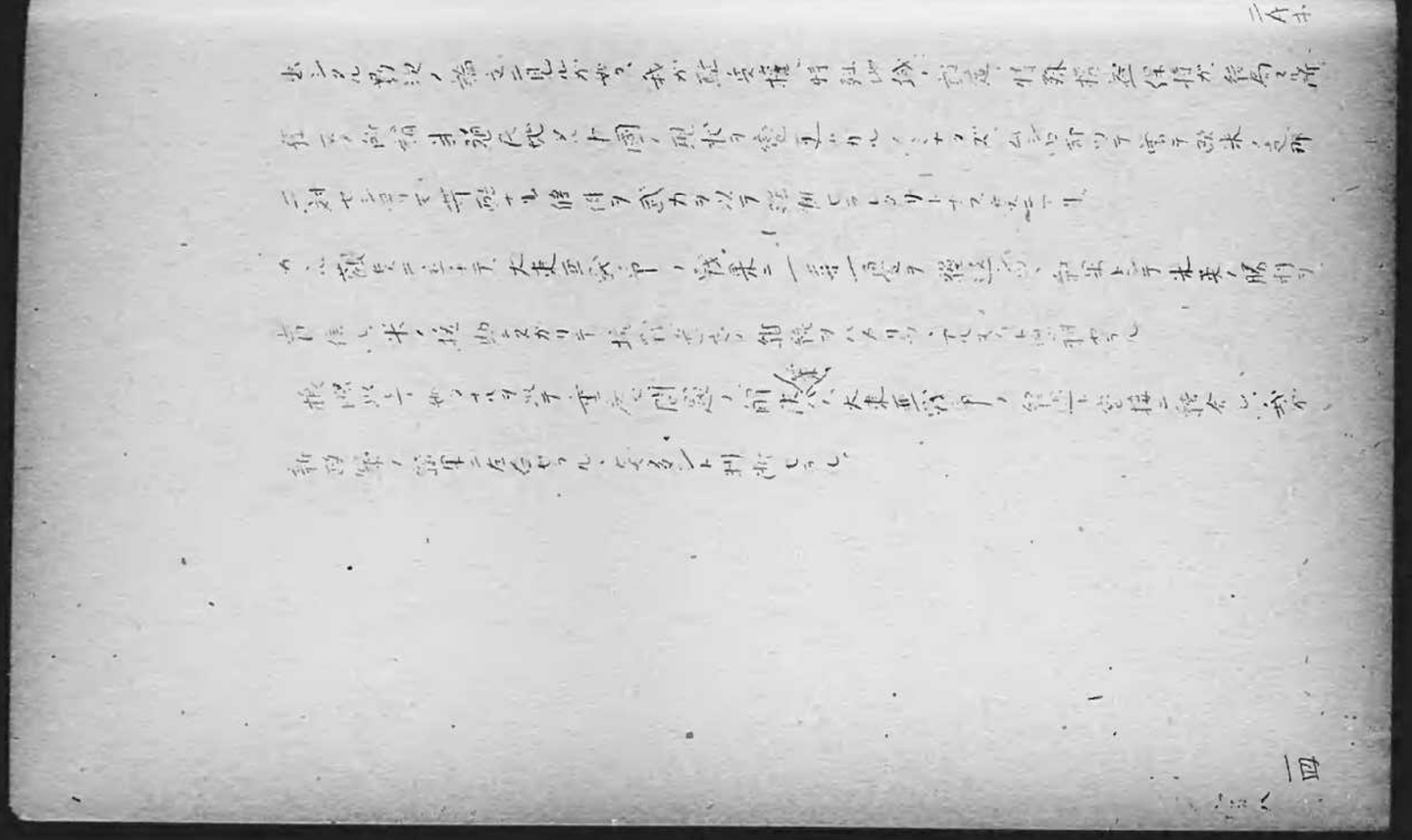
(四) 手段及戦ノ充分

[illegible]

[illegible]

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



三、中国共産党ノ現況

第一、特異性

一、党ヲ中核トセル軍政ノ三身一体性

特ニ共産軍ハ単ナル戦斗部隊ニ非スシテ共産党ノ政治目標ヲ実現スル為ノ武力即政治的軍隊ナリ

二A十

(二)政治組織

支那事変ヲ契機トシ陝甘寧辺区ヨリ北支ニ進出セル共産党ハ事変ノ混乱ニ乗シ勢力ヲ拡張シ昭和十三年一月晋察冀辺区政府ヲ樹立シタルヲ始トシ各地ニ於テ傀儡系各級行政機関ヲ赤化改編シテ共産系政府治機関ヲ組織セリ

三、中国共産党ノ現況

第一、特異性

一、党ヲ中核トセル軍政ノ三身一体性

特ニ共産軍ハ単ナル戦斗部隊ニ非スシテ共産党ノ政治目標ヲ実現スル為ノ武力即政治的軍隊ナリ

二、巧妙ナル民衆ノ組織化トその動員

三、政、軍、党ノ欽則固守

党ノ政治委員、政治主任ノ権力強キ為軍主脳部カ仮令抗戰ノ無意義ヲ悟リ和平陣ニ参加セントスルモ斯ル企圖ハ党ノ監視網ニ拘束セラル

四、巧妙ナル游擊戰ノ展開

五、党員ノ工作ニ対スル旺盛ナル熱意

第二、黨及政治組織

(一)党ノ組織

共産党ハ支那事変勃発以来巧ミニ抗日戰ニ便乘シ自己勢力ノ擴大強化ヲ企圖シ抗軍、民衆武装組織、経済工作並根據地建設ニ狂奔シ相当ノ成功ヲ見ルニ至ル

其ノ組織ノ概略別紙一ノ如シ

(二)政治組織

支那事変ヲ契機トシ陝甘寧辺區ヨリ北支ニ進出セル共産党ハ事変ノ混乱ニ乘シ乃ミニ其ノ勢力ヲ拡張シ昭和十三年一月晋察冀辺區政府ヲ樹立シタルヲ始トシ各地ニ於テ蔣党系各級行政機関ヲ赤化改編シテ共産系政府治機関ヲ組織セリ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其ノ概略別表二ノ如シ

第三 現下重要施策

(一) 政治方面

1. 新民主主義ノ発揚
2. 三三制及簡政ノ徹底
3. 行政組織ノ整理
4. 政治攻勢
5. 対象ヲ日本軍及新政権側ノ軍官特ニ武装団体ニ指向(別紙三参照)
6. 戦力ノ養成

(二) 経済方面

1. 基本区ノ堅持並新地区開拓
2. 農業増産
特ニ合理負担減租減息、統一累進税等実施ニヨリ農村ニ於ケル搾取ノ徹底的制限
3. 游擊根據地内ニ於ケル自給自足経済ノ樹立

第四 国共ノ相剋

偽国民党ニ「軍事統一」ノ路線アリ、中共ニ「軍事平衡」ノ路線アリ、並「社会革命」ノ野心存スル限リ両者ノ相剋ハ必然ナリ

日本陝甘寧辺区政府ノ解消、第十八集団軍及一部ビルマ遠征ヘノ参加、新四軍ノ全面的改編、十六軍五十万ニ縮減等ノ重慶側ノ要求ヲ繞リ両者ノ斗争ハ日本敗戦ヘノ協同又ハ被離ナル国際情勢等ニ鑑ミ戦線ヘノ

裏面白紙

三、両者ノ関係ハ敵ヲ又調整強制セラルベキモノ
ナルヘシ

第五　内部的派閥斗争

イ、元老派
ロ、軍人派（実力派）……朱德中心
ハ、党務派……毛澤東
ニ、青年派……王明中心
ホ、新国民党派……詳細不明

等存スルモ毛澤東ノ地位ハ絶対的存在ト成リツヽ
アルハ明瞭ナル事実ナリ

第六 將来ノ見透シ

我ニ対スル攻撃態勢ノ統一強化及発展、二風運動ノ展開等ニヨル国都及省及農村ノ向上ノ企図党員ノ組工作ニ対スル組織的ナ敵意、ソノナル民衆ノ組織化並ニ力説、更ニ社会ノ浄化、北支並地域ニ亘リ共産ノ討伐ニ依リ将来革命蜂伏蠢動ノ徐起ナキニ至ルニ及シテ大ニ都ツノ勢力ヲ蓄積拡張シ居ル事実等ニ鑑ミ、中共ハ今後更ニ日ヲ追ツテ増大シ新支那建設ニ一大障害ヲナスベキノト思料セラル

別紙一

中国共産党組織概要

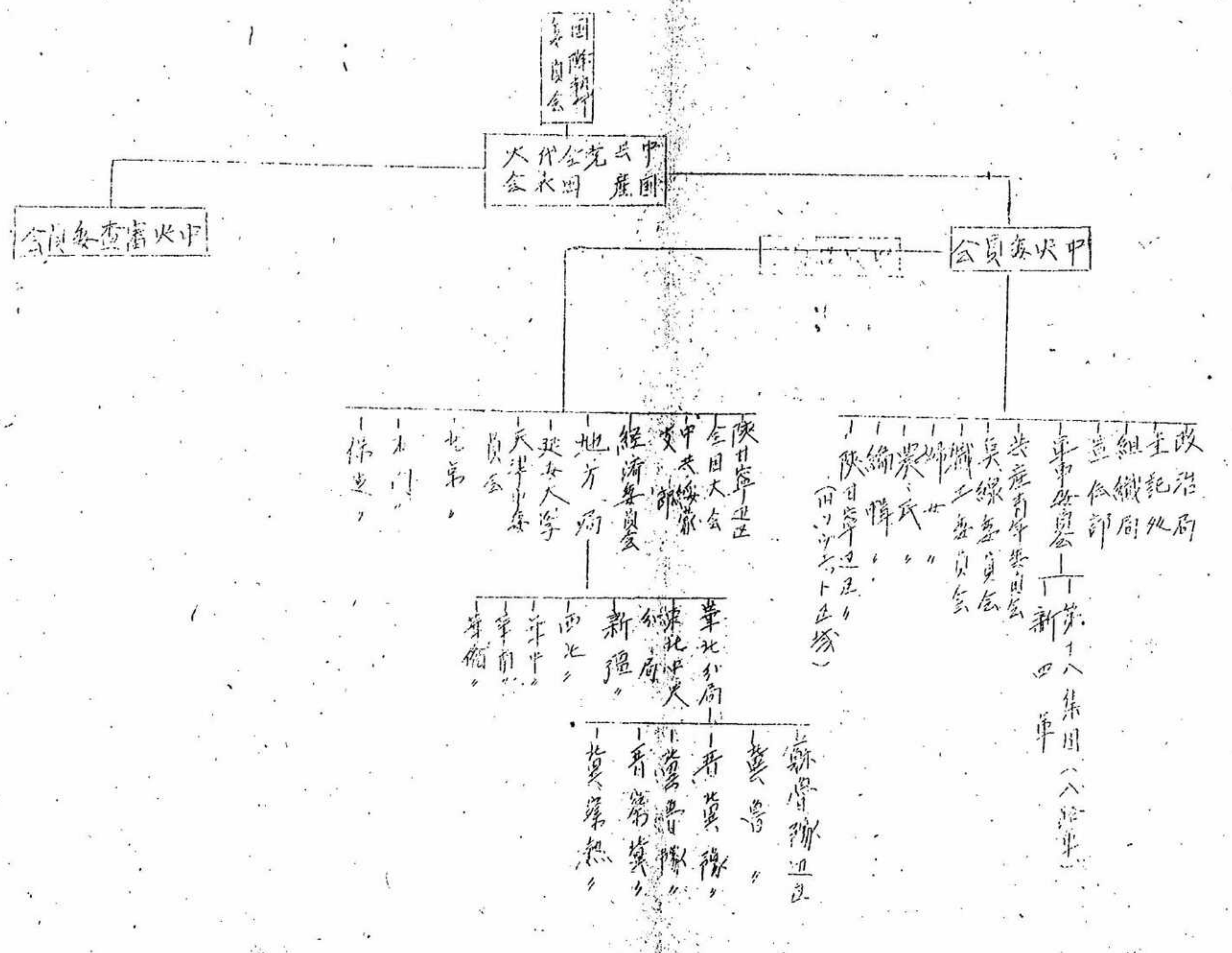
政治部
組織局
宣伝部
全国総工会

中央調査委員会

カツ宣伝波ニ乗ジ事実
等ニ鑑ミ、中共ハ今後更ニ日ヲ追ウテ増大シ新
支那建設ニ一大障害ヲナスモノト思料ス

（別紙一）

中国共産党組織概略

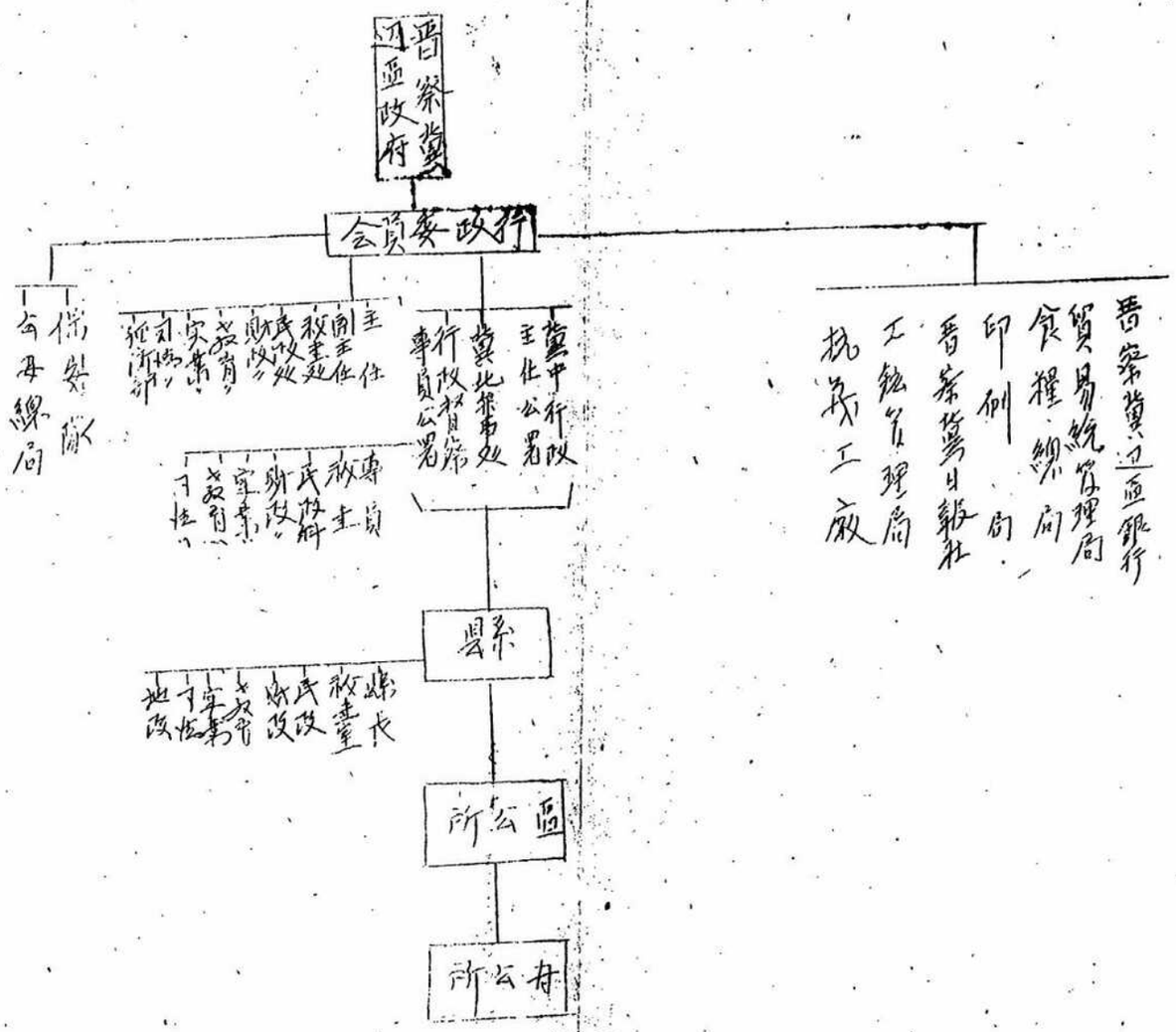


裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

（別紙二）

中共政治（行政）組織概略



二八

尚外ニ陝甘寧、晉冀魯豫、冀察熱辺区政府、山東省我時工作推行委員会、晉西北行政公署、江北苏北尚其ノ他存在セル諸機構アリ

冀辺区政府概況 昭和十九年一月十日 別紙ノ如ク不明

一九

裏面白紙

別紙(三)

昭和十八年四月中ニ於ケル北支軍ノ亜空襲状況

部隊名	敵襲	空襲	通信業務	計
戊第四	三(二八)	ナシ	三八	六九
乙〃	二二(一〇)	一三	九四	一三八
仁〃	一二(五九)	九	一二	九二
鷲〃	一八(三三)	三	一三二	二四五
柑	一(一八)	ナシ	二六	二五
谷	(七)	ナシ	九	一六
胃	七(三)	ナシ	八	一八
合計	三二(一四七)	三五	三九	五七二

備考 (一)八月以降ハ空襲側武装隊ニ対スル空襲ナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

極秘

(二)

英、米、蘇、重慶ノ戰爭遂行ノ為ニスル諸力ノ推移及其ノ限界

政治二

荒 研究生

中村雄一

小島久武

〃 〃 〃 〃

吉武

三B

目次

甲、反枢軸陣營ノ戰爭遂行ノ爲ニスル協力ノ推移

一、序言（世界政策ノ見地ニ於ケル米、英ノ不可分性）

二、戰爭指導上ノ協力（ルーズヴェルト、チャーチル會談）

三、作戰上ノ協力

イ、米、英合同參謀本部

ロ、兵力及資源ノ協力

ハ、米英對ソノ協力

四、武器貸與法ニヨル協力

五、戰後問題ニ關スル協力

イ、戰後處理方式

ロ、聯合國救濟復興機関設置ノ件

ハ、戦後食糧會議

二、國際通貨會議

乙

反枢軸陣營ノ戦爭遂行ニ協力ノ限界

一、軍事上ノ限界

イ、作戦部面ニ於ケル米英ノ立場

ロ、米英対蘇ノ関係

二、戦爭目的ヨリスル限界

イ、米英間ノ一線

ロ、米英対蘇ノ隔(懸)心

三、具体的諸問題ニ現ハルル米、英、蘇ノ協力ノ限界

イ、米ノ進出ト英ノ自己防衛（米英間）

(一) 英帝國領土ノ帰属問題

(二) 米ノ全面的進出ト英ノ抗争

(三) 米、英、蘇協ノ限界

ロ、戰後ノ處理問題（米、英、蘇間）

(一) 東欧問題

(二) 独逸處理問題

ハ、戰後ノ世界經營問題（米、英、蘇間）

(一) 根本觀念ノ差異

(二) 具体的諸問題ニ関スル一致

丙

二、重慶ノ立場

判決

イ 協力

ロ 限界

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

甲、反枢軸陣營ノ戰爭遂行ノ爲ニスル協力ノ推移

一、序言（世界政策ノ見地ニ於ケル米英ノ不可分性）

米、英兩國ハ民族ノ同一性、民主主義的世界觀ノ一致、並ニ枢軸陣營ノ新秩序建設ニ對抗スル現狀維持的ニ協ニ於テ、原則的ニハ、不可分一体ノ關係ニ在リト言フベク今次大戰ニ於ケル反枢軸陣營ノ協力ハ、コノ米英ノ不可分關係ヲ中核トシテ、陣營各國ノ地理的、政治的環境ト戰爭經過ノ推移ニ影響セラレツツ、漸次強化ノ道ヲ辿レリ

二、戰爭指導上ノ協力（ルーズベルトチャーチル會談）

米英ノ國民体制上、統帥權ハ政府ニ對シテ独立スルコトナク政府ノ指揮下ニ在リ、コノ点ハ所謂聯合戰爭ノ場合ニ於ケル戰爭ノ協同指導ノ實現ニハ都合ヨク、況ヤ現在ノ米ノルーズヴェルト、英ノチャーチルノ如ク、國民的ニ絶大ナル指導力ヲ有スル者カ政府ノ首腦者タル場合ニハ、両者ノ協力ハ即チ政戰両略ニ亙ル米英両國ノ協力ト言フヲ得ルナリ

才一次ル、チ會談ハ既ニ米國ノ參戰前ニ開催セラレ、大西洋憲章ヲ決定セリ、爾来、四ヲ重ヌルコト五回、合同作戰ノ遂行、對ソ、對重慶援助方針、其他ノ重要問題ニ関シ戰爭ノ夫々ノ段階ニ應ジテ、米英両國ノ戰爭方針ヲ決定

三、實施シ来レリ

第一次ル、4會談（一九四一、八、十一―十三、プリンス・オブ・ウエルス艦上）

大西洋憲章ノ決定

第二次ル、4會談（一九四一、一二、二二―四二、一、二、華府）

帝國ノ對米英宣戰ニ際シ情勢ノ協議

二十六ヶ國反枢軸共同宣言発表

第三次ル、4會談（一九四二、六、一八―二九、華府）

英ソ同盟（五、二六）米ソ協定（六、一一）後ノ對

蘇援助方針　北阿作戦ノ決定

第四次ル、4會談（一九四三、一、一四―二四、カサブランカ）

枢軸無条件降伏會議ト銘打チ、對独伊打倒方針協議

第五次ル、十會談（一九四三、五、一一～二八 華府）、
傀儡佛政權ノ統一強化、政略、大東亞同盟及攻作
戰ノ協議

第六次ル、十會談（目下進行中）

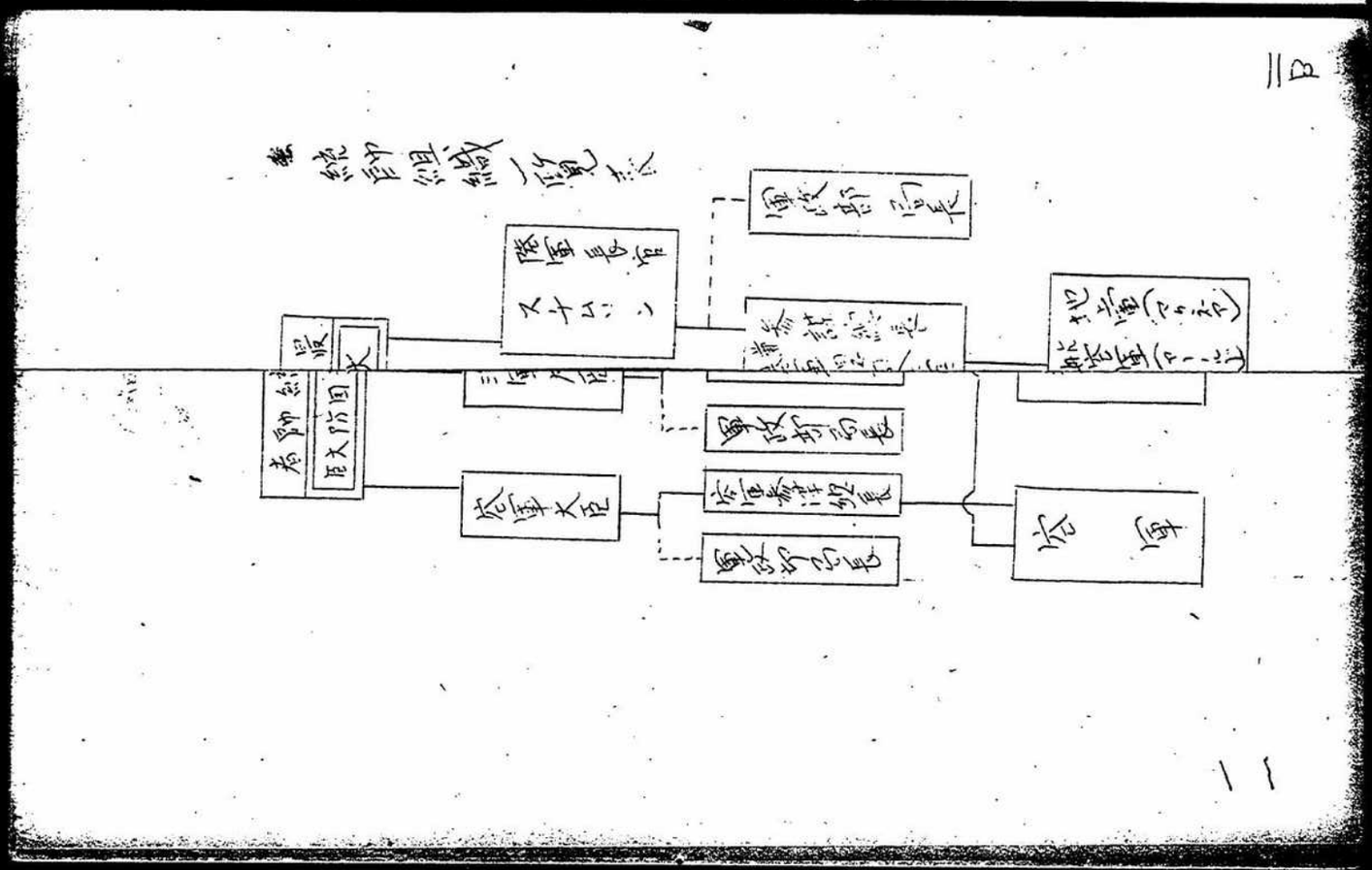
三、作戰上ノ協力。

米國ハ第二次大戰ニ参加スル前ヨリ既ニ聯合陣營ノ同志タルコトヲ宣明シ其ノ偉大ナル經濟力物ヲ言ハヒ所謂聯合陣營ノ兵器廠ト呼号シテ聯合各國ニ物的援助ヲ与ヘテ以テ聯合陣營ノ戰爭遂行ノ不可欠ノ支柱トナリタリ。此ノ協力ハ後ニ武器貸与ニテ特殊協力形式トシテ取上ゲベキカ、米國ガ第二次大戰参加後作戰部面ニ於テ米英間ニ緊密ナル協力機

構、設置セラレタルハ、注目ヲ要ス。尤ハ前述
ノ米英両国ノ国内機構ノ特性及ビ第一次大
戦ニ於ケル連合国戦ノ苦キ経験ヲ活用
セルモノナルベシ。

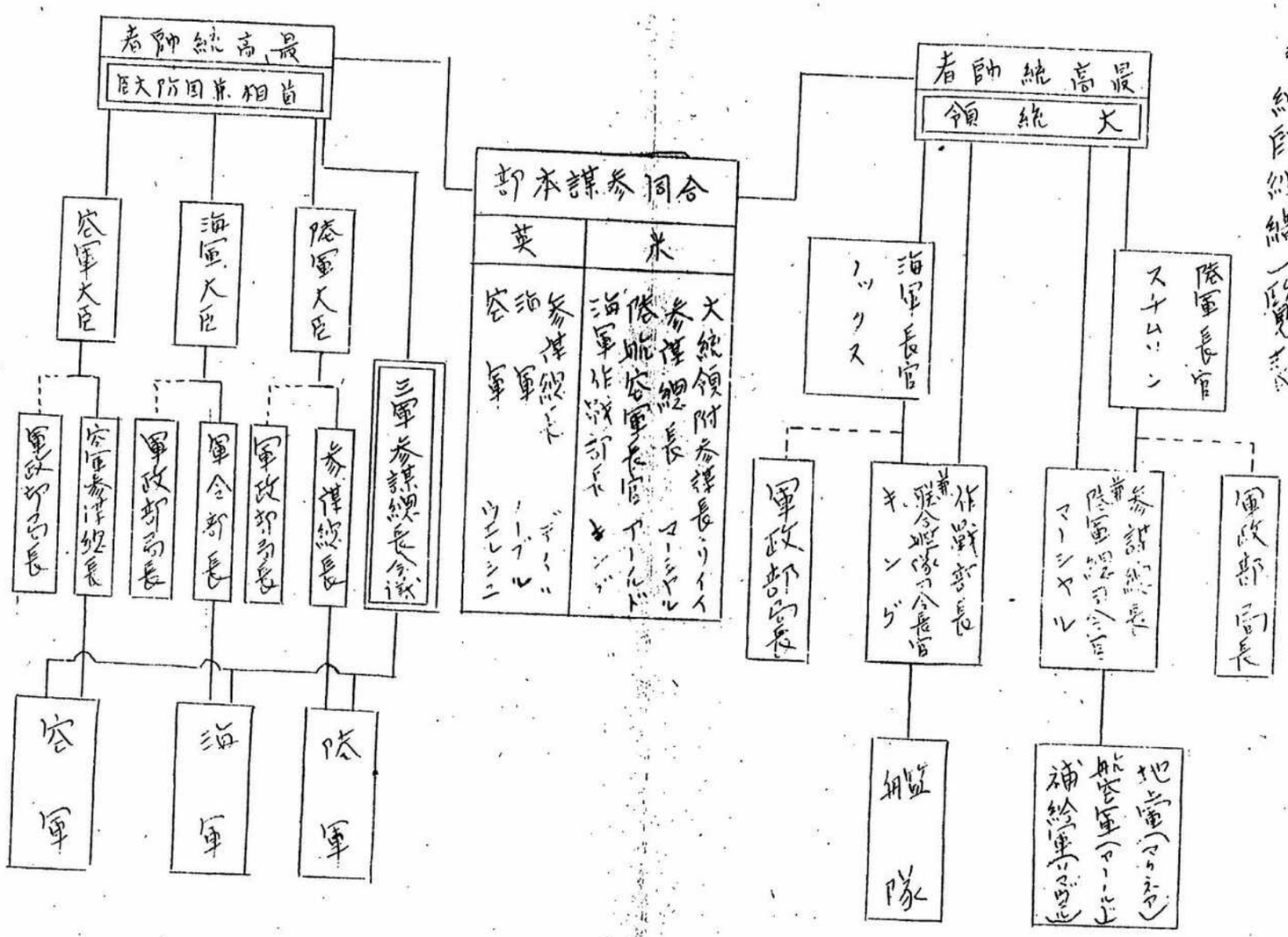
一、米英合同参謀本部

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

統帥組織一覧表



裏面白紙

2. 実戦上ノ協力。

前項ニ於テ述ベタルガ如ク統帥上全国ノ指導設置シテ戦ニ指導ス統一ニアル外其実際ノ戦ニ於テ協力提携ハ相当ニ密ニ実施セラレアルモノト判断セラル。

例イ、北阿作戦ニ於ケル陸海作戦 其他

ロ、コンボイ実施要領

3. 西南太平洋ニ於ケル米豪軍

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

八　米英對ソノ協力

独ソ開戰以来、殊ニスターリングラードノ反攻以来
專ラ蘇ノ機嫌トリニ終始セル米英両國モ、北
阿作戰以来ハ、若干對蘇面目ヲ回復セル彼
勢力ニテ、而来米英對ソハ勢力均衡ノ上ニ
表面的交歓ヲナシカレリ
即チ四三年ノメーデーニ於ケル スターリンノ演
說ハ、赤軍及米英軍ノ東西ヨリノ打撃ヲ
今迄戰爭中始メテ成シタルナリト米英トノ
協力態度ヲ始メテ表明シ、又チャーチル
陷落ニハ、スターリンヨリ、チニ對シ祝電

ヲ発シ、英蘇同盟、米蘇協定ノ一周年記念日ニ、儀礼的ト云ヘバソ聯ノ言論ガ之等ノ同盟及協定関係ヲ誹謗シ、蘇ソ戦争ニ進ンデ戦後協力関係ニ進ンデ言及セリ

更ニコミンテルンニ解消ハ単ニ観念ニスベカラザルモ、米英蘇三国ノ対独戦遂行上ノ障害ヲ除去セルモノトシテ、現段階ニ於ケル三国ノ協力関係ニ何ラ影響ヲ与フルモノナリ

四、武器貸與法ニヨル協力

反枢軸陣營ノ呼号スル大規模ナル反攻作戰ニハ米ニヨル武器並ビニ食糧ノ補給ヲ不可缺トシ、從ツテ武器貸與ノ每月續ク限ヒ今後ノ動向ハ大規模ナル改ヨリ戰線ノ結成能ハサル重要ナル関係ヲ採リ

武器貸與法（國防促進法）ハ中立法ノ骨抜ト云フヘキ

一九四一年三月十一日ニ採用サレ、現在迄ニ同法ニヨツテ米國ト武器貸與物資ヲ締結セル諸國ハ英（一九四二、二、二六）蘇（一九四二、六、十二）重慶（一九四三、六、二）ヨリ始ナトシ亡命政權ヲ含ムナリ

三十六ヶ國ナリ、而シテ武器貸與法ノ適用期限ハ一九四三年六月三十日迄ナリシガ、四三年三月上旬武器貸與法更新

案ガ議會ニ通過シ、ソノ効力ハ更ニ五年延長サレ来タリ
コノ形式ヨル援助ハ勿論必要ヨリ生ジタルモノニモ、第一次大戦ニ
於ケル米國ノ聯合國援助ノ後始末ガ戦債問題ニシテ、戦後
ノ平和確立ノ一障害ヲナシタル前轍ニ鑑ミテ案出サレタル
一方策ナリトモ言ヒ得ベシ

五、戦後問題ニ関スル協力

イ、戦後處理案

米英ハ第一次大戦後ノ平和ガ二十年ニシテ崩壊シタル所以ノモノ
ハ聯合國ガ戦後ニ打建ツベキ新世界ノ平和機構ニツイテ
戦争中相互間ニ充分研究用意ヲセズ、戦争休止トナルヤ
一モ

無準備及ビ早急ニ平和休戦ヲ決定セルニヨルト雖モ
昨年秋以来、二千里ニ、亦ニ次大戦後ニ於ケル世界再建問題
ヲ、会私両方面ニ亘リ、会私執拗ニ論議スルコトニヨリ、戦
局ノ大局ガ、反枢軸側ニ有利ニ動カザルトキハ、之ヲ国
民志気ノ昂揚剤トナレ、戦局有利ノ傾向ヲ示スヤ
益々コレヲ以テ、反枢軸側ノ勝利ノ間近キガ如キ感覚ヲ
與ヘテ、枢軸陣営ニ対スル政治工作ノ目ヲトナシツツアルガ如シ
一九四三年三月二十日ノチャーチル演説ハ、ソノ中デモ、
英国最高責任者ノ提唱ナル国際ノ表明トシテ
恒目サレタルガ、チャーチルハ先ヅ、一両年中ニ於ケル ヒトラー
政権打倒ノ可能性ヲ論ジ、爾後ハ対日戦争遂行戦

ノ統行ト共ニ一部兵員ノ復員モ行ヒ得ベク、世界平和機構ノ下ニ於ケル防衛会議並ビニ亜細亜会議ノ設ケラルベキ提唱ヲ為ス

口、反枢軸国救済復興機関設置案

一九四三年六月上旬、米国人反枢軸国救済再建委員会ニ関スル協定草案ヲ反枢軸諸国並ビニ、リノ友好関係諸国ニ提示セルガ、リノ重ナル成者ハ反枢軸諸国ノ回復セル地域ノ住民救済、復興ノ事ヲ目ハシ、米、英、蘇、重慶ヲ中核トセル委員会制ニヨル国際機関ヲ設置スルト言フニ在リ、彼等ノ陣容成ニ於テハ、政治

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

的又ハ法律的問題ニ先行シテ、カヽル種類ノ問題ガ取上ゲラレタルハ、社會的進歩ナリトノ意味ノ自讃ヲ口ニシ居レリ

八 戰後食糧會議

四三年六月十八日ヨリ六月三日迄、米國主催ニテ戰後食糧ノ供給、配分関係ノ調整ヲ目的トシテ開催セラレタルガ、英、蘇等トノ足並揃ハズ、結局、中間的準備的機構トシテ、中央委員會ヲ設置スルコトニ落着セリ

二 國際通貨會議

米、英ノ提唱スル戰後通貨案ハ夫々四月上旬公式ニ発表

サレ、四月下旬ニハ反枢軸諸國ニヨル國際通貨会議開催ノ
予定ナリシガ南来、コノ問題ハ日ナラズシテ挫折ヲ見ル、米
、英ハ、議会ニテ夫々標榜ヲ進メ、更ニ、自己陣営ヨリ小國ト
二、三ノ所新ヲ進メオルモノノ如ク傳ヘラル

乙　反枢軸陣営ノ戦争遂行ノ為ニスル協力ノ限界

一、軍事上ノ限界

イ　作戦部面ニ於ケル米英ノ立場

反枢軸陣営ニ於ケル共同作戦ノ根本的方針ガ日本ノ為、改変重点ニアルコトハ、諸ヲ埃ラザルモ、米国ノ立場ハ(イ)米国民衆ノ輿論(ロ)重慶並ビニ蒋介石ノ要望等ニヨリ、英ノ改変重点主義トハ若干趣ヲ異ニシテ、ノ改変、太平洋ノ同時及攻ヲ主張セザルヲ得ズ、カサブランカ会議後ノ、蒋介石並ビ重慶ノ動キ、第五項ノ二二

會談、前後ノ模様ヲハ此ノ間ノ消息ニ物語ル、（カ五次
米英會談ト戰略轉換問題）、即チ米國ハ、独伊打倒
後ニ於テ、果シテ英（及ビ蘇）ガ同様ノ救心サヲ
再後ニ於ケル戰爭ニ持続セルヤ否ヤヲ危惧スルノ
非アリ、茲ニ三國ノ軍事的協力ニハ限界ト言ヒ得ザ
ルベキモ、或種ノ制限アルヲ思フベキナリ

四、米英對ソ關係

以上ノ米英ノ立場ノ相違ハ、ソ聯ニ関シテハ一層明瞭ニシ
テ、蘇ハ既ニ蘇線ノミニ戰ヒツツアリ、對日関係ニ於テ
未英ト一致セズ、更ニ作戰ニ於テモ、現在ニハ米英トノ
二重

めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

協力事ハザル事構ヘナリ、又蘇ハ強カナル防禦力ニ戦
線要求ハ、シナリ[illegible]アル作戦間終始若干動化セルモ、
依然強烈ナリ（之ニ対シ米英ハ逆ニ蘇ノ対日戦線
作成ヲ要求シ得ベキ助合ニツイテモ、米英両国ハ、蘇ハ黙
殺ヲ通ス）之等、米英対蘇ノ関係ニ或種ノ限界
アルコトヲ示シ知セシムルモノナリ

二、戦争目的ヨリスル限界

イ 米英間ノ一線

米英ハ大西洋憲章ニ於テ、一度ソノ戦争目的ノ統
一ヲハカレルガ、コレハ、当時ノ苦境ニ刺戟サレ、彼等ノ戦争

目的ヲ世界ニ告言シテ、一ハ國民ノ結束ト志気ノ昂揚ヲハカリ、一ハ敵枢軸陣營ヲ下ニ在ル弱小民族ニ呼ビカケテ敵陣營ノ内部ニ味方ヲ作ンコトヲ目標トシテ、一進一退則然ナル意見ノ統一ヲハカリ、ヒーナリ、從ツテ、ソノ抱懷セル社會政策ハ、米ノ理想主義的系則等ト英ノ安協的現実政策トニ消シ難ガル一線ノ存在セルヲ認ムベク、コノ限界ハ、大西洋憲章ノ適用サルベキ諸問題ニ関シテ、直チニ表面化スベキ筈ナリシ居ラシリ

大西洋憲章ヲ基盤ニ行ハントスル時、右ハ英帝國ソレ自体トシテ國都ニハ勿論、英ノ對内政策上ニ重大ナル影響ヲ及ボスベク。

四　米英対ソノ態度

蘇ニ対シテハ、デヴィス等ノ為ニ亞ル三国会議ニ対スル招請ノ意志表示ニモ接セズ、現在迄純自ノ戦争目的ニ立ツテ離リ居ルモノ、如キ、十分、アリシヨリ所倒ト自国国土ノ回復ト言フ自己一個ノ戦争目的ニ限定特シ、対独作戦ニ於テノミ協力スルト言フ限界ヲ固守シ、従ツテ戦争目的ニ於ル修経緯等ヲ考フルノ点ヨリ見ル時ハ、米英ニ於ケルヨリ主ニ質ノ異ツタルコトヲ推度シ居ヲリ

コノ限界ヨリ出ヅル米英トノ態度ハ以下述ベントスル諸問題ニ於テ参考ニ看取シ得ルトコロナリ

三、具体的諸問題ニ現ハレタル米、英、蘇ノ勢力ノ限界

イ 米ノ進出ト英ノ自己防衛（米、英国）

(一) 英帝國領土ノ帰属問題

カナダ、濠洲、ニュージランドヲ始メ、地理的、軍事的関係ヨリ、数米国ト密接ナ関係ニ立ツベキモノデアルガ、諸ヨリ、カカル情勢ニ背景トシテ米國ハ英帝國ノ解体ヲ示唆スル積極的言論アリ、殊ニクリッフス ノ対印交渉失敗後英ノ帝國主義ヲ至ハ植民政策ノ一声ヒトリ、キ、コノ間、スタンレー英相ト相ハ牛津保守党ノ協会ニテ他国ノ協力ニ七

八、素ヨリモ、國際管理ニハ、反對スルト卒直ナル見解ヲ表明シ、チャーチル首相又植民相ノ所見ヲ支持シ、四戰後ニ於ケル英帝國ノ地位保存ヲ明言シタリ。

(二) 米ノ全面的侵出ト英ノ抗爭

米ノ進出ハ分論英帝國内ノミニ止マラズ、北阿、西阿、近東、中東ニ及ビ、英ガ、心底ヨリ快トセザルベキハ蓋シ想像セラルルトコロナリ（北阿ニ於ケル米英ノ抗爭、佛蘭西解放委員會ノ構成問題参照）

(三) 米英妥協ノ限界

カカル情勢ニテ兩國ハ、戰後ノ経済的協力ヲ北阿政策ニ因スル妥協、印度ニ於ケル米ノ自己抑制等

表面ノ協調ニ過ギナクアルモ、右ハ世界政治ノ主潮ノ米英ノ對抗ヲ解決セルモノニハ非ズシテ、単ニ問題ヲ暫未ニ持越シタルモノニ過ギズ、コノ部面ニ於ケル両国間ノ力ノ関係ハ多面ニ異ル要素ヲ含ムノ秋ナルベシ

四 戰後政治處理問題（米、英、蘇間）

(一) 東欧問題

独蘭問題（ミコヱスキーノ横死後、社会主義者ニヨリ成ル ミコヱライエフヤウノ在英政府推ハ對ソ国交回復ヲ希望シ、

(二) バルト三国問題（八月初旬モスクワ発ノ通信ハ、ソ連ハ バルト三国併合ニ関シ「ソヴエト エストニアー」ノ「ソヴエト ラトビア」

ニトヴイヤ」「ソヴエトリツアニヤ」ノ線ヲ決議セリト報ズ

二付テ英ハ独逸ヲ打倒シ、ソ聯ノ協力ヲ絶ツ必要トスル

軍ヲ上ノ為ニ、戦後ノ対独講和第二戦トリ友邦国係

ニ重ニレトスルカ故ニ、蘇ノ要望ニ対シ、益協的ナルモ、米ハ大

西洋憲章ノ原則ニ、矛盾スルヲ以テ英蘇

ノ態度ニ釋然タラサルモノアリ、東欧問題ノ解決

方式ハ明カニ、三国協力ニ限リサアルヲ示ス

(二) 独逸ノ進上處理問題

英議会ノ、戦後対策委員会ハ四三年五月十七日、戦

後対策ノ目的ニ於テ、独逸ノ分割、軍ヲ以テ領土

ノ割譲ヲ多ク主張トセル、独逸ノ分割上處理方策

ヲ、発表セルガ、右ハ英米ノ絶滅政策ニ対スル輿論ノ傾向ヲ示唆スルモノナリ、

一方蘇ハ、四三年七月十二日、自由絶滅委員会ナルモノヲモクロンデ創設シ、宣言ヲ発表セレタ。民主主義絶滅ヲ現出セシメント、之ト和平ヲ計ルノ方針ヲ示唆シタリ（同委員会ハ英米ト事前ニ何等ノ連絡ナク設立セラレタリ）、コノ事實ハ絶滅政策問題ニ関スル三国間ノ隙カニ根本的相剋ヲ暗示スル一要因ヲナスモノアルヲ露呈シタルモノナリ

(三) トルコ問題

トルコノ中立ガ近東ニ於ケル英ソノ対立ヲ、ソノ有力ナル因素ノ一トスルモノナルコトハ周知ノ事實ナリ、海峡ヲ

中心トスル英蘭ノ反抗ハ、今日ノ日本ノ
敵ニ対シテモ、同地域ニ住スル諸民族、諸国家ノ
独立的地位ノ回復トナル場合、英ソ間ノ協力ハ乗リ
越シ難キ障害ニ逢着スルモノト言フモ過言ニ非ズ
（元、中東地域ニ於ケル自我ノ主張ニ関シ話アリ）

八　戰後ノ世界経済ノ問題

（一）根本観念ノ差異

前記チャーチル演説、英議会戦後計画要綱ノ長書、
大東亜共栄圏調査会ノ報告、第二米英両国首脳ノ意見
等ニ基ヅキ推測セラルル米英ノ戦後経済ノ基本

方第八、相動諸国トハ

(イ) 即時講和ヲ結ビズ

(ロ) 米英、蘇、重慶ノ全陸、海及武装部隊ヲ即行シ

相当長期間武力ロ留ヲ断行シ

(ハ) 所謂日支事変ノ事実ヲ基礎トスル政権ノ樹立ヲマツテ

(ニ) 之ト恒久的平和関係ヲ樹立シ

(ホ) 満洲国、米英蘇支ノ個別的出兵関係ト絶縁セバ

ル、而シテ国際連盟脱退、九国条約等ヨリ、生ジ強力ナル国際的相互保障体制ノ樹立ニ当ラン、

ト、マルモノト推察セラル

然レドモ此ハ、カナハ米英ノ意向ニ付、主動何等ノ

三三

種族的意見ヲ問陳セズ、自己ノ利害深キ地域ニハ
自己ノ統治組織ノ樹立ニ奮ラントスル
意向ノ如キ、コノ種ノ問題ニ関シテハ、未タ一回モ、
米英對蘇ノ問題ニ就合テ見ザル情況カナリ

(二) 具体的諸問題ニ関スル不一致

(イ) チャーチル演説ニ付テハ小国側ニ米、英、ソ、支ノ
国際的統才ナリトシテ不満強シ

(ロ) 米ノ主催セル戦後食糧会議ハ、英、蘇ノ大ニ
ノ如キ期ヨリスル主張ニヨリテ所期ノ目的ヲ達成セズ

(ハ) 国際金融再建案ハ、ケインズ案トモ、ダンバー
案トガ英米ノ夫々ノ立場ヲ表示シテ特立シ、

三四

即チ、米ガリノ保有スル巨額ノ金ノ活用ニヨリ、戦後ノ国際金融ニ主ヨリシテスルニ至レル、英ハ戦前ノ国際貿易ニ於ケル比重ヲ最早トシテ往昔ノ地位ヲ回復セントレ、未ダ自国サノツカサル情勢ナリ。

二、東亜ノ立場

東亜ハ五億ノ人口ヲ有シ、世界ノ四大国トシテ、特ニ日ヲ米、英、蘇ト共ニ、世界ノ四大国トシテ、特ニ導国ト成ノ地位ニ立ンコトヲ夢想シツツアリ、而シテ三国中最モ米ニ近ク、米ニ信頼シテ其ノ地位ヲ確

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

保セントスルモノニシテ、左ノ如ク計文書ヲ以テ一文
部長ノ名義ヲ冠シ、公明正大ニ国家ノ為ニ尽シ、
力ヲ国米採集ノ為ニ注ク国文書ニシテ、
洞察シ、モノアルベキ事ヲ信ズル

丙、判決

一、反枢軸陣營ノ協力ハ、軍ニ戰爭完遂ノ爲ノミナラズ、更ニ一歩ヲ進メテハ戰後經營ノ諸問題ニ迄デ、協力能ハザル樹立セント如カンアル情勢ニテハ、決シテ其ヲ敢フテ斂ヲ盜ムガ如キ安易十ル觀測ハ許スベカラズ、然リト雖モ一歩踏込ンデ彼ノ協力ヲ觀察スレバ、自ラソコニ種々限界アリ

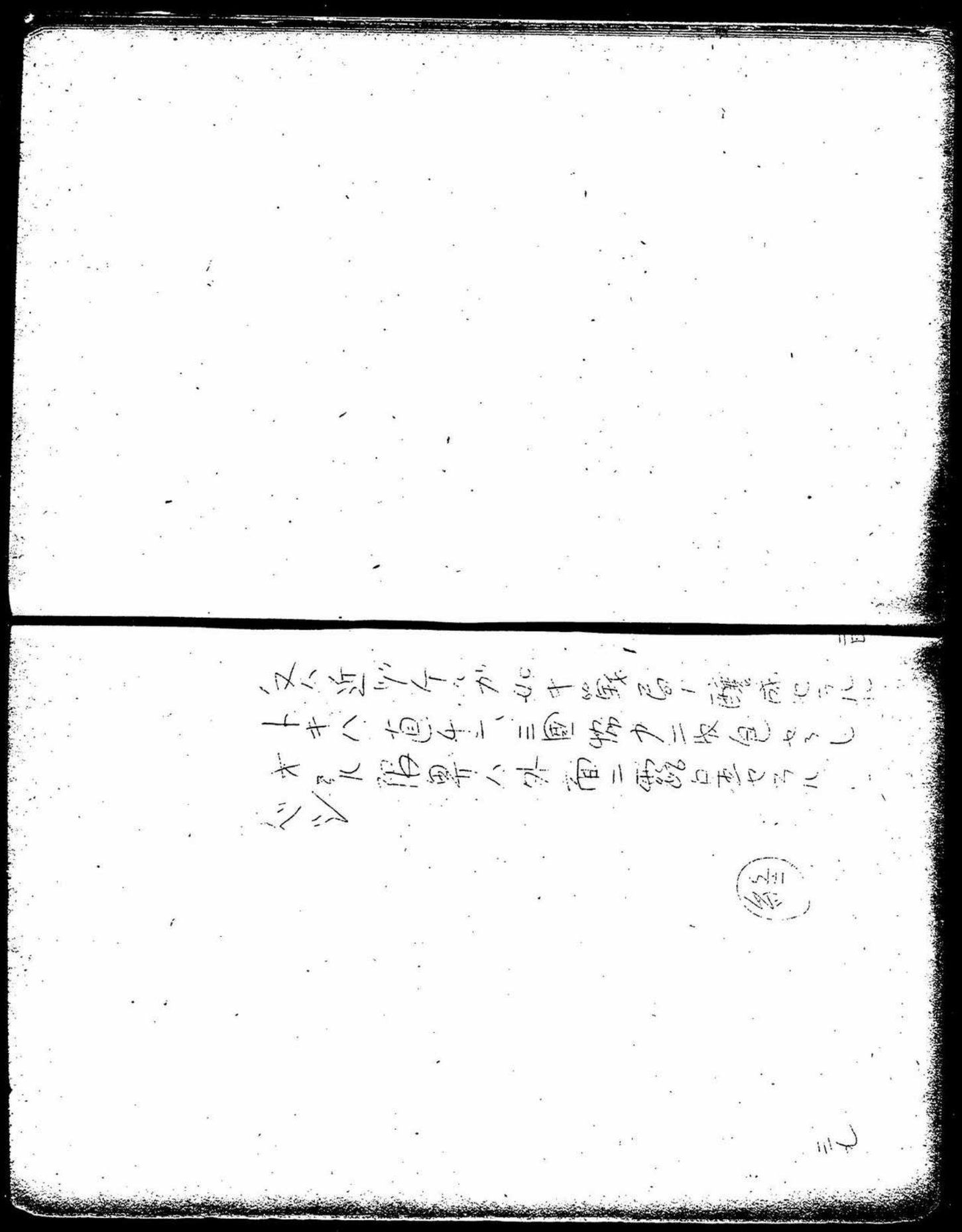
殊ニ米英對蘇ノ関係ニハ、本質的ニ
既知シ得ザル系統ヲ有シ成色ニ乏シモノアル
ヲ見ル

二、概括的ニ述ベバ

イ、十年秋迄及フアラレタル印象ノ折衝ト言フ目標ニ成ノ為ニ彼等ノ全体的協力ハ、効果的ニ遂行セラレ公算大ナリ

ロ、但シ前期記目標ノ達成迄ワクチン

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

SA #12 Doc I

Box

Fr. # 24A

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/